

令和5年度 いんざいの教育



印西市教育委員会

はじめに

3年以上にわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、本年5月8日より感染症法上の分類で二類から五類へ移行し、市民生活上の活動制限等はなくなりました。それにより、学校や公民館等教育施設において、コロナ禍以前に近い形で行事等が実施できるようになりました。

ここ数年来、市内小中学校は大規模化と小規模化が同時に進行しており、その対策として「学校適正規模・適正配置基本方針(改訂版)」により推進しているところですが、千葉ニュータウン印西地区の地理的な優位性や地盤の堅牢性等により、千葉ニュータウン中央駅及び印西牧の原駅周辺の住宅人気が高まり、子育て世代の流入が加速しているため、小学校及び中学校の大規模化と小規模化の差が、一段と広がってきています。そこで現在、「第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針」を策定しているところです。

本年度の主な施策として、国のGIGAスクール構想に沿い整備した、児童生徒一人1台のタブレット型コンピュータを活用した授業を推進しています。これまでの授業スタイルを大きく変換させ、より主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりができるようになりました。

市の街づくりの目標として「住みよさを実感し、ずっと住み続けたい街」を標榜しています。市内には、新規転入の市民の方々が多くお住まいの新しい地区もあり、印西をふるさととして愛し、誇りをもつ心を育て、地域の一員としての自覚を高めるため、地域学「ふるさと印西学」を創設・推進しています。本年度より各小学校で、昨年度完成した小学校3年生用と5年生用の教材を使用し学習しています。

施設・設備面では、学校大規模化対策として、牧の原小の第2期校舎増築工事、原小の第3期校舎増築工事及び第2校庭の整備工事を行います。また、学校施設老朽化対策として、高花小の保全改修工事、原小体育館改修工事、大森小大規模改修工事の設計業務を行います。更に、児童生徒数の増加に対応するため、調理能力3,000食の新学校給食センターを建設中で、令和6年度からの稼働を予定しています。また、夏の暑さ対策として、小中学校の特別教室、配膳室及び体育館の空調整備計画を策定しているところです。

そうふけふれあいの里の大規模改修に伴い、教育センターを高花小学校施設内に、適応指導教室「緑のまきば」を中央公民館に、また、本埜公民館の改修工事に伴い「森のステーションまきば」を小林公民館に、それぞれ移転して運営することになります。

生涯学習や文化・芸術におきましては「印西市教育振興基本計画」に基づき、推進・振興に努めております。長年の懸案だった文化ホールの運営を、本年度から指定管理者制度に移行することができました。また、昨年から実施した「印西まちなか音楽祭」も、第2回目として拡大して開催することができました。更に、市の歴史文化施設の抱えている課題を解決するため、(仮称)印西市歴史文化施設基本計画を策定しているところです。

施設面では、老朽化対策として、小林公民館・図書館(コミュニティプラザ)、本埜公民館の改修工事及び小倉台図書館の大規模改修設計業務を行っています。また、印旛公民館の印旛支所との複合化にかかる実施設計、(仮称)千葉ニュータウン中央駅圏複合施設の整備工事を行っています。

以上のような印西市の教育施策や事務事業についてご理解をいただくため、「令和5年度いんざいの教育」を刊行いたします。皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年10月

印西市教育委員会教育長 大木 弘

目次

印西市の概要……………	1～2
教育施策の体系……………	3

教育行財政

教育委員会……………	4
組織……………	5
職員数……………	6
教育費予算……………	7～9
学校一覧……………	10

学校教育

《基本目標・主な施策》 ……	11
施策の概要……………	12～27

教育環境

《基本目標・主な施策》 ……	29
施策の概要……………	30～32
教育センター……………	33～34
学校給食……………	35～36
学校紹介……………	37～66

文化・芸術

《基本目標・主な施策》 ……	67
施策の概要……………	68～71
市史編さん……………	72
歴史資料センター……………	73
文化ホール……………	74～76
歴史民俗資料館……………	77

生涯学習・青少年健全育成

《基本目標・主な施策》 ……	79
施策の概要……………	80～86
公民館……………	87～97
地域交流館……………	98～100
図書館……………	101～104

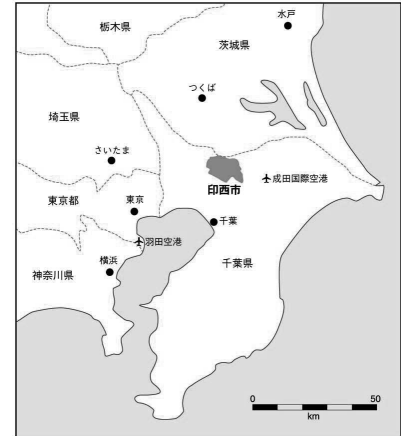
資料

歴代教育委員会委員及び教育長…	106～107
教育関係機関一覧表……………	108～109
教育委員会の沿革……………	110～111
各種審議会等一覧表……………	112～119

印西市の概要

<市の位置・地勢>

印西市は、千葉県の北西部、東京都心から約40km、千葉市から約20km、成田国際空港から約15kmに位置し、西部は柏市、我孫子市、白井市に、南部は八千代市、佐倉市、酒々井町に、東部は成田市、栄町に、北部は利根川を挟んで茨城県に接しています。市域は、北部を利根川、南東部を印旛沼、北西部を手賀沼に囲まれ、標高20～30m程の台地部と湖沼周辺の低地部から構成されています。台地部は、千葉ニュータウン事業により開発された市街地や山林、畑が広がっており、低地部は、恵まれた水辺環境により豊かな水田地帯が形成されています。また、台地部と低地部の境には、印旛沼や手賀沼などに流れ込む大小の河川の浸食作用によって枝状に形成された下総台地特有の谷津が広がり、里山と呼ばれる地域景観が見られます。



面積 123.79 km²
人口 110,502 人
世帯数 45,243 世帯
<令和5年5月1日現在>

<市の沿革>

印西市は、明治22年の市制町村制施行を受けて、木下町、大杜村（大正2年から大森町）、船穂村、永治村が誕生し、その後、昭和29年12月1日に、木下町、大森町、船穂村と永治村の一部が合併し、印西町となりました。平成8年4月1日には市制を施行し、平成22年3月23日に印旛村と本埜村を編入して現在に至ります。

旧印旛村は、明治22年の市制町村制施行を受けて、12の村々がそれぞれ6か村ずつ合併し、六合村と宗像村が誕生し、昭和30年3月10日にはこの2村が合併して印旛村が誕生しました。

旧本埜村は、明治22年の市制町村制施行を受けて、龍腹寺村など7か村が合併して本郷村に、下井新田など17の新田が合併して埜原村になり、その後、大正2年4月1日に2村が合併して本埜村が誕生しました。

<市章>



「印西」の文字を図案化したものであり、円は、市の融和を意味し、円満に力強く発展する姿を表している。（昭和55年10月1日町章として制定したものを市制施行時に市章とした。）

〈印西市民憲章〉 平成22年9月11日制定

わたくしたちの印西は、
ゆうゆうと流れる利根川、
水鳥飛び交う印旛沼、手賀沼に囲まれ、
緑豊かな田園と新旧の街並みが織り成す
調和のとれた美しいまちです。
わたくしたちは、先人の築いた歴史と伝統を受け継ぎながら、
輝かしい未来に向かって、
一人ひとりが主役となる元気なまちをつくるためにこの憲章を定めます。

- 1 美しいふるさとに誇りを持ち、環境にやさしいまちをつくります。
- 1 互いに助け合い、お年寄りや子どもを大切にし、安全で安心なまちをつくります。
- 1 ともに学び、教養を高め、文化の薫り高いまちをつくります。
- 1 スポーツに親しみ、健康で明るいまちをつくります。
- 1 働くことを喜びとし、進んで地域に参加する、活力のあるまちをつくります。

〈市のシンボル〉 平成22年9月11日指定



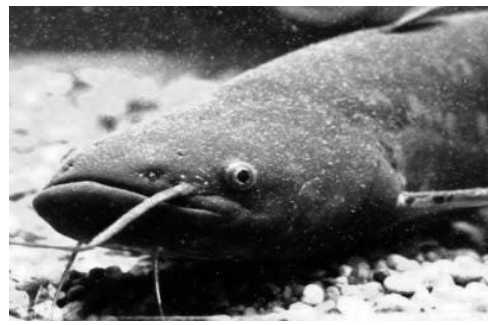
市の木「サクラ」



市の花「コスモス」



市の鳥「メジロ」

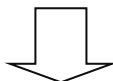


市の魚「ナマズ」

令和5年度教育施策

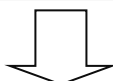
基本理念

だれもが輝き ともにはばたく いんざいの学び



基本方針

1. 学校・家庭・地域が連携強化し、未来を拓く子どもを育む教育の推進
2. 市民が学びあい・活かしあい、地域に誇りと愛着が持てる学びの推進
3. すべての市民の健やかな心と体を育む学びの推進



基本目標

- I 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕
- II 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕
- III 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する
〔文化・芸術〕
- IV 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる〔生涯学習・青少年健全育成〕

教育長及び教育委員



教育長
大木 弘



教育長職務代理人
寺田 充良



委員
鈴木 裕枝



委員
栢尾 知子



委員
豊田 光弘

役職名	氏名	任期(就任年月日)	役職の任期
教育長	おおき ひろし 大木 弘	令和4年10月1日～令和7年9月30日 (平成24年10月1日)	令和4年10月1日～ 令和7年9月30日
教育長 職務代理人	てらだ みつよし 寺田 充良	令和3年10月1日～令和7年9月30日 (平成25年10月1日)	令和5年2月1日～ 令和7年9月30日
委員	すずき ひろえ 鈴木 裕枝	令和2年10月1日～令和6年9月30日 (平成28年10月1日)	
委員	とちお ともこ 栢尾 知子	令和4年10月1日～令和8年9月30日 (平成30年10月1日)	
委員	とよだ みつひろ 豊田 光弘	令和5年10月1日～令和9年9月30日 (令和5年10月1日)	

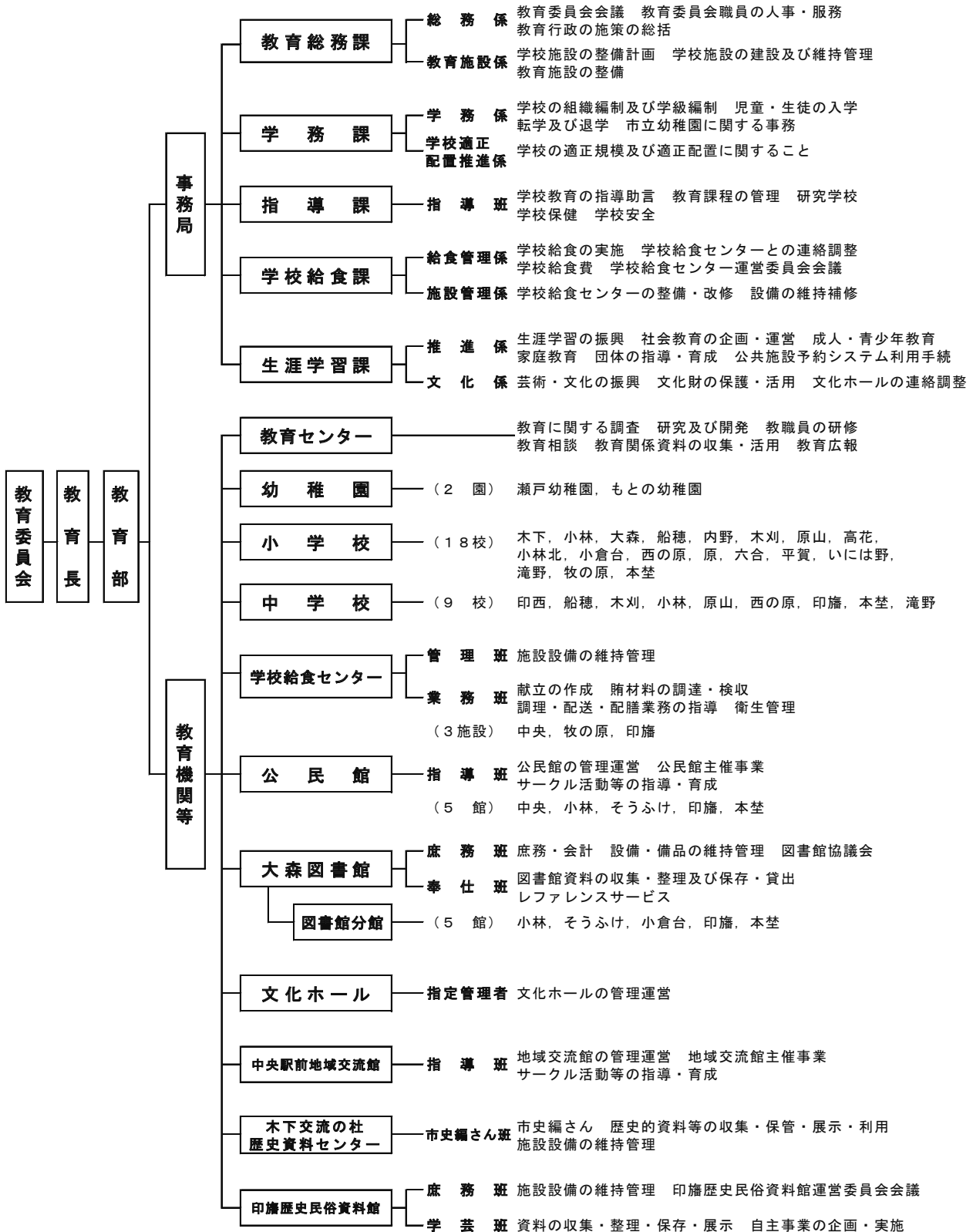
教育委員会議

教育委員会は毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。令和4年度の開催回数と付議案件は次のとおりです。

区別	定例会	臨時会	計
回数	12	2	14

件名	件数
・教育委員会の規則及び訓令を制定し、又は改廃すること。	16
・予算、条例その他議会の議決を要する事件の議案について、市長に意見を申出ること。	16
・附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること。	20
・教育功労者等を表彰すること。	2
・教科書その他教材の取扱いの方針を定めること。	1
・その他の事項	15
合計	70

組織及び事務分掌



教育行財政

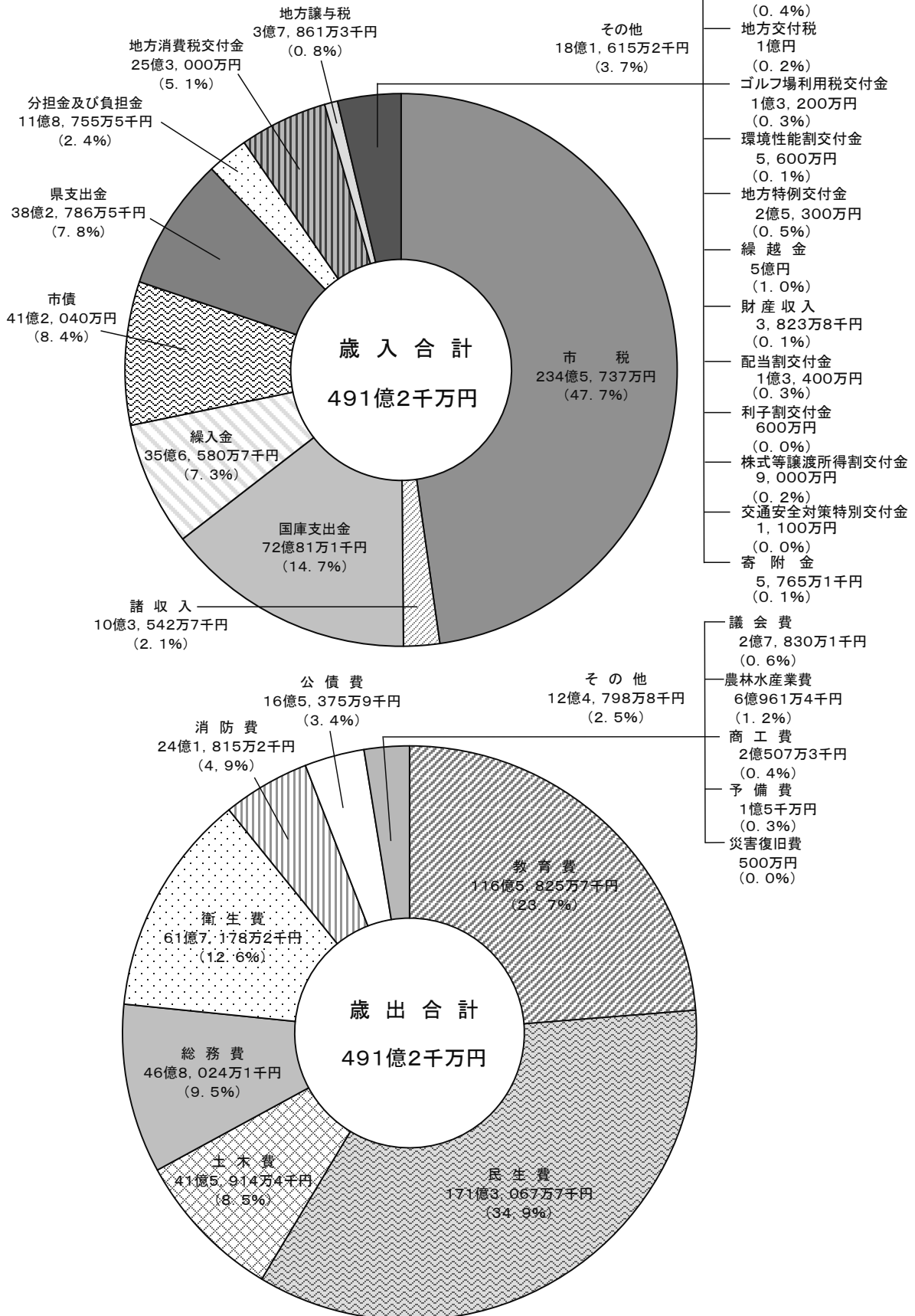
職員数

(令和5年5月1日)

課名等 職名	教育委員会	教育部	教育総務課	学務課	指導課	学校給食課	生涯学習課	教育センター	幼稚園	小・中学校	学校給食センター	公民館	図書館	文化ホール	中央駅前地域交流館	印旛歴史民俗資料館	木下交流の杜歴史資料センター	計
教育長	1																	1
教育部長		1																1
副参事		1		1	1													3
課長			(1)	1	1	1	1											4 (1)
館(所・園)長								1	2		3	5	1		1	1	1	15
主幹		1																1
課長補佐			(1)															(1)
副主幹					(1)							(1)			1 (1)			1 (3)
副(分)館(所)長													1 (5)					1 (5)
指導主事				2	7			5										14
係長			2	1 (1)		1 (1)	2											6 (2)
主査			3	3	(1)	2 (1)	2				1 (1)	6 (1)	10 (1)		3			30 (5)
主査補			1	1		2	1 (2)				(1)	1	1		(1)		(1)	7 (5)
主任主事			1		1	(1)	2				(1)	1 (4)	1		(1)	(1)		6 (8)
主事			2	1			1											4
主任学芸員							1											1
学芸員							1										1	2
主任技師			2															2
教諭									11 (2)									11 (2)
主任保健師					1													1
歯科衛生士					1													1
主任栄養士						1					(1)							1 (1)
栄養士						(2)					2							2 (2)
主任自動車運転手									1									1
技術作業員													(1)				(1)	(2)
主任用務員										2								2
計	1	3	11 (2)	10 (1)	12 (2)	7 (5)	11 (2)	6	14 (2)	2	6 (4)	13 (6)	14 (7)	0	5 (3)	1 (1)	2 (2)	118 (37)

※表中の()は再任用・兼務・事務取扱・併任となります。

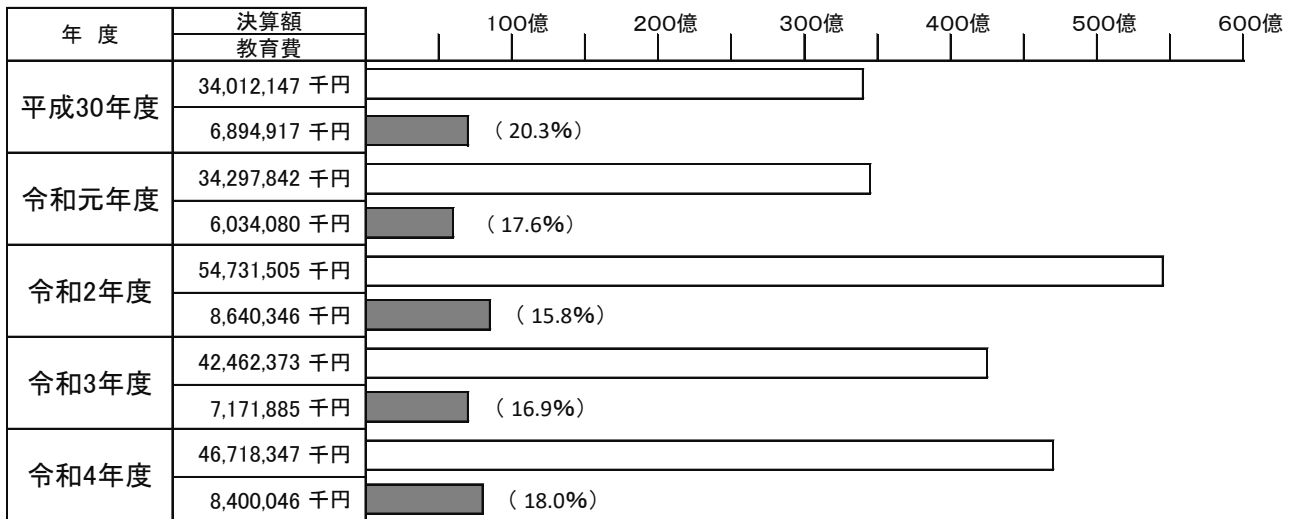
1 令和5年度一般会計当初予算



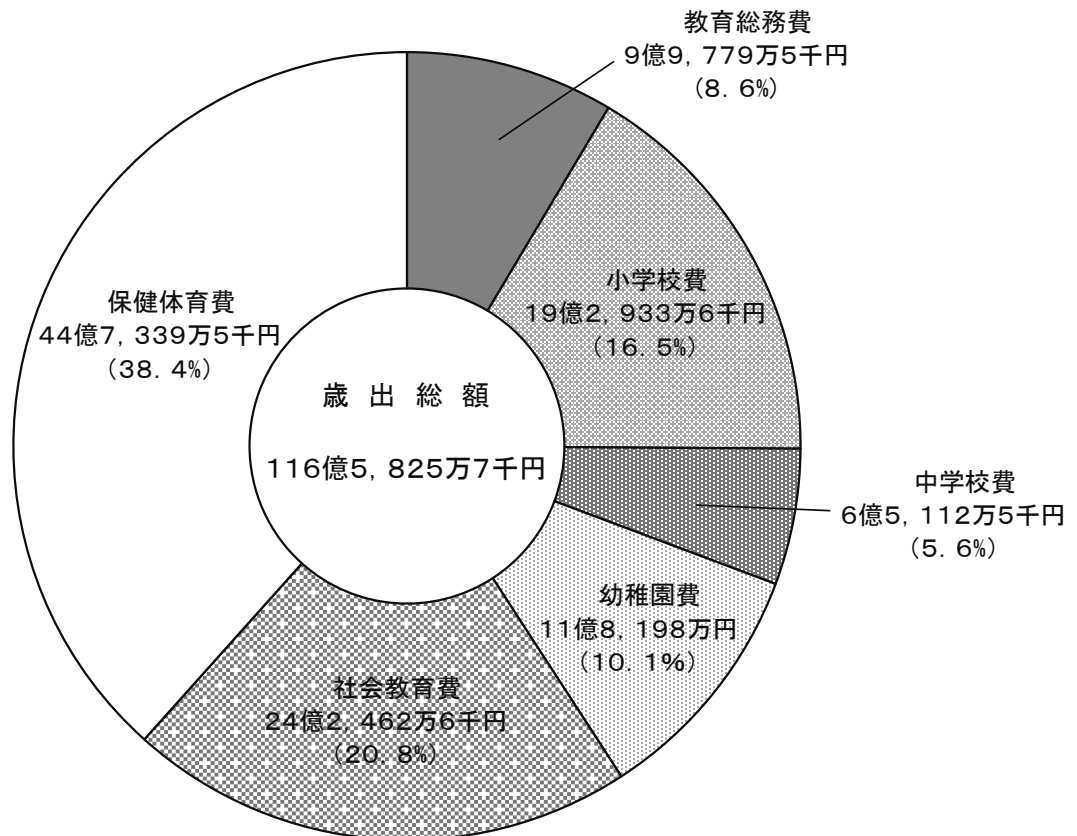
2 年度別市一般会計決算額と教育費

(単位:千円, %)

□ 決算額 ■ 教育費



3 令和5年度教育費予算の構成



4 令和5年度教育費予算

款 項 目	令和5年度	令和4年度	前年度比較	
	予算額 (千円)	予算額 (千円)	増減額 (千円)	増 減 率 (%)
9 教 育 費	11,658,257	8,208,377	3,449,880	42.0
1 教育総務費	997,795	805,494	192,301	23.9
1 教育委員会費	4,756	4,595	161	3.5
2 事務局費	502,719	431,946	70,773	16.4
3 教育研究指導費	274,585	244,596	29,989	12.3
4 教育センター費	215,735	124,357	91,378	73.5
2 小学校費	1,929,336	1,427,469	501,867	35.2
1 学校管理費	1,422,311	944,175	478,136	50.6
2 教育振興費	176,811	137,557	39,254	28.5
3 学校建設費	330,214	345,737	△ 15,523	△ 4.5
3 中学校費	651,125	1,825,583	△ 1,174,458	△ 64.3
1 学校管理費	379,319	1,565,303	△ 1,185,984	△ 75.8
2 教育振興費	128,014	95,158	32,856	34.5
3 学校建設費	143,792	165,122	△ 21,330	△ 12.9
4 幼稚園費	1,181,980	1,178,317	3,663	0.3
1 幼稚園費	1,181,980	1,178,317	3,663	0.3
5 社会教育費	2,424,626	1,148,080	1,276,546	111
1 社会教育総務費	136,157	121,337	14,820	12.2
2 青少年対策費	10,732	11,448	△ 716	△ 6.3
3 文化振興費	38,226	24,623	13,603	55.2
4 公民館費	1,693,457	516,322	1,177,135	228.0
5 図書館費	373,356	319,205	54,151	17.0
6 文化ホール費	135,173	129,650	5,523	4.3
7 資料館費	37,525	25,495	12,030	47.2
6 保健体育費	4,473,395	1,823,434	2,649,961	145.3
1 保健体育総務費	192,158	186,227	5,931	3.2
2 体育振興費	118,048	88,220	29,828	33.8
3 学校給食費	4,163,189	1,548,987	2,614,202	168.8
歳 出 合 計	11,658,257	8,208,377	3,449,880	42.0

5 市内小・中学校及び幼稚園の状況

(1) 小学校

(令和5年5月1日)

NO	学校名	所在地	TEL FAX	創立年月日	児童・生徒数			学級数		
					男	女	計	普通	特別支援	計
1	木下小学校	木下1502	42-2607 42-4000	明治6年2月	103	111	214	9	5	14
2	小林小学校	小林2448-2	42-4311 42-5625	明治7年7月15日	136	139	275	10	8	18
3	大森小学校	大森3350	42-2089 42-3438	明治26年7月14日	87	86	173	6	7	13
4	船穂小学校	船尾1292	46-0023 46-5774	明治6年3月	28	19	47	6	4	10
5	木刈小学校	木刈2-6	46-1755 46-1756	昭和59年4月5日	282	252	534	18	8	26
6	内野小学校	内野1-1	46-1781 46-1782	昭和59年4月1日	308	305	613	20	12	32
7	原山小学校	原山3-4	46-1701 46-1702	平成元年4月1日	149	104	253	12	7	19
8	小林北小学校	小林北5-1-5	97-1100 97-1103	平成3年4月1日	77	70	147	6	4	10
9	小倉台小学校	小倉台2-3	46-5711 46-5712	平成3年4月1日	582	550	1,132	32	11	43
10	高花小学校	高花2-4	46-6211 46-6212	平成3年4月1日	159	144	303	12	7	19
11	西の原小学校	西の原2-7	45-0150 45-0151	平成6年4月1日	334	309	643	20	11	31
12	原小学校	原3-5	45-8611 45-8613	平成8年4月5日	575	607	1,182	34	11	45
13	六合小学校	瀬戸1580	98-0006 98-0719	明治6年1月	30	34	64	6	3	9
14	平賀小学校	平賀1161-2	98-1151 98-0791	平成2年4月1日	41	45	86	6	3	9
15	いには野小学校	若萩3-9	98-2080 98-2082	平成12年4月1日	205	202	407	13	11	24
16	滝野小学校	滝野5-1	97-1977 97-2933	平成9年4月1日	274	241	515	17	13	30
17	牧の原小学校	牧の原3-1-1	29-5560 46-1800	平成27年4月1日	480	420	900	27	21	48
18	本埜小学校	中根1281-2	97-0035 97-2756	平成31年4月1日	39	38	77	6	5	11
	計				3,889	3,676	7,565	260	151	411

(2) 中学校

1	印西中学校	大森2244	42-3151 42-3649	昭和33年4月1日	125	115	240	7	9	16
2	船穂中学校	高花1-3	46-0021 46-2701	昭和22年5月	88	95	183	6	3	9
3	木刈中学校	木刈2-1	46-1751 46-1752	昭和59年4月1日	433	385	818	22	8	30
4	小林中学校	小林大門下1-4-1	97-3100 97-3101	平成2年4月1日	91	91	182	6	4	10
5	原山中学校	原山1-2	46-6911 46-6912	平成2年4月1日	134	144	278	9	7	16
6	西の原中学校	西の原1-3	45-0160 45-0161	平成6年4月1日	345	356	701	19	9	28
7	印旛中学校	舞姫2-1-1	98-0711 98-0772	昭和50年4月2日	170	158	328	9	6	15
8	本埜中学校	笠神250	97-0009 97-4663	昭和22年5月10日	14	8	22	2	3	5
9	滝野中学校	滝野5-2	97-1988 97-2944	平成9年4月1日	198	190	388	12	5	17
	計				1,598	1,542	3,140	92	54	146

(3) 幼稚園

1	瀬戸幼稚園	瀬戸1580	98-0434 98-1900	昭和51年	5	8	13	1	0	1
2	もとの幼稚園	中根1403-10	97-1010 97-0130	平成7年	113	88	201	9	0	9
	計				118	96	214	10	0	10

基本目標

I 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、
生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む

(学校教育)



▲地域の方の協力による稲作（田植え）体験（船穂小）

はじめに

子どもたちの「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習指導要領も定着してきた。各学校も自校の課題を明確にして、より高い成果のために努力をしている。

児童生徒が学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、学習指導要領の確実な実施に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が図られている。また、コンピュータ等を活用した学習活動や外国語教育、子どもたちの発達に応じた支援等の幅広い教育の充実が求められている。

このような中で、子どもたちが心豊かで健やかに成長することを願い、個性豊かな人間形成と、生きる力の育成をめざす学校教育を展開する。

(1) 子どもたちの学ぶ力を育む**①個性や能力を伸ばす教育の推進**

印西市内の小・中学校では、学力向上に向けて、基礎学力向上のための取組の推進、指導方法の工夫・改善、ICTを活用した授業づくり等に取り組んでいる。

各学校ではドリルタイム（朝学習）等の時間を設定し、読書や漢字力・計算力の向上など、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図っている。算数・数学や英語等での少人数指導や学級編制の弾力的運用を通してきめ細かな指導、小学校の専科指導等を行うため、県費教員13人を小・中学校に配置している。

また、全教職員が授業力の向上と生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の展開をめざし、学習指導案を作成して授業研究を行っている。授業の中では共感的人間関係を基盤に、自己存在感を持たせる場面や自己決定の場면을重視する等、生徒指導の機能を生かした学習指導の充実を図っている。併せて、学習指導要領の確実な実施に向けて「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいる。

**▲研修を通して学習指導の充実を図る**

さらに各学校では、千葉県教育委員会の学習サポーター事業を活用するとともに、学校支援ボランティア、学生ボランティア（順天堂大学、秀明大学、日本医科大学附属看護専門学校と連携）の積極的な活用や、秀明大学等と連携した教職インターンシップ（あすなる先生事業）を実施するなど、児童生徒へのきめ細かな指導・支援に生かしている。

②教職員研修（主任・層別等）の充実

ベテラン教員の大量退職と経験の浅い教員の急増により、学校現場における研修の充実は喫緊の課題である。印西市教育委員会では、教職員の研修の機会を最大限に生かすべく、各研修会への支援をしている。

また、印西市教育センターにおいて、若年層とりわけ講師向けの研修会を開催し、指導力向上に向けて支援の充実を図っている。

【臨時的任用・非常勤講師対象研修会】

期日 令和5年 4月19日(水)
 5月16日(火)
 6月14日(水)
 10月11日(水)
 11月15日(水)

講師 印西市教育委員会指導主事



▲講師研修会での指導・助言

③指導法等の研修の充実

小・中学校や幼稚園においては、学習指導要領の趣旨や内容に則った実施のため、指導計画の作成や指導方法の工夫改善等について研修を行っている。また、小・中学校の全教職員は年に1回以上、作成した学習指導案をもとに授業実践を行っている。

市教育センターの夏季研修では、教科指導に係る研修のほか、ICTを活用した情報教育・プログラミング教育、人権教育、特別支援教育、教育相談、地域学等から今日的な教育課題に対応した研修を選択し、実施している。



▲夏季研修会

④校内研修の支援

各学校の校内研修会では、研究主任等を中心として各教科等の理論及び実践的な研修を行っている。授業研究を中核とし、児童生徒の実態に応じた適切な指導のあり方や、授業におけるICT活用の方法などについて研修を深めている。印西市教育委員会では、要請に応じて指導主事を学校に派遣し、指導方法や教材教具の工夫、評価のあり方等の指導助言にあたるるとともに、印西市教育センターでは授業相談支援として、日常の授業に対してのきめ細かな支援をしている。

また、初任者研修、2年目研修、3年目研修、中堅教諭等資質向上研修、専門研修等の経験者研修については、千葉県教育委員会と連携して推進している。新規採用教員を対象とした初任者研修については、各学校で校内指導教員を中心とする指導助言による研修(週7時間、年間210時間)を受けるとともに、校外においては千葉県総合教育センター等における研修(年間15日)を受けている。

⑤教育課題調査・研究・開発

時代の要請を的確につかんだ教育課題、組織、体制づくり等、教育の機能向上及び各学校の効果的な研究推進を図っている。

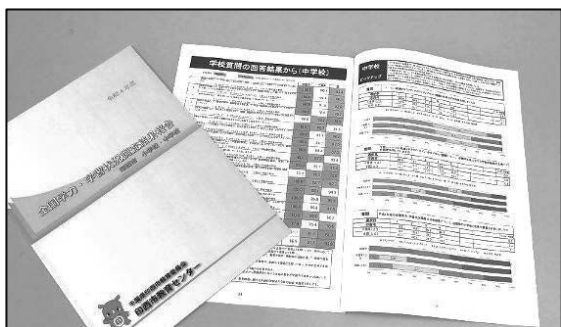
学校教育 施策の概要

また、教育課程の編成や指導技術、指導法の工夫改善により、児童生徒の学習効果を高めるための調査・研究及び教材等の開発事業を行っている。

<調査・研究>

【全国学力・学習状況調査】

全国学力・学習状況調査の結果を受け、印西市として独自に分析・考察をしている。考察に基づく重点的に指導したい内容等を結果報告書にて各学校に示し、指導の改善につなげている。また、教育センターのHPに概要を公開している。



▲全国学力・学習状況調査結果報告書

【学力状況調査】

印西市の児童生徒の学習の状況を把握するため、学力調査を実施している。調査機関による詳細な分析・考察を通して明らかになった課題を市内で共有し、授業改善につなげている。

【体力・運動能力調査】

体力・運動能力調査の結果から児童生徒の現状について分析し、指導の改善に生かしている。

<研究・開発>

印西市教育センターを中心に、漢字や計算の学習コンテンツ及び社会科副読本や外国語教育に対応した評価テストを開発・運用し、基礎学力と学習意欲の向上を図っている。

【漢字級別認定テスト 印西漢字マスター】

小学校3年生から中学校1年生までを対象とし、漢字力を高め、自主的に学習する態度の育成をねらいとして開発・運用している。毎回4,000名以上の受検者がいる。

【計算検定 印西計算マスター】

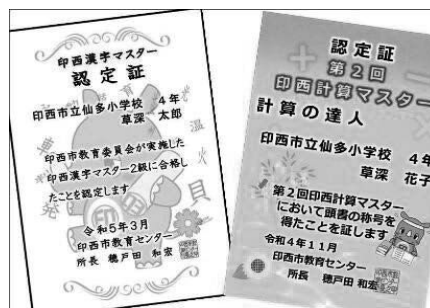
小学校3年生から6年生までを対象とし、計算力を高め、自主的に学習する態度の育成をねらいとして開発・運用している。毎回4,000名以上の受検者がいる。

【社会科副読本】

小学校中学年の社会科で学習する地域教材の副読本「わたしたちの印西市」の作成とともに、副読本に即したワークテストを開発・運用している。

【外国語教育検討委員会】

小・中学校の外国語教育に対応した評価テスト「印西英語マスター」の開発・検証や小中連携の取組の支援等を行っている。



▲「印西漢字マスター」「印西計算マスター」認定証

<特色ある教育活動への支援>

個性や能力を伸ばし、次世代を担う印西の児童生徒の生きる力を育成するために、各学校の特色ある教育活動を推進している。

- 授業時数特例校（原山小）
- 地域における食育指導推進事業 食育指導推進拠点校（いには野小）
- 千葉県学校体育研究大会授業実践校（牧の原小・滝野中）

- パラアスリート等学校訪問事業実施校（木下小）
- 教科等の指導における ICT 活用・情報教育推進校（全小中学校）
- 小学校外国語教育推進校（内野小・原山小・高花小）
- 環境教育（SDGs）推進校（原山小）

⑥教育研究団体支援事業

印西市における研修の中核をなすのが、市教育研究会の活動である。この研究会は、各小・中学校の課題を持ち寄り、解決に向けて継続的な研究協議を重ね、その成果を児童生徒に還元することを目的としている。

印西市教育委員会では、指導主事の派遣等を通し、研究会を支援している。

⑦幼児教育の充実

幼児教育についての学習機会の充実に向けて、千葉県教育委員会と連携し、幼児教育に関する様々な情報提供を行うとともに、研修事業の紹介をしている。

また、小・中学校との連携として、各種行事や職場見学・職場体験を通して、幼稚園児と小・中学生が交流を図るとともに、各種の連絡会や研修会で、教職員同士の連携を図っている。

幼児の発達段階を踏まえた、個に応じた教育を推進している。職員の質の向上も図り、特別支援教育研修会等への参加を奨励している。園内研修等を実施し、園児の実態に応じた適切な指導や環境づくりを行えるようにしている。子ども発達センターや保健センター、各事業所等と連携を図ったり、コスモスファイル（ライフサポートファイル）を活用した早期就学相談を実施したりしている。

⑧読書活動推進のための学校図書館の整備

読書活動は、感性を磨き、豊かな人間性を培うために、欠くことができないものである。各学校では、学校司書や学校支援ボランティア、保護者等と連携を図りながら、読書活動を推進している。具体的には、朝の読書タイムの設定や読み聞かせ、学校図書館の活用の活性化を図る工夫、読書環境の整備等により、児童生徒の読書意欲の向上を図っている。

また、情報を収集し活用する能力を育成していくために、図書資料を積極的に活用する授業が行われている。

問題解決的な学習や探究的な学習等、児童生徒の主体的な学習に対応できる図書資料の整備を進めるとともに、古い蔵書については廃棄し、各校の蔵書率が92%から98%となるよう、取り組んでいく。

⑨市立図書館との連携事業の開催

小・中学校の学校図書館担当者、学校司書及び市立図書館司書等で、円滑で効果的な読書活動推進の方法等について研修及び情報交換を行っている。また、読書指導や各教科及び総合的な学習の時間等において活用する資料の確保についても、市立図書館から団体貸出の協力を得ている。



▲学校図書館担当者会議

ネットワーク型学校図書館システムを導入し、蔵書検索機能を活かした図書資料の

学校教育 施策の概要

有効活用を図っている。また、学校間貸出を行い、全小・中学校を一体化した蔵書の有効活用と児童生徒の学習活動や読書活動の活性化を図っている。

⑩国際理解教育の推進

国際社会に生きる児童生徒にとっては日本人としての自覚を持ち、自国の文化や伝統の理解を深めながらも、異なる文化や伝統を持つ世界の人々と共生できる資質・能力を身に付けることは必要不可欠である。

印西市では、特に英語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めている。

小・中学校へ週1～5日、幼稚園へ月1回、外国人指導助手（ALT）を配置し、主に授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。

夏休みには、イングリッシュアカデミーホップ・ステップ（英語の体験活動研修）を開催している。児童は海外とのオンライン交流など、様々な活動を通して、外国の言語や文化に多く触れることができる。また、中学生を対象としたイングリッシュアカデミー ジャンプでは、6泊7日の日程でオーストラリアでのホームステイや交流学校の授業参加等を通じて、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

その他、国際理解教育担当者研修会を開催し、ALTの効果的な活用や小・中学校の連携についての情報・意見交換等を行い、

外国語活動のあり方や外国語指導について研修を進めている。



▲イングリッシュアカデミー

⑪特別支援教育及び支援体制の充実

特別支援学級は、障害のある児童生徒一人一人に応じた教育を行うため、必要に応じて小・中学校に設置される少人数の学級であり、小学校に65学級（知的障害学級37，自閉症・情緒障害学級28），中学校に23学級（知的障害学級13，自閉症・情緒障害学級10）が設置され、462名の児童生徒が在籍している。さらに、3教室を設置している言語障害の通級指導教室には、通常の学級での学習に概ね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童が通級している。また、栄特別支援学校の巡回による肢体不自由児への指導、千葉聾学校による牧の原小学校での通級指導サテライト教室での聴覚障害への指導を行っている。

特別支援学級では、児童生徒の発達段階、能力、障害の状態、特性等に合わせた特別の教育課程を編成している。これを実施するにあたっては、児童生徒の実態に合わせた指導目標や内容・方法を具体化した個別の指導計画に基づいて指導をしている。多くの特別支援学級では、児童生徒の社会性を育て、好ましい人間関係を育てる視点から、通常学級の学習に参加する交流学习を教育的ニーズに基づいて実施している。

通常学級においても、特別な配慮を要する児童生徒が在籍しているため、通常学級、特別支援学級の枠を取り除いて、より柔軟に対応できるように、学習指導員と介助員を91名配置している。

⑫教育支援の推進

児童生徒の障害の程度から就学する学校等を決定するために、年間を通して就学相談を行っている。未就学児については、保護者に対して学校の状況や支援の内容等の情報提供に努めたり、保護者の意見等を考慮しながら学校見学や体験等を実施したりすることで、指導の充実を図っている。併せて、市では年4回の教育支援委員会を開催し、総合的な見地から判断して就学先の決定ができるようにするとともに、各学校の校内委員会と市の教育支援委員会の連携を強化し、教育上特別な支援を要する児童生徒に適切な就学指導が行われるよう努めている。

さらに、就学前から卒業後の就労までの一貫した相談体制を構築するために、関係各課（障がい福祉課・健康増進課・保育課・子育て支援課・指導課）及び関係機関との連携を軸とした具体的なネットワーク作りに取り組んでいる。



▲特別支援教育研修の様子

⑬キャリア教育の推進

印西市生き生き体験事業では、市内外の多数の事業所の協力のもと、市内の中学2年生が9月下旬から12月上旬の間に職場体験を実施している。

この事業は、学校では味わえない体験ができることだけでなく、地域の方との触れ合いを通して自らの生き方を考えたり、地域社会の一員である自覚を高めたりする上で、大きな成果をあげている。

また、小学校では、各学校の実状に合わせ、職場見学及び体験活動をキャリア教育の一環として、全学校で実施している。

(2) 子どもたちの豊かな心を育む

子どもたちの豊かな心の育成のための情操教育を重視し、道徳教育(倫理的情操)や心の教育(芸術的情操)の充実を進めている。また、児童生徒理解と教育相談の充実により、いじめや不登校などへのきめ細かな支援と組織的な対応に努めている。

①道徳教育の充実

印西市では、道徳科の授業を要とし、教育活動全体を通して道徳教育を推進している。道徳教育授業実践研修会を実施し、各学校の道徳教育の核となる教員の育成と資質向上を進めている。新学習指導要領に即して授業実践をし、指導力向上をねらいとした研修を行っている。

各学校では、道徳教育に関する学校の全体計画、学年の年間指導計画を立て、授業を実践するとともに、千葉県教育委員会で作成した道徳映像教材は年間指導計画に位置付けて活用している。



▲豊かな心を育む道徳授業

②人権教育の推進

印西市では、次の3点を重点目標として、人権教育を推進している。

- 人権を尊重する教育活動を推進し、人権教育の日常化を図る。
- 教職員の人権に対する意識を高め、指導力・実践力の向上を図る。
- 学校、家庭、地域、関係機関との連携を図る。

各学校においても人権教育の全体計画

と年間計画を策定し、計画的・継続的・組織的に推進を図っている。また、いじめに関するアンケートを定期的の実施し、これに基づいた教育相談を実施している。

③文化・芸術体験事業の充実

<さわやかハートフルコンサートの開催>

小学校5年生と中学校代表生徒を対象に、さわやかハートフルコンサートを開催し、音楽を愛好する心や豊かな情操の育成を図っている。

【さわやかハートフルコンサート】

期日 令和5年10月25日(水)
～27日(金)

会場 印西市文化ホール

対象 小学校5年生・中学校代表生徒等

<小学校芸術鑑賞教室の開催>

小学校6年生の児童を対象に、小学校芸術鑑賞教室を開催し、狂言や落語などの古典芸能を味わい、日本の伝統芸能についての理解を深め、それらを尊重する態度の育成を図っている。

【小学校芸術鑑賞教室】

期日 令和5年12月13日(水)
～15日(金)

会場 印西市文化ホール

対象 小学校6年生児童

内容 狂言・落語



▲小学校芸術鑑賞教室

④体験活動の推進

＜奉仕等体験活動の実施＞

奉仕活動など児童生徒の直接体験は、総合的な学びの機会となるばかりでなく、豊かな心の育成や望ましい人間形成に資するものである。

各学校では、福祉施設での交流や手伝い、地域の美化作業等を教育計画に位置付けて実施している。

＜自然科学体験学習等の実施＞

「ひと まち 自然」が調和し、豊かで安心できる環境で暮らせるまちをめざす印西市には、里山に代表される豊かな自然環境が存在する。教育活動においても、こうした恵まれた自然環境を活用して様々な体験学習を行っている。

印西市教育センターでは、施設や周辺の豊かな自然環境を活用し、市内在住の親子を対象に自然科学体験学習を行っている。印西市教育センター改修工事に伴い例年より回数を減らすが見込まれるが、里山観察（春）と科学体験、年2回の講座を予定している。

＜みどりの少年団活動の推進＞

平成13年度、北総花の丘公園開設を記念して、市内小・中学校全校で「印西市みどりの少年団」を結成した。各学校では、みどりの少年団活動を通して、奉仕等の体験活動を積極的に教育課程に位置付け、道徳科や特別活動、総合的な学習の時間との関連を図りながら推進している。



▲自然科学体験学習（里山観察会）

⑤郷土愛を育む教育の推進

各学校に「歴史資料室」を設置し、その活用を図っている。これは、学校や地域の歴史に関する資料を展示する部屋やコーナーを設置し、児童生徒、保護者、地域の方々が閲覧できるようにしたものである。

歴史の古い学校、新しい学校と違いはあるが、それぞれに工夫し、児童生徒の母校を愛する心、地域を大切にすることを育てることをねらいとしている。併せて、保護者や地域の方々が集まったときの共通話題をつくり、地域とともに歩む、開かれた学校づくりの一助となっている。

令和4年度から、小・中学校の教育課程に郷土愛を育む教育として「ふるさと印西学」を取り入れている。「ふるさと印西学」とは、子どもたちが大人になったときに印西を「ふるさと」と思うことができるようになる学習である。市内小・中学校の教員により指導案を作成し、授業実践していく。今後も印西を題材に新たな教材を開発していき、令和7年度には小学校への副読本の配付を予定している。

⑥適応指導教室事業の推進

＜適応指導教室の充実＞

不登校で悩んでいる児童生徒や保護者を支援し、自我の確立及び集団生活への適応を図り、学校復帰の足がかりとなるように、平成7年度に印西市適応指導教室「緑のまきば」を印西市教育センター内に設置した。また、令和3年度に「森のステーションまきば」を本埜公民館内に開設した。

まきばでは、施設周辺に広がる草深地区の自然を生かしたフィールドワークや野菜づくりをはじめ、校外学習やチャレンジスポーツなどの集団活動や行事を通して、心の教育を推進している。また、個別指導による学習時間を確保し、学校への登校復帰を

目指している。



▲緑のまきば クッキング

＜適応指導教室連絡会の実施＞

通室する児童生徒の学校復帰を目指し、在籍学校と情報共有を図る場として、必要に応じて連絡会を実施している。

保護者同士が情報交換をしたり、悩みへの支援・助言をしたりする場として、学期に一回、保護者会及び個人面談（対保護者・対児童生徒）を実施している。

⑦教育相談の充実

＜面接相談・電話相談の充実＞

交友関係の悩み、登校渋り、学校への不適應、問題行動等の教育全般について児童生徒、保護者、教職員の悩みに対応するために相談窓口の充実を図っている。

【印西市教育センター相談室】

相談員が電話や面接での教育相談を実施する。

【指導主事の電話・面接による相談】

随時、教育相談を実施する。

【子ども相談室】

教育相談員や指導主事が電話・面接での教育相談を実施する。

＜不登校児童生徒等の相談の充実＞

不登校、いじめの問題は、社会問題となっている。印西市においては、情報交換や教育相談の研修を充実させることで、心を育てる教育の推進を図っている。

指導主事による学校訪問では、情報交換

で問題を把握し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応・早期解消に努めている。

＜関係機関との連携＞

相談内容によって、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、不登校児童生徒支援チーム、医療機関等と連携し、解決に向けて支援している。様々な観点からの情報交換や関係機関との情報共有を行っている。

＜訪問指導の充実＞

各学校の要請により、担当指導主事やスクールアドバイザーが訪問し、関係者への相談にあたる。

＜スクールカウンセラー等の活用＞

市内全小・中学校27校に配置されており、児童生徒や保護者の相談を受けている。

一人でも多くの児童生徒の心に寄り添うことができるよう体制づくりを進めるとともに、家庭や地域の教育力を生かした実践を進めている。

＜学校の諸問題に対する助言・指導＞

学校の諸問題について広い視野を持ち、総合的見地に立って指導・助言できるスクールアドバイザーを2名配置し、学校からのニーズに応えるようにしている。

【主な支援内容】

- いじめ防止対策の支援
- 不登校対策の支援
- 児童虐待防止対策の支援
- 教育相談・適応指導教室に関わる支援
- 保護者等対応の支援
- 教育センター事業への支援
- 管理職及び教職員等の教育実践上の相談への対応等

(3) 子どもたちの健やかな体を育む

①学校体育の充実

体力・運動能力調査では、令和4年度については、種目別にみると、握力や長座体前屈（柔軟性）、50m走（スピード）は全国レベルより高い傾向にある。一方、上体起こし（筋力・筋持久力）、反復横跳び（敏捷性）、20mシャトルラン（全身持久力）、ボール投げ（投球能力・巧緻性・瞬発力）は、低い傾向が見られる。昨年度と比較すると全国平均に達している種目が大幅に増加した。

体育学習においては、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指し、各種運動の特性に応じた運動理解や技能習得を重視することが求められる。各学校では、児童生徒の実態を考慮しながら、学習内容の確実な定着を図るため、ねらいや課程を明確にした授業づくりに取り組んでいる。



▲中学3年生 バレーボール

＜体育主任会議，体育科研修会の開催＞

中学校は年1回，小学校では年4回の体育主任会議及び研修会を開催し，学校体育経営，体育主任の役割，体育学習の見直し・改善，体力向上に向けた取組，武道学習，体育行事等に関する見識を深めている。

＜小学校駅伝競走大会の開催＞

各小学校の代表選手による駅伝競走大会を開催し，運動に親しむ資質・能力の育成及び体力の向上を図っている。

【第17回印西小学校駅伝競走大会】

期日 令和5年11月29日（水）

会場 松山下公園

＜大会等での順天堂大学との連携強化＞

小学校駅伝競走大会においては，選手児童との伴走や大会運営等での連携を図っている。

②運動部活動の充実

市内中学生の部活動加入率（文化部加入生徒も含む）はここ数年90%弱で推移し，多くの生徒が部活動に取り組んでいる。市教育委員会では，中学校部活動の適切な運営と合理的かつ効率的・効果的な活動の推進を目的に以下の事業に取り組んでいる。

＜部活動サポート事業による指導者派遣＞

専門的な知識や経験を持ち，生徒への技術指導ができる部活動サポーター（外部指導者）を各中学校に派遣している。

＜部活動補助金交付事業による経済的支援＞

生徒が行う部活動に要する経費に対し，予算の範囲内において，印西市補助金等交付規則及び印西市中学校部活動補助金交付要綱に基づき補助金を交付している。

③健康教育の推進

幼児児童生徒及び教職員の健康保持増進を図るため，健康教育に必要な教材を整備し，保健指導の充実を図る。医師や助産師，警察関係者等の外部講師を活用し，いのちの授業や性に関する保健指導，薬物乱用防止教育等の充実に努めている。

④学校保健会の活動の充実

学校保健会は，学校医，学校歯科医，学校薬剤師，校長，保健主事，養護教諭，栄養教諭，栄養士等167名で構成されている。

全体及び各部会の研修会を開催し，学校保健の推進及び調査研究に努めている。ま

学校教育 施策の概要

た、「印西市の学校保健」と「学校保健会報」を発行し、健康教育の普及を図っている。

⑤健康診断の実施と事後措置の徹底

学校保健安全法に基づき健康診断を実施する。健康診断により健康状態を把握し、計画的な保健指導に努めている。

<令和5年度健康診断・保健指導事業計画>

月	事業名	対象
4～6	定期健康診断 (内科・眼科・耳鼻科・ 歯科)	幼・小・中
	尿検査	〃
	運動器検診	小・中
	小児生活習慣病予防 検診	小5 中1.3
	心電図検査	小1.5 中1.3
	脊柱側弯症検診	小5・中1 有所見者
	結核検診	小・中 教職員
7～8	教職員定期健康診断	教職員
	胃疾患・大腸疾患検診	〃
10～11	就学時健康診断	就学前児
5～3	歯科保健指導	幼・小・中
6～11	小児生活習慣病予防 教室	小・中
7～3	いのちの授業・性に 関する指導	小・中

⑥小児生活習慣病の予防

小児生活習慣病予防検討部会を開催し、検診結果や事後指導について検討している。また、養護教諭、栄養教諭等による予防教室・事後指導を実施し、小児生活習慣病の予防に取り組んでいる。

⑦口腔衛生事業の推進

学校歯科保健検討部会を開催し、歯科健診結果や事後指導、歯科保健指導について検討している。また、学校歯科医や歯科衛生士による歯科保健指導を実施し、歯と口の健康の推進に努めている。

⑧保健室機能の充実

児童生徒の心身の健康の保持増進を図るため、保健室のカウセリング機能の充実を図っている。

⑨学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底

児童生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、環境衛生検査を実施し、学校環境の改善に努めている。また、感染症拡大防止を図るため、ガイドライン等に基づいた適切な消毒や清掃を実施している。

(保健データ25～27頁を参照)

⑩食に関する指導の推進

児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、心身の健全な発達を図るために、学校給食を通じた食育を推進している。

全小・中学校では、「印西市食育ミニマム」や各学校の「食に関する指導全体計画」に基づき、教科・領域との関連を踏まえ、計画的、継続的、組織的に指導にあたっている。また、栄養教諭や学校栄養職員と教職員が連携した授業等を小・中学校で実施し、児童生徒の健康維持・増進に努めている。

<食に関する指導事業計画>

月	事業名	対象
4～5 9～11	栄養教室	小1.3 (全校)
6～11	生活習慣病予防検診 事後指導授業	小5・中1 (全校)

随時	食育の授業	小 2. 4. 6 (希望制)
随時	食に関する指導	小・中 (全校)

⑪学校給食の充実

成長期にある児童生徒の健康の増進，体力の向上を図るために，バランスのとれた栄養豊かな学校給食を提供し，食育の生きた教材として日々活用している。栄養教諭や学校栄養職員による献立の工夫と改善や食物アレルギーの対応にも努めており，中央学校給食センターでは対応給食（卵・乳の除去食）の提供を令和元年度より開始している。



**▲栄養士による食に関する指導
(小学校)**



**▲栄養士による食に関する指導
(中学校)**

学校教育 施策の概要

令和4年度体力・運動能力調査一覧（全国比較）

【男子】

種目	校種	小学校						中学校		
	学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3
握力 (kg)	全国	9.24	10.74	12.73	14.39	16.90	19.77	24.53	30.39	34.65
	印西市	10.11	12.02	13.51	15.69	19.22	22.02	25.71	29.77	33.94
	評価	5	5	4	5	5	5	4	3	3
上体起こし (回)	全国	12.05	13.86	15.73	17.98	19.94	21.65	23.92	27.31	28.96
	印西市	12.38	15.19	16.55	19.52	21.66	22.38	21.53	25.33	27.52
	評価	3	4	3	4	5	4	1	1	2
長座体前屈 (cm)	全国	26.39	28.61	30.34	31.78	33.37	35.78	40.98	44.80	47.81
	印西市	28.38	29.08	34.80	35.66	36.77	39.19	38.15	44.58	49.52
	評価	5	3	5	5	5	5	2	3	4
反復横跳び (点)	全国	28.28	31.65	34.95	39.43	42.83	45.86	49.69	53.77	56.28
	印西市	29.76	33.97	37.19	39.83	45.75	46.94	48.46	51.72	55.13
	評価	4	5	5	3	5	4	2	2	2
20m シャトルラン (回)	全国	18.92	28.40	36.45	44.27	52.45	61.16	70.58	86.88	94.44
	印西市	21.69	30.67	31.83	43.50	53.66	60.97	71.84	83.36	88.19
	評価	4	4	2	3	3	3	3	2	2
50m 走 (秒)	全国	11.33	10.55	10.07	9.59	9.24	8.84	8.38	7.78	7.41
	印西市	11.20	10.53	9.90	9.46	8.77	8.59	8.28	7.73	7.46
	評価	4	3	4	4	5	5	4	3	3
立ち幅跳び (cm)	全国	117.03	127.19	136.77	147.73	155.86	166.33	185.41	203.80	216.35
	印西市	118.83	133.91	137.52	147.25	166.33	173.72	180.59	201.88	214.86
	評価	3	5	3	3	5	5	2	3	3
ボール投げ (m)	全国	8.43	11.08	14.74	18.47	21.75	25.43	18.14	21.09	23.54
	印西市	9.30	12.77	14.97	17.94	21.61	24.27	14.87	19.75	22.25
	評価	4	5	3	3	3	2	1	2	2

【女子】

種目	校種	小学校						中学校		
	学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3
握力 (kg)	全国	8.71	10.18	11.95	13.87	16.49	19.53	21.73	24.19	25.73
	印西市	9.80	11.36	13.20	14.25	19.08	20.05	21.56	25.06	26.00
	評価	5	5	5	4	5	4	3	4	3
上体起こし (回)	全国	11.56	13.46	15.91	17.64	18.68	19.66	20.50	23.23	24.55
	印西市	12.69	14.63	14.40	15.91	18.55	19.22	19.56	19.93	23.11
	評価	4	4	1	1	3	3	2	1	2
長座体前屈 (cm)	全国	28.78	31.01	33.91	35.52	37.30	40.71	43.64	46.65	49.00
	印西市	32.27	32.11	34.85	37.52	42.52	41.30	43.03	45.03	50.50
	評価	5	4	4	4	5	3	3	2	4
反復横跳び (点)	全国	27.39	30.74	33.75	37.64	41.00	43.44	45.78	48.31	49.34
	印西市	27.17	31.63	33.25	36.75	43.25	43.61	43.68	45.00	45.26
	評価	3	4	3	2	5	3	1	1	1
20m シャトルラン (回)	全国	15.75	23.14	29.13	35.60	42.33	47.52	50.85	60.46	60.91
	印西市	17.08	22.66	24.34	30.80	39.66	43.52	46.78	50.65	52.29
	評価	4	3	1	2	2	2	2	1	1
50m 走 (秒)	全国	11.77	10.89	10.32	9.91	9.49	9.16	8.98	8.66	8.58
	印西市	11.39	10.50	10.27	10.10	9.32	9.08	9.00	8.87	8.85
	評価	5	5	3	2	4	4	3	2	1
立ち幅跳び (cm)	全国	108.78	119.28	130.53	141.05	148.36	155.46	167.23	174.40	178.61
	印西市	112.77	124.16	126.20	128.38	153.30	162.05	160.53	161.43	163.29
	評価	4	4	2	1	4	5	1	1	1
ボール投げ (m)	全国	5.70	7.36	9.45	11.61	13.86	15.97	11.92	13.35	14.44
	印西市	6.11	8.44	10.05	11.66	15.16	15.80	10.81	11.65	12.08
	評価	4	5	4	3	4	3	2	1	1

* 評価の数値は、Tスコア(偏差値)により5段階で評価したもの

5・4

全国レベルより高い

3

全国レベル並み

2・1

全国レベルより低い

* 全国平均は、令和3年度平均

* ボール投げは、小学校がソフトボール投げ、中学校がハンドボール投げ

令和5年度学校環境整備事業計画

月	事業名	対象	月	事業名	対象	
5～6	照度・照明検査	幼・小・中	6～7	学校給食施設定期衛生検査	各学校給食施設	
	空気環境検査(ホルムアルデヒド)	幼・小・中		8	飲料水水質検査	幼・小・中
	ダニアレルゲン検査	幼・小・中	1～2		照度・照明検査	幼・小・中
	配膳室定期検査	小・中			空気環境検査(二酸化炭素・二酸化窒素)	幼・小・中
	プール水質検査	小・中				

令和4年度印西市学校保健会事業報告

年月日	事業名	内容	参加者	会場	備考
令和4年 4月19日(火)	栄養士部会(第1回)	今年度の活動方針について	栄養教諭、学校栄養職員等	印旛学校給食センター	
4月21日(木)	学校薬剤師部会(第1回)	令和3年度事業報告 令和4年度事業計画	学校薬剤師	印西市役所	
5月18日(水)	学校保健会理事会	事業報告及び事業計画の審議	学校医、学校歯科医、 学校薬剤師、校長、養護教諭、保健主事、 栄養教諭等	—	書面開催 (決議日 6/2)
5月20日(金)	養護教諭部会(第1回)	班別研修	養護教諭	印西市役所	
7月13日(水)	アレルギー対策検討部会	学校におけるアレルギー対応について アレルギー指針・マニュアル対応について	学校医、アレルギー専門医、 校長、消防組合職員、学校給食センター長、 養護教諭、栄養教諭等	印西市役所	
7月22日(金)	栄養士部会 視察研修	肉の工場視察	栄養教諭、学校栄養職員等	(有)久住畜産	
8月2日(火)	講演会	「大切にすること～食品ロス・SDGs・食文化の切り口から考える～」 三信化工株式会社 海老原 誠治 氏	養護教諭 栄養教諭 学校栄養職員等	本埜公民館	縮小実施 (対象者を会員から養護教諭・栄養教諭等に変更)
8月2日(火)	養護教諭部会(第2回)	班別研修	養護教諭	本埜公民館	縮小実施 (時間短縮)
8月25日(木)	栄養士部会(第2回)	班別研修	栄養教諭、学校栄養職員等	牧の原学校給食センター	
9月28日(水)	感染症対策検討会	—	—	—	※中止
11月11日(金)	栄養士部会(第3回)	班別研修 次年度の活動計画	栄養教諭、学校栄養職員等	中央学校給食センター	
12月1日(木)	学校薬剤師部会(第2回)	令和4年度事業報告 令和5年度事業計画	学校薬剤師	印西市役所	
12月9日(金)	養護教諭部会(第3回)	班別研修	養護教諭	印西市役所	
12月9日(金)	学校保健会報編集会議	第134号の発行について	養護教諭	印西市役所	縮小実施 (時間短縮)
令和5年 2月7日(火)	学校歯科保健検討部会	令和4年度実施報告 令和5年度実施計画	学校歯科医、養護教諭、 歯科衛生士	—	書面開催
2月9日(木)	小児生活習慣病予防検討部会	令和4年度実施報告 令和5年度実施計画	学校医、養護教諭、 栄養教諭等	—	書面開催

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止とした。

学校教育 施策の概要

令和4年度児童生徒定期健康診断集計表（小学校）

区分	項目	男子							女子							合計	%	
		6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	計	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	計			
	在籍者数(R4.5.1現在)	647	665	637	606	563	597	3,715	618	628	581	590	584	583	3,584	7,299		
裸眼視力検査	受検者数	628	628	588	541	472	481	3,338	591	584	546	534	469	423	3,147	6,485	88.8%	
	1.0未満0.7以上の者	57	52	63	55	48	51	326	70	68	74	54	83	57	406	732	11.3%	
	0.7未満0.3以上の者	40	41	69	65	60	75	350	27	44	58	97	67	78	371	721	11.1%	
	0.3未満の者	5	13	27	30	27	34	136	6	13	21	38	43	33	154	290	4.5%	
	裸眼視力省略の者	19	35	44	62	90	113	363	24	43	34	54	114	157	426	789	12.2%	
眼の検査	受検者数	647	664	637	605	563	597	3,713	618	628	581	590	584	583	3,584	7,297	100.0%	
	感染性眼疾患の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	その他の眼疾患・異常の者	135	0	0	21	0	0	156	111	0	0	7	0	0	118	274	3.8%	
聴力検査	受検者数	646	663	632	605	561	597	2,502	615	627	581	590	583	583	2,406	4,908	99.7%	
	難聴の者	3	1	5	2	2	2	11	6	1	4	1	1	1	12	23	0.5%	
耳鼻咽喉頭の検査	受検者数	647	664	637	605	563	597	3,713	618	628	581	590	584	583	3,584	7,297	100.0%	
	耳疾患の者	80	0	0	0	0	0	80	91	0	0	0	0	0	91	171	2.3%	
	鼻・副鼻腔疾患の者	46	0	0	0	0	0	46	35	0	0	0	0	0	35	81	1.1%	
	口腔咽喉頭疾患の者	4	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	2	6	0.1%	
歯の検査	受検者数	633	655	617	593	553	577	3,628	612	618	574	577	573	563	3,517	7,145	97.9%	
	処置完了の者	58	75	109	115	90	69	516	40	60	79	89	86	61	415	931	13.0%	
	未処置歯のある者	67	80	104	95	61	55	462	84	67	73	82	59	41	406	868	12.1%	
	COのある者	35	41	60	73	48	60	317	38	39	39	62	67	41	286	603	8.4%	
	歯列・咬合等1の者	31	50	50	41	53	52	277	36	68	65	45	41	52	307	584	8.2%	
	歯列・咬合等2の者	2	2	8	9	6	16	43	2	9	6	8	9	10	44	87	1.2%	
	顎関節1の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	顎関節2の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	歯垢の状態1の者	27	53	50	47	55	62	294	25	54	30	49	42	41	241	535	7.5%	
	歯垢の状態2の者	3	23	24	24	17	15	106	3	16	10	19	11	6	65	171	2.4%	
	歯肉の状態1の者	15	26	54	34	46	52	227	12	37	27	43	36	35	190	417	5.8%	
	歯肉の状態2の者	2	5	17	9	14	11	58	1	2	9	8	3	4	27	85	1.2%	
	その他の疾病の者	26	15	18	29	44	40	172	24	18	25	36	38	40	181	353	4.9%	
DMF歯数	D(永久歯の未処置歯数)						43	43							33	33	76	
	M(永久歯の喪失歯数)						6	6							2	2	8	
	F(永久歯の処置歯数)						81	81							92	92	173	
尿検査	受検者数	645	661	632	600	558	588	3,684	613	628	578	583	582	576	3,560	7,244	99.2%	
	蛋白陽性の者	0	2	2	5	4	22	35	3	6	5	5	14	15	48	83	1.1%	
	潜血陽性の者	1	1	0	3	1	1	7	7	0	4	3	2	14	30	37	0.5%	
	糖陽性の者	0	0	0	2	2	2	6	1	1	2	1	1	4	10	16	0.2%	
その他の疾病等の検査	受検者数	647	664	637	605	563	597	3,713	618	628	581	590	584	583	3,584	7,297	100.0%	
	栄養不良の者	0	0	0	1	6	0	7	0	0	0	0	5	0	5	12	0.2%	
	肥満傾向の者	9	12	15	7	18	18	79	5	8	7	11	18	13	62	141	1.9%	
	脊柱側湾症の者	0	0	0	0	3	5	8	0	1	1	1	5	22	30	38	0.5%	
	その他脊柱疾病胸部異常の者	0	1	0	3	2	1	7	0	2	0	1	2	1	6	13	0.2%	
	感染性皮膚疾患の者	0	2	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	1	4	0.1%	
	アトピー性皮膚炎の者	38	52	49	54	40	50	283	39	40	55	39	43	45	261	544	7.5%	
	心臓疾患・異常の者	5	2	5	6	4	4	26	7	8	6	3	5	3	32	58	0.8%	
	ぜん息の者	54	52	39	30	29	29	233	35	30	28	23	31	22	169	402	5.5%	
	腎臓疾患の者	0	0	0	3	1	1	5	0	2	1	1	1	6	11	16	0.2%	
結核検査	問診実施者数	647	664	637	605	563	597	3,713	618	628	581	590	584	583	3,584	7,297	100.0%	
	・問診票から 要検討者数	0	0	0	1	1	0	2	2	1	1	0	2	0	6	8	0.1%	
	学校医による診察実施者数	538	565	530	530	491	527	3,181	520	550	480	517	507	520	3,094	6,275	86.0%	
	要精密検査の者	0	0	0	1	1	0	2	2	1	1	0	2	0	6	8	0.1%	
	精密検査実施者数	0	0	0	1	1	0	2	2	1	1	0	1	0	5	7	0.1%	
	(精密検査)胸部X線検査実施者数	0	0	0	1	1	0	2	2	1	1	0	1	0	5	7	0.1%	
	(精密検査)喀痰検査実施者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	(精密検査)その他の検査実施者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	潜在性結核感染症の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
結核の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
肥満やせの状況	受検者数	647	663	635	604	562	594	3,705	618	627	579	586	583	581	3,574	7,279	99.7%	
	高肥満度(50%以上)	2	6	4	2	8	9	31	2	3	2	5	4	9	25	56	0.8%	
	中肥満度(30.0%~49.9%)	13	15	23	17	35	27	130	9	12	13	13	22	19	88	218	3.0%	
	軽肥満度(20.0%~29.9%)	19	23	29	36	17	47	171	19	24	23	34	24	29	153	324	4.5%	
	やせ(-29.9%~-20.0%)	0	0	7	8	14	19	48	2	2	4	13	16	16	53	101	1.4%	
高度のやせ(-30%以下)	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	2	4	0.1%		

令和4年度児童生徒定期健康診断集計表（中学校）

区分	項目	男子				女子				合計	%
		12歳	13歳	14歳	計	12歳	13歳	14歳	計		
	在籍者数(R4.5.1現在)	500	528	504	1,532	522	487	494	1,503	3,035	
裸眼視力検査	受検者数	383	379	362	1,124	342	280	256	878	2,002	66.0%
	1.0未満0.7以上の者	42	48	41	131	52	36	34	122	253	12.6%
	0.7未満0.3以上の者	51	72	67	190	61	40	50	151	341	17.0%
	0.3未満の者	28	24	28	80	27	29	21	77	157	7.8%
	裸眼視力省略の者	113	143	130	386	174	198	230	602	988	49.4%
眼の検査	受検者数	500	528	502	1,530	522	487	494	1,503	3,033	99.9%
	感染性眼疾患の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	その他の眼疾患・異常の者	76	0	0	76	40	0	0	40	116	3.8%
聴力検査	受検者数	496		493	989	514		488	1,002	1,991	98.6%
	難聴の者	0		2	2	4		1	5	7	0.4%
耳鼻咽喉頭の検査	受検者数	500	528	502	1,530	522	487	494	1,503	3,033	99.9%
	耳疾患の者	52	0	0	52	53	0	0	53	105	3.5%
	鼻・副鼻腔疾患の者	45	0	0	45	28	0	0	28	73	2.4%
	口腔咽喉頭疾患の者	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0.0%
歯の検査	受検者数	482	503	464	1,449	490	449	470	1,409	2,858	94.2%
	処置完了の者	65	92	76	233	72	84	80	236	469	16.4%
	未処置歯のある者	23	30	32	85	38	21	30	89	174	6.1%
	COのある者	47	70	85	202	63	55	94	212	414	14.5%
	歯列・咬合等1の者	55	58	52	165	60	50	56	166	331	11.6%
	歯列・咬合等2の者	23	29	35	87	22	18	36	76	163	5.7%
	顎関節1の者	2	0	1	3	2	2	2	6	9	0.3%
	顎関節2の者	1	2	0	3	0	1	0	1	4	0.1%
	歯垢の状態1の者	90	90	95	275	75	66	63	204	479	16.8%
	歯垢の状態2の者	32	38	40	110	30	26	34	90	200	7.0%
	歯肉の状態1の者	73	80	82	235	64	63	62	189	424	14.8%
	歯肉の状態2の者	24	25	27	76	22	13	25	60	136	4.8%
	その他の疾病の者	23	19	2	44	23	8	9	40	84	2.9%
DMF歯数	D(永久歯の未処置歯数)	32			32	74			74	106	
	M(永久歯の喪失歯数)	13			13	8			8	21	
	F(永久歯の処置歯数)	130			130	151			151	281	
尿検査	受検者数	489	517	479	1,485	507	463	477	1,447	2,932	96.6%
	蛋白陽性の者	20	24	23	67	16	18	6	40	107	3.6%
	潜血陽性の者	0	1	0	1	12	9	13	34	35	1.2%
	糖陽性の者	1	0	2	3	4	0	1	5	8	0.3%
その他の疾病等の検査	受検者数	500	528	502	1,530	522	487	494	1,503	3,033	99.9%
	栄養不良の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	肥満傾向の者	8	3	7	18	1	1	1	3	21	0.7%
	脊柱側弯症の者	5	3	7	15	23	41	20	84	99	3.3%
	その他脊柱疾病胸郭異常の者	2	1	2	5	0	0	0	0	5	0.2%
	感染性皮膚疾患の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	アトピー性皮膚炎の者	51	52	34	137	39	49	41	129	266	8.8%
	心臓疾患・異常の者	6	3	5	14	2	2	4	8	22	0.7%
	ぜん息の者	38	31	33	102	15	20	20	55	157	5.2%
	腎臓疾患の者	4	1	1	6	0	2	4	6	12	0.4%
結核検査	問診実施者数	500	528	502	1,530	522	487	494	1,503	3,033	99.9%
	・問診票から 要検討者数	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0.1%
	学校医による診察実施者数	486	502	461	1,449	492	461	451	1,404	2,853	94.1%
	要精密検査の者	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0.1%
	精密検査実施者数	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0.1%
	(精密検査)胸部X線検査実施者数	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0.0%
	(精密検査)喀痰検査実施者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	(精密検査)その他の検査実施者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	潜在性結核感染症の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
結核の者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
肥満ややせの状況	受検者数	494	524	492	1,510	512	478	482	1,472	2,982	98.3%
	高肥満度(50%以上)	10	4	7	21	5	5	3	13	34	1.1%
	中肥満度(30.0%~49.9%)	24	24	18	66	12	11	12	35	101	3.4%
	軽肥満度(20.0%~29.9%)	21	23	17	61	23	26	21	70	131	4.4%
	やせ(-29.9%~-20.0%)	12	8	9	29	25	21	11	57	86	2.9%
高度のやせ(-30%以下)	0	0	0	0	2	1	1	4	4	0.1%	

基本目標

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り
健やかに成長できるよう、教育環境を充実さ
せる（教育環境）



▲1人1台PCと大型テレビを活用した授業（原山小）

(1) 教育環境整備の充実

①安全な学校・幼稚園施設等の充実

＜小・中学校の大規模改修事業等＞

- 原小学校校舎増築設計及び工事
- 牧の原小学校校舎増築設計及び工事
- 高花小学校保全改修工事
- 西の原中学校校舎増築設計
- 大森小学校大規模改修設計
- 空調設備調査・基本設計（特別教室、配膳室及び体育館）

＜管理・教材備品等の整備＞

教職員用パソコン等について、機器の老朽化に伴い、入れ替え整備を行う。また、老朽化が進む備品を整備・更新していく。

②就学援助の充実

経済的理由により就学困難と認められる児童生徒及び特別支援学級に就学する児童生徒の保護者に対し、就学援助を行い、義務教育の円滑な実施を図る。

③修学旅行費補助事業

小・中学校が実施する修学旅行に際し、保護者負担費用の一部を補助する。

④通学費補助事業

小・中学校への通学手段として路線バスを利用している児童及び生徒に対し、定期乗車券購入費を全額補助する。

(2) 学校の適正規模・適正配置の推進

①学校の適正規模・適正配置の推進

児童生徒のより良い教育環境を整え、教育の質の向上を図るため、印西市学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、学校の適正規模・適正配置を推進する。

(3) 情報化社会に対応した教育の推進

①ICT環境の整備と活用

印西市教育委員会では、児童生徒一人一台端末の整備をし、児童生徒及び教職員に

対して学習に活用するためのアカウントを設定している。

また、全小・中学校に校務支援システムを導入し、成績・学籍・保健情報を一元管理している。学校間で利用できるサーバーを設置し、公簿や各文書、教育情報をデジタル化することで迅速かつ安全に情報のやりとりをしている。

各学校ではホームページや保護者宛一斉送信メールシステム、学校から配付する手紙のデジタル化連絡アプリを利用して、学校での取組を積極的に紹介したり、緊急の連絡を迅速に伝達したりすることができるようにしている。

学校図書館の蔵書や児童生徒の貸出状況は、学校図書館システムにより管理されており、図書館の活用状況を可視化することができる。

②情報教育の推進

市教育センターによる SNS ネットリテラシー講座の実施などを通して、児童生徒の情報モラル教育を推進する。各学校での推進に当たっては、校長を教育情報統括責任者(CIO)と位置づけ、セキュリティポリシー遵守に努めている。また、教育センターがヘルプデスク的役割を担うと同時に、各学校の実践資料を収集し、市内の学校間で共有できるようにしている。

ICT 活用に係る教職員研修は、様々な対象や形態により繰り返し実施し、活用を苦手とする教職員の技能と意欲を高めるとともに、高度な実践を行うことができる教職員の育成も図っている。また、ICT 支援員 6 名を配置し、その活用を通して、各小・中学校での ICT 活用促進を図っている。



▲市内学校でのSNS講座の様子

(4) 信頼される学校づくり

①安全教育の充実

交通事故や不審者等による犯罪、自然災害等に対し、自ら身を守ることでできる児童生徒の育成を図るとともに、自他の生命の尊重を中核として、児童生徒が生涯を通じて、健康で安全な生活を営む基礎を養う教育の充実を図るため、以下の取組を実施している。

＜交通安全教室の実施＞

全ての公立幼稚園、小・中学校で実施しており、安全な歩行、横断歩道の渡り方、自転車の正しい乗り方等を学習している。

＜防犯教室の実施＞

全ての公立幼稚園、小・中学校で実施しており、不審者対応、薬物乱用防止、ネットトラブル、サイバー犯罪防止等を学習している。



▲小学校 防犯教室

＜避難訓練の実施＞

緊急時に児童生徒が適切な避難行動をとることができるようにするため、各学校で

は地震、火災、不審者侵入などの様々な状況を想定した訓練を行っている。また、一次避難行動に特化したワンポイント避難訓練や引き渡し訓練等も計画的に実施している。

②児童生徒・園児の安全確保

各学校では防災計画の作成や定期的な施設・設備の安全点検等、以下のような取組を行うとともに、安全主任研修会等を通して安全教育の充実を図っている。

- 防災計画・学校安全マニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言
- 防犯ブザーの貸与（小学新入生対象）
- 自転車通学用ヘルメット貸与（小中学新入生対象）
- メール配信システムの活用（幼・小・中学校等）
- 防災行政無線を活用しての見守り活動の推進（児童の声）
- 安全主任等研修会の開催
- こども110番の家の推進
- 台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実
- 理科薬品の安全管理の指導（小・中学校）

③通学路の安全確保

通学路の安全を確保するために、各学校・関係諸団体の協力を得ながら危険箇所を抽出し、警察・道路管理者等と連携しながら対応している。平成26年2月に策定した「印西市通学路交通安全プログラム（令和3年9月記載内容追加）」に基づき、全小学校区単位での通学路の点検結果や危険箇所の情報をもとに、通学路の安全性の向上を図っている。

また、全小学校区で安全マップを作成・配付している。

教育環境 施策の概要

④学校管理下における災害共済給付

学校管理下において児童生徒に災害が発生した場合の対応として、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入を図っている。

⑤学校情報公開と地域の連携

全小・中学校でホームページを運用し、学校広報の充実に努めている。教育センターでは、ホームページ運用や編集操作に関する助言を随時行い、各学校が積極的に情報を発信できる環境整備と支援を行っている。



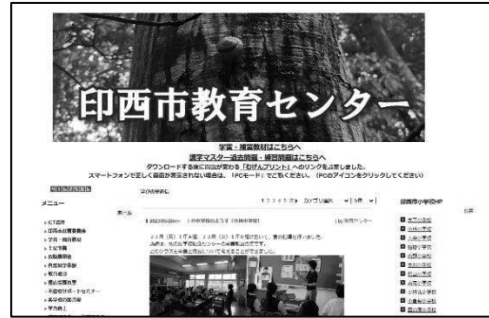
▲市内小・中学校ホームページの例

また、教育センターでは各学校ホームページの記事を拾い上げ、各学校の取組等を教育センターのホームページに掲載したり、各学校における式典、競技大会、修学旅行等を一括して紹介したりするなど、学校間の取組の共有化を図っている。

さらに地域においては、産業や芸術分野で地域人材を積極的に活用するようになるとともに、家庭や地域との連携を深める中で、新たな人材を開発している。産学官連携にも努め、印西市ならではの人材活用に心がけている。

各学校では自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や

地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくために、学校評価を実施し、評価結果及び考察については、文書やホームページで公表している。また、地域参観日や公開授業にも積極的に取り組み、地域への学校公開を積極的に推進している。



▲印西市教育センターホームページ画像

⑥働き方改革の推進

教育委員会から発出する文書はほとんどをデジタル形式で配信し、学校での受信、担当職員への回覧も印刷を要しない。また、提出方法もデジタル形式を中心として学校の負担軽減を図っている。

教職員の働き方改革の観点から、各小・中学校で IC カードを利用した出退勤時刻管理システムを導入している。出退勤時刻は個別・学校ごとに集計し、勤務時間を意識した働き方の推進に役立てている。また、令和5年度には、迅速で正確な業務遂行と時間短縮を図るため、中学校に自動採点システムを導入した。グループウェアを活用して職員間の情報共有促進に努めている。管理職、教務主任、研究主任、ICT教育担当者、特別支援教育担当者、各教科担任、各学年担任など職種別の情報共有が安全かつ効果的に行えるようにしている。

保護者宛文書はデジタルで配信できるようにし、印刷・配付に係る時間や労力と紙資源の節約に役立てている。

印西市教育センター 学びの里

印西市教育センターは、印西市の特色を生かし、新しい時代に対応した教育を展開するため、学校への支援活動を行い、本市教育の充実・発展をめざす。

教育に関する諸問題についての調査・研究・開発や、教育の情報化の推進、教育情報の収集、活用、提供等を行う。また、教育相談活動及び適応指導、教職員研修の場として学校支援を行う。

なお、令和5年度、そうふけふれあいの里保全改修工事に伴い、「教育センター」は高花小学校へ、「緑のまきば」は中央公民館へ一時移転して活動を継続する。

また、本埜公民館についても保全改修工事が予定されており、その間、「森のステーションまきば」は小林公民館に一時移転する。



▲ 印西市教育センター（そうふけふれあいの里3階）

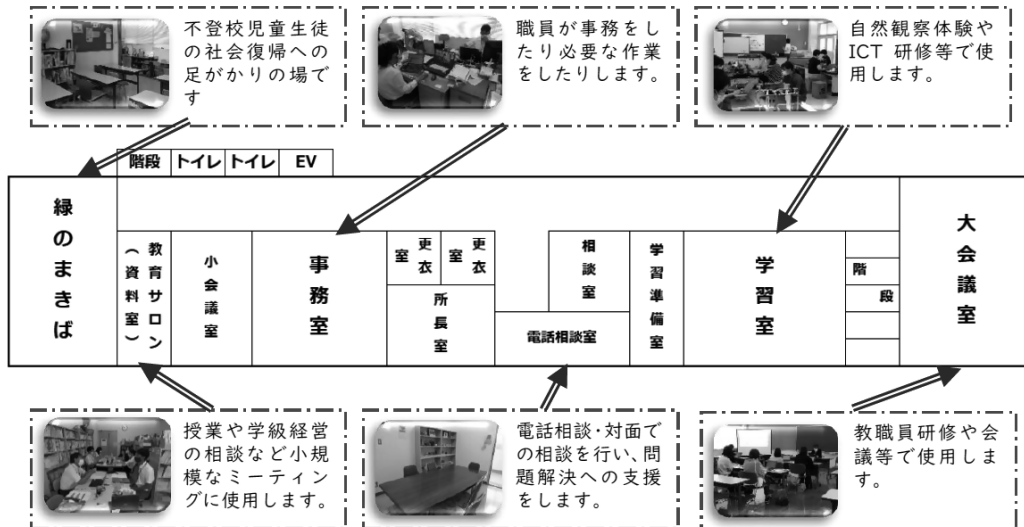
所在地 印西市草深924

開設 平成17年4月1日

電話 0476-47-0400

FAX 0476-47-6644

H P <http://inzai.ed.jp/newcenter/>



事務室	職員が業務を行う。大型プリンターを使い学校現場の掲示物を作成する。
所長室	講師接待・来客接待に使用する。必要に応じて所長が業務を行う。
緑のまきば	緑のまきばの児童生徒が学習やフリータイム、食事等で使用する。
教育サロン	図書や資料を保存する。小会議や授業・学級経営相談支援事業で使用する。
電話相談室	児童生徒、保護者、教職員に対しての電話による相談で使用する。
相談室	児童生徒、保護者、教職員に対しての面談による相談で使用する。
学習室	職員研修や自然科学体験で使用する。緑のまきばの児童生徒の授業で使用する。
小会議室	小会議や作業、授業・学級経営相談支援事業で使用する。
大会議室	人数の多い研修や会議で使用する。緑のまきばの児童生徒が室内運動で使用する。

＜事業内容＞

① 教育課題調査・研究・開発事業

- 教育に関する調査・研究・開発
- 教育の質を高め、児童生徒の学力を高めるための調査・研究・開発
- 各種コンテンツの開発・運用
 - ・印西漢字マスター・印西計算マスター
 - ・社会科副読本・ふるさと印西学
 - ・外国語教育

② 自然科学体験学習事業

- 親子(児童生徒・保護者)対象の自然観察会
- 産学官連携科学講座

③ 各種研修会開催事業

- 夏季研修会・対象者研修会の実施

④ 教育の情報化推進事業

- 情報教育の推進
- 教育の情報化における環境整備・運用・活用・支援・研修
- 校務・教科指導におけるICT活用支援



▲オンライン研修

⑤ 読書活動推進事業

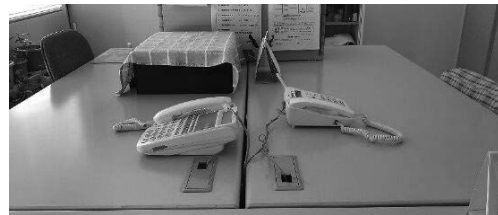
- 図書システムによる蔵書点検
- 学校間貸出
- 学校司書の全校配置
- 司書連絡会・学校図書館担当者会議実施
- 市立図書館との連携

⑥ 資料収集・活用, 教育広報事業

- 教育関係の資料の収集・蓄積・活用
- 最新教育情報の資料収集
- ホームページ等での情報提供

⑦ 教育相談事業

- 不登校、いじめ、学習困難、発達障害、問題行動など、教育活動全般についての悩みや心配事についての助言・援助（保護者・児童生徒・教員対象）
- 電話相談・面接相談
[電話番号 0476-47-7830]



▲電話相談室

⑧ 適応指導教室事業

「緑のまきば・森のステーションまきば」

- 心理的・情緒的要因で登校しない、登校できないで悩んでいる児童生徒の居場所の確保及び学校復帰への足がかり
- 自主的な学習支援・小集団での活動（ゲーム・軽スポーツ等）・フィールドワーク・個別面談・校外学習等の実施

⑨ 授業・学級経営等相談支援事業

- 授業への相談支援
- 学級経営への相談支援
- 校内研究への支援
- 研究発表への支援
- 学校問題対策指導員による支援

⑩ その他

- いじめ防止パンフレットの配付
- 「みどりの少年団育成事業」の推進 等



▲相談室カード

学 校 給 食

学校給食は、成長期にある児童生徒にバランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の保持増進を図るとともに、望ましい食習慣を身につけ、好ましい人間関係の育成や児童生徒の心身の健全な発達など、多様な目的をもっている。

通じて健康で充実した食生活が送れるように児童生徒に対して栄養バランスのとれた食事や、正しい食習慣を理解させるなど、望ましい食生活の基礎・基本を養うとともに、地域や家庭との連携をとりながら学校給食の充実を図っていく。

《学校給食の目標》

- (1) 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- (2) 日常生活における食事について、正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- (3) 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- (4) 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- (5) 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- (6) 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- (7) 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

《よりよい給食をめざして》

学校給食は、学校教育の中において特別活動に位置づけられ、望ましい食習慣の形成、あるいは食事を通して好ましい人間関係の育成を図るなど、重要な活動として定着してきている。

食生活が豊かになった反面、食生活の変化や栄養のアンバランスが見られる中、生涯を

《給食センター概要》

○ 中央学校給食センター

(コスモスキッチン)

所在地 印西市鹿黒南一丁目5番地

敷地面積 11,333.19㎡

開設 平成29年8月

調理能力 6,000食



○ 牧の原学校給食センター

所在地 印西市牧の原二丁目5番地

敷地面積 6,000.01㎡

開設 平成8年4月

調理能力 3,000食



○ 印旛学校給食センター

所在地 印西市美瀬二丁目2番地
敷地面積 4,272.17㎡
開設 平成5年4月
調理能力 2,000食



《給食の状況》

○ 調理方式

＜センター方式＞

- ・中央学校給食センター（小学校13校の調理・配送及び配膳業務を委託）
- ・牧の原学校給食センター（中学校7校の調理・配送及び配膳業務を委託）
- ・印旛学校給食センター（小学校5校・中学校2校の調理・配送及び配膳業務を委託）

○ 給食数（令和5年5月1日現在）

【中央学校給食センター】

第1調理場 小学校 6校 3,305食

第2調理場 小学校 7校 3,223食

【牧の原学校給食センター】

中学校 7校 3,024食

【印旛学校給食センター】

小学校 5校 1,668食

中学校 2校 412食

○ 給食費

	月 額
小学校	4,620円
中学校	5,140円

○ 給食実施予定回数

小・中学校190回



▲調理風景

○ 給食施設の見学

児童及び家庭教育学級による保護者の施設見学を受け入れる。

施設の見学、概要説明及び試食を行い、家庭教育学級ではこれに加えて、児童生徒に必要な栄養量や生活習慣など栄養士による食に関する全般の講義を行い、給食事業への理解を図る。

また、中央学校給食センターでは、給食レストランとして市民の方を対象に施設の見学、概要説明及び給食の試食を行い、学校給食事業への理解を図る。



▲見学風景（釜体験）



▲見学風景（会議室）

木下小学校



校長	小林 すみ子
開校	明治6年
学級数	9 (2)
児童数	214名
職員数	県費 18名 市費 6名

(令和5年5月1日現在)

学校教育目標

自らの可能性に挑戦する活力あふれる木下
っ子の育成 ～みんなでつくる笑顔の学校～

1 経営方針

目指すべき学校像や子どもの姿を明確にした学校づくりを通して、地域から愛され信頼される学校、保護者から感謝される学校、子どもや教職員が誇れる学校を創る。

そのために、活力あふれる子どもの育成、チーム木下の一員として一致協働体制がとれる教職員集団の構築、開かれた学校づくりを推進する。

2 本校の特色

「木下」は、かつて木材を切り出して利根川に下ろし、江戸に運んだことから由来する地名であり、江戸時代から三社詣での拠点として栄えてきた。北に利根川、筑波山、西には富士山を望むことのできる本校は、今年、開校150周年となった。校歌にも歌われている「丘の上なる我らの学校」は長い歴史と文化の中で、まさに地域に支えられ育まれてきた学校である。そのような地域に根ざした本校の特色の一つが、地域との連携を生かした教育活動である。

本校は、地域から学ぶ社会科学習のあり方に焦点をあて、地域素材の教材化に努めてきた。

これらの研究を通じて培ってきた「地域の先生」の活用を社会科だけでなく総合的な学習の時間や各教科の中で幅広く推進している。

また、印西市社会福祉協議会木下支部と連携した学習活動を展開し、福祉教育の充実に努めている。



▲ 6年総合「木下歴史探索」の様子

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

児童の意欲を高め、正しく読み取る力を
育む国語科教育

(2) 研修の目的 <国語科>

国語科において、児童の意欲を高め、正しく読み取る力を育むためにどのような手立てが有効なのかを明らかにする。

(3) 目指す児童像

教材文との出会いから読むことへの意欲をもち、対話を通して自分の力で正しく読み取ることができる児童

小林小学校



学校教育目標

自ら学び心豊かに

たくましく生きる子どもの育成
— 自立と共生ができる子ども —

1 経営方針

「次世代を担う人間性豊かで社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成」をめざし、創意と活力のある学校づくりに努める。

教職員は、「子どもたちを活躍させ、よいところをほめていく」ために全力を傾ける。

地域や児童の実態を確実に把握し、保護者、地域の期待に応える教育を推進する。

2 本校の特色

利根の流れをのぞむ「ひこち山」に建つ本校は、緑豊かな自然に囲まれ、創立149年の歴史と伝統のある学校である。

昭和38年に全国で初めて結成した少年少女消防隊も60年目となる。平成28年3月には、特に優秀な少年少女消防クラブとして総務大臣賞を受賞している。隊員は高学年の有志によって結成され、現在は、運動会で操法を披露したり、校内で火災予防の啓発活動を行ったりするなどし、本校の伝統をしっかりと受け継いでいる。



校長	瀧澤佳代子
開校	明治7年
学級数	10(3)
児童数	275名
職員数	県費 21名 市費 6名

(令和5年5月1日現在)

「笑顔いっぱいの学校」「あいさついっぱいの学校」「思いやりいっぱいの学校」を目指し、全校一丸となって取り組んでいる。また、目指す児童像に「かしこく」「やさしく」「たくましく」をあげ、小林の自然や、地域の人々とのふれあいを大切に体験活動や、縦割り活動を通して、思いやりの心、コミュニケーション能力の育成に努めている。さらに、地域や家庭、関係機関との連携、小林中学校区3校の小中連携・小小連携を推進しながら、地域に信頼される学校づくりに努めている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

『主体的に問いを追究・解決しようとする児童の育成』
～ふるさと印西学を通して～

(2) 研究の内容（本年度の取り組み）

- ①児童が主体的に学習に取り組めるような活動の設定
- ②自分の知りたいことや疑問を探求するために、最適な方法を選択できるような資料の積み重ね
- ③振り返りや交流の場の工夫
- ④生活科・社会科に親しむ学習環境の整備



▲少年少女消防隊操法披露

大森小学校



学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら学び、
たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成」をめざし、学校教育の充実に努めるとともに、教育のプロフェッショナルであることを自覚し、教師としての自信と誇りを持って創意工夫をして教育活動にあたる。

2 本校の特色

本校は今年130周年を迎える。本校の前身である発作小学校と亀成小学校は明治7年に創設され合併移転を繰り返し、明治26年7月14日に「大森小学校」として創立された。この日を記念し毎年7月14日を創立記念日として式典が行われている。

地域の学校として歩んできた本校は、平成16年に改築された。校舎は、地域の願いから昭和初期の校舎を模写し、近代風に建築されている。近代設備を活用し、ホームページ制作や体育・音楽活動が大変盛んである。三世帯同居も多く、祖父母も本校の卒業生であることから、学校への関心が高く、教育活動に大変協力的である。地域の教育資源を生かし、児童の徳・知・体のバランスのとれた教育活動を推進している。



校長	佐久間庸夫
開校	明治26年
学級数	6(2)
児童数	173名
職員数	県費 13名 市費 4名

(令和5年5月1日現在)

3 研修の概要

(1) 研修のテーマ

主体的に学び、自分の考えを表現できる
児童の育成
～算数科における確かな学力の定を
めざした授業づくり～

(2) 研修の基本方針

大森小学校の目標は「豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」という児童像を目指している。全ての児童に、基礎基本の理解と習得を目指すために「ユニバーサルデザイン」の視点を積極的に取り入れる。

(3) 研修の重点目標

①学び合う楽しさを知り、できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで、主体的に算数科の学習に取り組もうとする児童の育成(知識・技能、学びに向かう力・人間性)

<手立て>

- ・素材の開発や提示の工夫(視覚化)
- ・Chromebookの活用(焦点化)

②数学的な表現を用いて、自分の考えをわかりやすく表現したり、話し合いを通してよりよい考えに高めたりすることができる児童の育成(思考力・判断力・表現力)

<手立て>

- ・ペア、グループでの話し合い
- ・ホワイトボード、ICT機器、Chromebookを活用した発表方法の工夫(思考の可視化)

船穂小学校



学校教育目標

変化する時代を見すえ たくましく生きる
心豊かな児童の育成

1 経営方針

(1)めざす児童像「『ふなほ』に向けて歩む子」

- ①ふ～深く考え、確かな学力のある子
- ②な～仲よくし、思いやりのある子
- ③ほ～朗らかで、健康なたくましい子

(2)めざす教師像「おまつり教師」

【面白い・まめ・強い・リラックス】

(3)めざす学校像「時代の変化の先を行く学校」

- ①児童の笑顔が輝き、未来を見すえて進む学校
- ②配慮がいき届き、環境で児童を育む学校
- ③様々な方々から広く協力をいただき、連携し児童を育む学校

2 本校の特色

本校は、印西市南西部の千葉ニュータウン地区や八千代市に隣接する。下総台地と印旛沼につながる谷津が入り組む地域にある。田・畑・果樹園などの農地や山林が多く、住宅地は少ない。緑に囲まれた自然豊かな地域にある。

現在、国が提唱する「Society 5.0」に対応した教育実践の土台づくりをすすめている。児童が情報端末でソフトウェアを使いこなし、学習活動を



校長	安川 徹
開校	明治6年
学級数	5 (2)
児童数	47名
職員数	県費 12名 市費 2名

(令和5年5月1日現在)

充実させていくこと。また、通信ネットワークで情報を取捨選択しながら活用すること。これらの体験をすることで、現代の社会において不可欠な情報活用能力を身に付けさせるようにしている。

また、児童の豊かな心を育むことをねらい、地域の方々の協力による体験を通じた学びを育んでいる。

本年度より印西市小規模特認校の指定を受け、さらに個に応じた指導の充実を図っていく。

3 研究の概要

(1) 研究テーマ

互いの思いや考えを主体的に伝え合う児童の育成
～相手にわかりやすく伝える話し方を身につけたり、内容を理解して聞いたりする～

(2) 研究内容

伝えたいことを明確にさせてから話し、聞いたことには、自分の考えや感想をもてるようにする。そのために、メモや思考ツールを活用し、主体的に伝え合える効果的な場を設けるようにする。



▲「話すこと・聞くこと」の学習

内野小学校



学校教育目標

学びを生かし、豊かな心とたくましく生きる力を備えた子どもの育成

1 経営方針

『やさしい子』『かしこい子』『たくましい子』をめざす児童像としている。一人一人のよさを認め励まし、やる気を引き出し、学ぶ楽しさを実感させる教育活動の推進を重点目標に置き、学習指導要領に則った「生きる力」の学力観のもと、児童の実態に合った適切な教育課程を編成し実施に努める。日々の教育実践を定期的に検証し、意図的・計画的・継続的な教育活動を積み上げることで、これらの実現を図る。また、地域に開かれた学校経営を推進し、保護者および地域住民の期待と信頼に応える。

2 本校の特色

昭和59年、千葉ニュータウン中央エリアの街開きと同時に開校し、本年度創立40年目を迎える。市内のニュータウン地区では、最初に開校した小学校である。開校当初から植樹が盛んに行われ、春には桜が見事に咲き誇り、初夏には紫陽花、秋には紅葉と四季折々の変化を味わうことができる。

平成18年度には、校内研究の成果が認められ「学校保健」文部科学大臣表彰を受け、平成25年度には、第10回全国小学校ホームページ大賞に選ばれた。



校長	東本 悦子
開校	昭和59年
学級数	20(6)
児童数	613名
職員数	県費 35名 市費 14名

(令和5年5月1日現在)

保護者の学校教育への支援は協力的であり、登下校の見守り活動や読み聞かせ・図書ボランティア、日本語支援等を実施している。

児童の学力向上のために、朝の会の前にスキルタイムを設けている。また、午後の授業前に15分間のパワーアップタイム(月～木)を設け、多岐にわたる教育活動を柔軟に行っている。【45分～60分の授業展開も可能】

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

主体的・対話的に学ぶ子どもの育成
～言語活動を重視した外国語教育
相手を意識した話し合い活動を通して～

(2) 研究仮説

外国語教育における言語活動や教科全般における話し合い活動を重視し、意識的に取り入れることによって、児童が「主体的・対話的」に学習に取り組み、「深い学び」へとつながることができるであろう。

(3) 研修内容

・3つの視点を設定し研究を進めていく。

【視点1】言語環境の工夫

(英語でのあいさつ、英語での教室掲示、クラスルームイングリッシュの充実)

【視点2】学習形態の工夫

(ペア学習、グループ学習、座席配置、言葉のキャッチボール)

【視点3】表現方法の工夫

(文字での表現、音声でとらえる表現、ICTの活用)

木刈小学校



学校教育目標

心豊かに、自ら学び、
たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針

- ① 「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」のバランスのとれた教育活動の推進
- ② 全職員の協同体制「チーム木刈」による学校づくり
- ③ 教師は「授業で勝負」「1年で勝負」を合い言葉にした授業力と生徒指導力の向上
- ④ 安全・安心な学校、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

2 本校の特色

本校は創立40年目である。戸建て中心の住宅地域である木刈小地区と、田畑の広がる永治小地区が平成29年度に統合し、ニュータウン地区と昔ながらの地区の両方の特色を兼ね備えた学校区であり、教育活動や教育内容の深まりに力を入れている。

日々の学校生活では、「みんななかよし、そうじをしっかりと、あかるいあいさつ、じかんをまもる」をめあてとしている。特に掃除とあいさつを重点として、きれいな校舎の中に明るくあいさつができるよう日々指導している。



校長	門脇 英貴
開校	昭和59年
学級数	18(2)
児童数	534名
職員数	県費 27名 市費 12名

(令和5年5月1日現在)

学習指導では、外国語に専科教員を配置し、全学年でより専門的な授業を行うとともに、学習指導員の個別指導、教育支援委員会での指導方法の検討・共通理解等、児童の実態に合わせた教育を継続していく。また、本年より「ICT機器を活用した学習指導の在り方」をテーマとし、学習を効果的にすすめるためのICT活用についての研修を行っていくこととした。

3 研修の概要

(1) 研究主題

<ICT機器の活用>

主体的に学び、豊かに表現できる児童の育成
～ICTを活用した授業実践を通して～

上記の主題を設定し全教科において授業研究を進めていく。

(2) 研究日程

- 4月 研究推進委員会（毎月実施）
- 6月 第1回授業研修会
- 10月 第2回授業研修会
- 12月 指導室訪問における全学級展開
専科教員（外国語）特別支援学級での授業展開
- 2月 研究紀要作成
- 3月 本年度のまとめ
次年度研修の方向性検討

原山小学校



学校教育目標

「つよい子 やさしい子 きらりかがやく子」の育成

1 経営方針

本校は、社会とつながる「情報教育・情操教育・市民性教育」を経営の重点テーマとし、一人一人のよさや可能性が尊重され、確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれる学校を目指している。

2 本校の特色

平成元年4月に開校した千葉ニュータウン中央駅圏の南東部に位置する学校である。校庭が広く、屋根付き相撲場や100m走路、アスファルトの中庭を有している。また、校舎内には、明るく開放的な「オープンスペース」が学年毎にあり、幅広い様々な活動を展開することができる。

教育課程の編成方針は、以下の通りである。

- ICTを基盤として、社会とつながる学びを実現し、心を育てながら各教科等で育てている資質・能力が相互に結びつくようにする。
- 情報教育を単独で捉えるのではなく、道徳教育や、人権教育、キャリア教育などと併せた目標のマネジメントを行う。その際、デジタル・シティズンシップに関する学びも充実させ、善き市民の素地を育成するようにする。
- 「持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた地球市民意識を教科等横断的に育てる」という観点を絡めた教育課程を編成する。



校長	松本 博幸
開校	平成元年
学級数	12 (3)
児童数	253名
職員数	県費 24名 市費 7名

(令和5年5月1日現在)

実施にあたっては、国際機関や、地域のIT関連企業、製造・小売関連企業、NPO団体等と連携し、子供たち自身が社会に参画できるような深い学びを展開するとともに、定期的な評価・改善を行うことで、市民性と創造的な問題解決能力を育成できるようにしている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

情報を論理的に活用し、問題発見・解決できる子供たちの資質・能力の育成

(2) 研修内容

教科等横断的・単元縦断的視点での情報活用能力の育成に関する取組及び実施状況の評価・改善

(3) 研究仮説

○具体的な文脈や状況を豊かに含みこんだ中で、情報を捉え活用することの手立てを工夫すれば、意識や見通しをもち、見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現して課題解決に取り組むことができるであろう。



▲大型店舗での「エシカル消費」を広める活動（5年生）

高花小学校



学校教育目標

自分と社会をみつめ、まなびを大切にする子どもの育成
 ～つながる喜びを感じ、まなびを見つける子ども～

1 経営方針

○学校教育目標の具現化をめざし、「生きる力」を育むための創意あふれる教育課程を編成し、学力の保障と発達課題への適切な指導、支援を組織的に行う。

○教育活動全体を通して、児童、職員が多種多様な立場にたった人権感覚を磨き、「つながる喜び」を軸とした成長を実感できる学校づくりを行う。

2 本校の特色

本校は千葉ニュータウン中央駅の南東に位置し、周囲には団地や住宅地が広がっている。敷地内には緑が多く、樹木や花に囲まれた中で、子どもたちはのびのびと学校生活を送っている。

笑顔でのあいさつ運動、子どもを主体とした縦割り活動を行い、思いやりのある「やさしい子」の育成に努めている。

また、基礎・基本の定着を図るとともに、特別な支援を必要とする児童に対しては、全体で共通理解を図りながら、一人一人に合わせた指導をしている。



校長 角鹿 智章
 開校 平成3年
 学級数 12 (4)
 児童数 303名
 職員数 県費 22名
 市費 6名

(令和5年5月1日現在)

安心・安全で信頼される学校づくりに努めており、保護者と連携を図りながら、パトロールや美化活動、運動会・マラソン大会などの教育活動を進めている。また、地域の方々のボランティアによる校内環境整備、交通指導の協力を得て児童の安心・安全な環境づくりに努めている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を実感できる児童の育成
 ～伝え合う活動を通して～

(2) 研修内容

- ①PDCA サイクルに基づいた外国語科研究を進めていく。
- ②掲示物を工夫することで、自力解決を進める手立てとしていく。
- ③指導案検討、授業実践を実施し、互いの授業力を高めていけるようにする。



▲音楽フェスティバル

小林北小学校



学校教育目標

心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成

1 経営方針

「すべては子どもたちのために、全教職員協働体制による学校運営」をスローガンに、

◆目指す児童像◆

- 「き」気持ちのやさしい子
- 「たっ」たっぷり運動する子
- 「こ」根気よく学ぶ子 を掲げ、
全職員一丸となって教育活動に取り組む。

2 本校の特色

JR小林駅から徒歩7分、みどり豊かで閑静な新興住宅地に立地し、平成3年度に小林小から分離開校し、本年度、創立33年目を迎える。子どもたちは広い校舎、広いグラウンドでのびのびと学校生活を送っている。

また、子どもの安全・安心を守る「小林子ども守り隊」をはじめとする保護者や地域の方々による積極的な活動が展開され、教育環境を優先した地域コミュニティづくりがすすめられており、地域の中で子どもたちが育まれている。

本校は、教育活動における「質の向上」を目指し、重点目標として、「あいさつ・そうじ」「学習習慣の定着」「体力向上・安全」に重点的に取り組んでいる。



校長 森下 康彦
開校 平成3年
学級数 6(2)
児童数 147名
職員数 県費 13名
 市費 5名

(令和5年5月1日現在)

◆教育活動の特色◆

『笑顔あふれる北っ子合い言葉』の「あ・そ・べ・え」(あいさつ, そうじ, 勉強, 笑顔)が定着しつつあり、さまざまな教育活動の場面で子どもたちと確認し合っている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

子どもの主体性が、
深い学びにつながる学習
～導入・伝え合いの場の工夫を通して～

(2) 研究仮説

・生活科

活動に応じて伝え合う場や振り返る場を工夫すれば、新たな気づきが生まれるとともに様々な気づきに関連付けられ、深い学びへとつながるであろう。

・社会科

自分の調べたことや分かったことを表現方法を工夫しながら伝え合うことで、互いに多様な視点に気づき、それらを結び付けて考え、さらに表現することで深い学びにつながるであろう。

(3) 共通実践

「北っ子のびのびプラン」

…基本的な知識・技能を身に付ける

- ・学習規律・学習過程の定着
- ・ノート指導(板書)・スキルタイムの充実
- ・家庭学習(タブレットの活用)

小倉台小学校



学校教育目標

豊かな心を育み、自ら学び、
たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針

- (1) 知徳体のバランスのとれた教育活動の推進
- (2) 「授業を第一に」を合言葉に学力の向上
- (3) 職員全員による協働体制と人材育成
- (4) 安全・安心で開かれた学校づくりの推進
- (5) 学校全体の業務の見直しと勤務環境の整備

2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの開発に伴い、平成3年に開校し今年度33年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅から北へ徒歩10分の位置にある。学校の周辺には、大型の商業施設や図書館等の公共施設、公園などがあり、快適な住環境の中にある。北総開発鉄道や国道464号線が整備され、成田空港や東京までの交通の利便性に富み、7年連続で住みよさランキング1位に選ばれたこともある発展の著しい地域である。近年、駅南側の宅地開発が進み、児童数が1132名と北総地区で有数の大規模校となっている。

校舎は、サーカスのようなテントで覆われ、テント下ではさまざまな活動ができ、子どもたちに夢を与えている。校内には、里山をコンセプトとして造られた「ふれあいの里」がある。3つの池と水田があり、池と池を結ぶ小川が流れている。植物や水生動植物を観察でき、児童は自然の四季を体感しながら学習に取り組むことができる。



校長	吉野 高明
開校	平成3年
学級数	32(7)
児童数	1132名
職員数	県費 59名 市費 11名

(令和5年5月1日現在)

保護者の学校教育への関心は高く、父母と教職員の会を中心とした保護者や地域の方々により、交通安全指導や図書のボランティア活動が進められている。近年、特に児童数の増加により登下校の安全確保を積極的に進めている。知・徳・体の調和のとれた教育活動を中核に、小倉台小の合言葉「わにまる」(ひろげよう友達のを、にっこり笑顔であいさつ、まもろう命、ルールを大切に)を掲げ、指導と実践の一体化を図っている。また、印西市の学校教育の特色であるICTを活用した教科指導や積極的なタブレット端末の活用及び外国語科授業の充実を目指す。



▲ALTと連携した外国語の授業

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

思考力・表現力を高める学習指導の在り方

(2) 研修内容

- ①国語科を中心とした授業公開による指導法の研修の実施
- ②体育科の理論及び実技研修の実施
- ③あすなる研修(若年層研修)の充実
- ④外部講師の指導を受けての特別支援教育研修
- ⑤年間を通じた計画的なモラールアップ研修

西の原小学校



学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針

- 知徳体のバランスがよく、子ども・保護者・地域から信頼される教育活動の展開
- 常に前向きに改善を進め、子ども・保護者・地域から信頼される教育活動の展開

2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの第19住区の小学校として、平成6年に創設された。学区は、印西市西の原1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、草深の一部から成り、通学に適した範囲にある。近くに北総鉄道の印西牧の原駅があり、中高層マンションや一戸建て住宅地が多いが、自然環境にも恵まれている。4丁目（学校に隣接した地区）の宅地造成が進み、児童数は増加傾向にある。保護者は東京方面へ通勤する社員が大半である。全体的に若い世代の保護者が多い。教育に関する関心は高く、学校行事等にも積極的に参観・協力する保護者が多い。平成22年度に保護者と教職員の会の組織を改変して「西の原っ子応援団」として積極的に活動を行っている。

令和5年度も、引き続き次の重点9項目を設定し、学校づくりを進めている。



校長 香取 伸嘉
 開校 平成6年
 学級数 20(6)
 児童数 643名
 職員数 県費 35名
 市費 10名

(令和5年5月1日現在)

- ①思いやりがあり、正しい行動ができる子
- ②よく考え、表現し、自ら意欲的に学ぶ子
- ③心身ともに健康で、何事にも挑戦する子
- ④主体性、協働性を発揮できる教職員
- ⑤教職への誇りと情熱を持ち、子どもと真剣に向き合う教職員
- ⑥学び高め合い、資質・力量の向上をめざす教職員
- ⑦子どもも教職員もやりがいを感じ、活気のある学校
- ⑧保護者・地域と連携を密にした信頼される学校
- ⑨安心・安全な教育環境の整った学校

3 研修の概要

(1) 研究主題

思いやりがあり、
正しい行動のできる子の育成

(2) 研究の視点

- ①自分の考えを思考し、明確にする手立てを工夫し、主体的に価値について考える。
- ②物事を多面的・多角的に考える手立てを工夫し、考えを広げ、深める。
- ③様々な取り組みを通して、道徳性を養う。

(3) 研究内容

- ・「道徳ファイル」を作成し、授業や様々な活動についての学びを記録して積み重ねていく。
- ・「道徳ファイル」より、児童一人一人の学習状況や道徳性の成長の様子を見取る。
- ※「道徳ファイル」には、ノートやワークシート、タブレットPCを用いて作成したカード等、児童の考えや思いを綴ったものを保存する。

原小学校



校長	寺島 光浩
開校	平成8年
学級数	34 (7)
児童数	1182名
職員数	県費 55名 市費 14名

(令和5年5月1日現在)

学校教育目標

人間性豊かな、考え行動できる

心身ともにたくましい子どもの育成

—自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子—

1 経営方針

「すべては子どもたちのために」

めざすべき学校像や子どもの姿を明確にした学校づくりをとおして、子どもの笑顔が輝く学校、保護者や地域から愛され信頼される学校、子どもや教職員が誇りに思える学校を創りたい。そのために、活力あふれる子どもの育成、チーム原の一員として一致協働体制がとれる教職員集団の構築、開かれた学校づくりを推進する。

2 本校の特色

本校は、本年で開校28年目を迎える。街並みの景観にマッチした近未来的な校舎で、随所に吹き抜けのある校舎内は屋根からの採光にも工夫がなされており、明るく開放的な雰囲気が漂っている。また、各教室に隣接したオープンスペースは、多様な学習や活動に適した空間となっている。

学区は原1丁目から4丁目、平成15年度より草深小学校の統合により草深の一部、平成21年度より東の原地区と広範囲からなる。

平成27年度の牧の原小学校開校に伴う学区変更で一時的に児童数は減少したが、東の原や草深地区の開発は依然進み、本年度は1,182名

の在籍を抱える大規模校となり校舎の増築をしているところである。近隣には大型商業施設やマンション群など近代的な街並みと、田畑が広がり、ザリガニやオタマジャクシが泳ぐ水路、鳥たちが飛来する水田など、緑豊かな自然が多く残る地域がバランス良く融合しており、その地域の特色を学習に生かすことで、児童は双方の良い面を享受することができている。

PTA組織は平成10年度より「保護者と教職員の会」として発足し現在に至っている。保護者は教育熱心であり、学校行事にも積極的に参加をしている。今後も、地域に愛される学校をめざして職員一同努力していきたい。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

令和5年度【社会科・理科・生活科】

思いや考えを聴き合い、話し合い、
学ぶことを楽しむ子どもたちに
～つなぎ つながり
学び合う授業づくりを～

(2) 研修計画

- 1学期・・・校内研修体制づくり
理論研修・校内授業研究会
- 2学期・・・校内授業研究会
- 3学期・・・校内授業研究会
研修のまとめ作成

六合小学校



学校教育目標

やさしく かしこく たくましい子どもの育成

1 経営方針

「子どもが主役の夢を育む学校の創造」

- 徳・知・体の調和の取れた人間性豊かな児童の育成を目指す。
- 相互協力を大切にし、全員参加の学校経営に努める。
- 地域に根ざした開かれた学校づくりを目指す。

2 本校の特色

本校の名称ともなっている「六合」は、瀬戸・山田・吉高・萩原・松虫・平賀の6地区の合併に由来している。創立以来、六合村立、印旛村立、印西市立と改称はしているが、150年の伝統を誇る。敷地内には、樹齢の古い木々が茂り、地域の自然の豊かさを物語っている。印旛沼方面から見ると緑の広がりの中にオレンジ色のとんがり帽の校舎が垣間見える。昭和54年に改修された鉄筋の校舎は、当時としてはモダンなものであった。この頃の児童は、今では保護者として学校に協力していただいている。まさに、何世代にわたって地域に支えられ育まれてきた学校である。

令和2年度、保護者を中心に創立150周年



校長	御子柴 寛
開校	明治6年
学級数	6(2)
児童数	64名
職員数	県費 17名 市費 2名

(令和5年5月1日現在)

記念事業が立ち上げられ、地域がそれを援助し、令和5年1月21日には盛大に記念式典を開催した。選出されたスローガンは「六合小 小さな学校 大きな歴史」である。

また、校庭には芝生が広がり、全天候型の100m走路をもち、児童の体力向上に一役かっている。

さらに、青少年赤十字(JRC)加盟校として、「明るいあいさつのできる子」「考え行動することのできる子」の育成をめざしている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

数学的な見方・考え方を身に付けた児童の育成
～「学び合いが楽しい!」といえる児童の姿を目指して～

(2) 研究仮説

- ①答えや課題解決の方法の見通しをもって活動に取り組ませることで、数学的な見方を養うことができるだろう。
- ②児童が考えを伝え合うことで学び合ったり、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設ければ、考えが広がったり深まったり、数学的な考えを養うことができるだろう。



▲創立150周年記念式典(第1部)



▲和太鼓演舞(第2部)

平賀小学校



校長	松原 一弘
開校	平成2年
学級数	6(2)
児童数	86名
職員数	県費 13名 市費 4名

(令和5年5月1日現在)

学校教育目標

よく学び 心豊かで
たくましい子どもの育成

1 経営方針

- (1) すべては子どもたちのために取り組み、「生きる力」を育む。
- (2) 「良い生活習慣」を身につけさせる。
- (3) 「良い学習習慣」を身につけさせる。
- (4) 教職員は、質の高い指導力を備え、何よりも子どもに信頼される人間であるよう、研究と修養に励む。
- (5) 教育活動が、計画的、継続的、組織的に推進され、信頼される魅力ある学校をつくる。

2 本校の特色

本校は、平成2年4月に開校し、今年で34年目を迎える。学区は、印旛地区東部にあたり印西市の最も東部に位置している。農村部である平賀地区と新興住宅地である平賀学園台からなる。

県立印旛特別支援学校と隣接しており、両校の間の「交流門」を通して、昼休みや授業交流など年間を通した地に足をつけた交流活動を行っている。また、地域のカヌー団体と協力し、全校児童を対象としたカヌー教室を開催している。

児童数は、平賀地区児童が約30%、平賀学園台地区児童が約70%で、減少傾向にある。児童

は、礼儀正しく、縦割り班活動・異校種交流を通して、やさしい心と行動がともなってきた。

保護者は教育への関心と熱意が強く、また学校への理解と協力を惜しまない。PTA活動も円滑で、学校の教育活動の支えになっている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

主体的・協働的な学習を通して
思考力・表現力を伸ばしていく授業のあり方
～クロームブックの活用を通して～

(2) 研修内容

研究教科 各教科

研究の視点

○主体的な思考の視点

〈多面的思考を促すアプローチの仕方〉

- ・導入の工夫
- ・教材・教具の工夫
- ・授業の展開や発問の工夫
- ・既習事項を確認し、比較する場の設定

○表現活動の視点

- ・表現活動を活発にする教具の活用
- ・ペアやグループなど小グループでの言語活動の場の設定

いには野小学校



学校教育目標

心豊かに 進んで学び
たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針（いには野小合言葉）

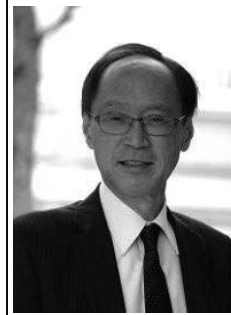
- ① **い** いつも元気いっぱい
・全力でがんばる子どもがいる学校
- ② **に** にこにこ笑顔で
・友だちを大切にし いじめのない学校
- ③ **は** 「はい」と進んで発表
・主体的に学ぶ子どもがいる学校
- ④ **の** のびる力
・それぞれの良いところが きらり輝く学校

2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に開校し、今年度24年目を迎える。一戸建てやマンションが林立する住宅地と、緑豊かな自然環境を学区にもち、学校・駅・公園・歩道にバリアフリー化が図られた、高齢者等に優しい環境にある。また、令和元年度より宗像小学校と統合し市内で最も学区が広い小学校となった。

校舎は、オープンスペースを生かし、多様な教育活動に対応できるような構造となっている。また、校内には印旛沼に生息する水生植物や生物を擁するビオトープが整備され、児童は自然の生態系を体感しながら学習に臨むことができる。

児童の安全・安心を守るための登下校時の安全



校長	小川 勉
開校	平成12年
学級数	17(4)
児童数	407名
職員数	県費 27名 市費 11名

(令和5年5月1日現在)

指導や、教育環境の向上を目指した花植えや草刈り等の環境整備、図書ラウンジの整備や本の修理等、地域や保護者の方々に様々な支援や協力をいただいている。これらを生かし、

- ① 学力の向上
- ② 情操教育の推進
- ③ 体力の向上
- ④ 特別支援教育の推進
- ⑤ 積極的な生徒指導の推進
- ⑥ 地域社会との共生

に特に力を入れて取り組んでいく。



▲運動会

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

ICT機器や授業支援アプリを使って
効果的に学習する児童の育成

(2) 研修内容

情報端末や授業支援アプリのICT活用の仕方を知り、一人一人の職員の操作スキルを高め、効果的な国語科、算数科指導をどのように行っていけばよいかを研修し指導に生かしていく。

滝野小学校



学校教育目標

夢を抱き、
心豊かに、自ら学び、
たくましく生きぬく児童の育成
「たのしく学ぶ」
「きもちの優しい」「のびのびと活動する」

1 経営方針

チーム滝野として全職員の英知と行動力の結集により、児童の創造力を引き出し、夢を育む教育活動の実践

- ①県教委、市教委の指針、施策等に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成
- ②全職員が滝野小学校の職員であるという自覚と責任のもとに、児童一人一人の個性を生かし、愛情と情熱をもったきめ細やかな教育活動の日々の実践
- ③教育課程の編成、教育活動の諸条件を整備し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、確かな学力、生きる力を育む教育活動の取組
- ④教師の資質の向上と専門性を高める研修を推進し、施設・設備・教材等の活用を工夫し、一人一人の児童に即したわかる授業の実践
- ⑤学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、共に信頼・協力し合う一人一人の子どもを大切にしたい、開かれた学校作りを推進
- ⑥学校内外の行事や、文書管理を整理し、教員が生き生きと職務に専念できるよう、働き方改革を推進



校長	市原 康之
開校	平成9年
学級数	17(4)
児童数	515名
職員数	県費 30名 市費 7名

(令和5年5月1日現在)

2 本校の特色

本校は、印西市本埜地区の西部に位置し、平成9年4月に千葉ニュータウン計画23住区に新設された。滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。滝野の街の中央に位置し、街のシンボリック存在になっている。生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近県から転居してきた家庭が多い。保護者の多くは会社員で、核家族化が進んでいる地域であり、教育に対する関心は極めて高い。

平成22年3月、1市2村合併のため、印西市立滝野小学校に学校名を変更した。平成28年度に、創立20周年を迎え、滝野中学校とともに記念行事を行った。安心・安全で信頼される学校づくりに努め、知・徳・体の調和のとれた児童の育成に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究主題

自分の考えをもち、仲間との交流を通して主体的に学ぶ学習のあり方
～ICT活用や複数教科での実践を生かして～

(2) 研究概要（算数科）

- ・問題の解決に向けての見通しをもつことができる場を設定し、話し合いやツール、ICT活用を通して、考えを整理・自立解決・交流活動する場を設定する。
- ・校内授業研究会において、一人一授業を展開することで、指導力の向上に生かす。

牧の原小学校



校長 岡田 光靖
 開校 平成27年
 学級数 32 (5)
 児童数 900名
 職員数 県費 51名
 市費 16名

(令和5年5月1日現在)

施設が建ち並び、自然との調和をめざした宅地開発により、人口増が進んでいる地域である。

保護者の教育に対する関心は高く、学校教育活動に対し大変協力的で、ともに学校を創ろうという高い意識が感じられる。

敷地の一角にある田を利用した稲作学習での食育活動など、文化的・体育的な行事を活発に行い、多様な経験や異学年の交流を通して、心豊かな児童の育成に努めている。また、一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導により学力向上を図っている。



▲5年生 稲作学習

学校教育目標

心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成
 — 愛・希望・勇気を育む —

1 経営方針

「新しい時代を担う人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる心身ともにたくましい子どもの育成」をめざし、学校教育の充実に努める。

(1) めざす子ども像

- やさしく思いやりのある子
- 進んで学び、よく考える子
- 体をきたえ、元気な子

(2) めざす教師像

子どもと共に生きる豊かな人間性と社会性のある教師

(3) めざす学校像

一人一人の力を最大限に伸ばし、子どもにとって楽しい学校

2 本校の特色

本校は北総線印西牧の原駅の北西部に位置し、牧の原地区・牧の台地区・草深地区の一部を指定学区としている。もともとは雑木林の山や湿地からなる地形であったが、千葉ニュータウン21住区の開発に伴い、原小学校の分離校として平成27年4月に開校した。駅周辺及び国道464号線沿道には商業

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

自分の考えをもち、進んで伝え合う児童の育成

(2) 研修内容

【道徳科】

よく考え、本音で議論することができる児童を育成するよう授業を改善する。

【体育科】

児童一人一人が学習内容を理解し、わかる・できる喜びを味わう授業を改善する。

本埜小学校



校長	小田 英紀
開校	令和元年
学級数	6 (2)
児童数	77名
職員数	県費 17名 市費 7名

(令和5年5月1日現在)

学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。学区は旧本埜村全域で広く旧印西市と旧印旛村の学区に接しており、児童は徒歩とスクールバスで登下校している。専業農家は少なく兼業農家がほとんどであり、地域、保護者の教育についての関心は高く、歴史ある学校を大事にしようとする気風が代々引き継がれている。学校行事や交流活動、美化活動についても協力を惜しまない。地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。

学校教育目標

「ふるさと本埜を誇りとし、次代を皆でたくましく生き抜く児童の育成」

1 経営方針

- ・主体的に学び合い、話し合い、励ましあうことで、お互いに高めあえる児童の育成
 - ・児童一人一人の良さを見出し伸ばす教職員
 - ・児童の成長のために全教職員が協力・協働する学校
 - ・ふるさと本埜を知り学び、誇りとする学校
- ① 確かな学力を育む
 - ・わかりやすい授業、ICT教育の推進
 - ② 豊かな心を育む
 - ・道徳教育、福祉教育の推進
 - ③ 健やかな体を育む
 - ・千葉県、遊・友スポーツランキング参加
 - ④ 安全、安心な学校づくり
 - ・地域や保護者と共に育てる教育活動

2 本校の特色

本校は千葉県北部の印西市にあり、東京へ40km、県都千葉市へ30km圏に位置する田園地帯にある。平成22年3月23日、1市2村の合併で印西市となった。さらに平成31年4月1日、本埜第一小学校と本埜第二小学校が統合し本埜小学校となった。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

自ら学び、考え、確かな学力を育むわかる授業づくり ～ICTを活用した算数科授業実践を通して～

(2) 研修内容

「確かな学力」を支える基礎的、基本的な力を高めることを主眼に置いた「算数科」の授業づくりについての研究を深めるとともに、ICTを活用した指導法についての研究に取り組む。

(3) 手立て

- ・計算技能を高めるための工夫
- ・「わかる授業」に向けての授業改善
- ・ICTを活用した指導方法・指導場面の工夫

印西中学校



校長	渡邊 義規
開校	昭和33年
学級数	7(3)
生徒数	240名
職員数	県費 25名 市費 5名

(令和5年5月1日現在)

れた。本年度はICT機器の有効な活用により、情報活用能力を育成しながら個別最適な学び及び協働的な学びを推進するとともに、一人ひとりの子どものニーズに応える学校教育活動を充実させるため、“学校生活向上プラン2023”を策定し、組織的、実践的な学校経営を進めている。

学校教育目標

自立 貢献

1 経営方針

未来を生きる子どもたちに「豊かな人間性」と「たくましく生きる力」を養うことは、教育に託された大きな使命である。次代を担う、健康で知性と徳性を備え、変化する社会を主体的に生きる力が身に付くよう、生徒の自立を促す教育を行う。また、未来を見据えた教師としての知性を持ち、全教職員が一体となって家庭・地域との緊密な連携のもと、明るく活気に満ちた学校づくりを推進していく。

2 本校の特色

本校は昭和33年に大森中、木下中、永治中の統合により町立印西中学校として開校し、平成30年には、創立60周年を記念する式典を開催した。市内随一の広い校地には、一年を通して木々の緑と草花があふれ、落ち着いた環境の中で、生徒は明るく元気に生活している。開校以来文武両道を目指し、学習指導と部活動等の課外活動の充実に力を注ぎ、市内の中心校としての役割を果たしてきた。特に学習指導や保健体育、体力づくり等の研究では、国や県から何度も表彰を受けている。また、平成21年度は、永年地域と共に行ってきた美化活動や資源回収活動が高く評価され、「3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進功労者等表彰事業」で文部科学大臣より表彰さ

3 研修の概要

(1) 研究テーマ

基礎的・基本的な知識・技能とICT機器を活用して、自ら課題を解決しようとする力を育てる学習指導のあり方

(2) 研修内容

- ①主体的・対話的で深い学びの実践
- ②全教科・領域の授業研究を行う(全職員)
- ③全校同一題材で道徳を行う(学期1回)
- ④若年層教員を育てる研修を行う(全職員)
- ⑤不祥事防止研修を行う(全職員)
- ⑥防災教育に関する研修を行う(年1回)
- ⑦心肺蘇生法・AED研修(年1回)
- ⑧GIGAスクール構想に伴い、ICT機器を積極的に活用する(全職員)
- ⑨LGBTQに関する研修を行う(年1回)



▲運動会

船穂中学校



学校教育目標

未来を拓く「生きる力」を育み、
次世代を担う生徒の育成

1 経営方針～自学・健康・友愛～

- (1) 教育に対する情熱をもち、分かる授業に向けて工夫・改善し、学力向上を目指す。
- (2) 心を通わせて、あいさつ、歌声、清掃ができる、心豊かな生徒を育む。
- (3) 保健指導や安全教育の推進、健康や体力の増進を図る。
- (4) 家庭、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- (5) 業務の工夫・改善と効率化を図り、勤務環境を整える。

2 本校の特色

本校は、昭和22年開校以来、創立77年目を数える歴史と伝統のある中学校である。学区には、田畑も多く、緑豊かで、たいへん自然環境に恵まれている。校門をくぐると四季折々の色鮮やかな花々や樹木の緑が目の前に広がり、落ち着いた環境をつくりだしている。

地域に根ざした、開かれた学校として、教育目標である『未来を拓く「生きる力」を育み、次世代を担う生徒の育成』のもと、夢と希望と感動のある学校を目指して取り組んでいる。

創立50周年記念式典から、本校の3つの



校長 坂野 峰子
開校 昭和22年
学級数 6(2)
生徒数 183名
職員数 県費 23名
市費 6名

(令和5年5月1日現在)

柱として、「自学・健康・友愛」を掲げている。自学ノート「船穂中スタディガイド」を活用し、一年間の学習の足跡を蓄積し、学力向上を目指している。また、生徒たちの学校行事への取り組みは積極的で、体育祭や合唱コンクールなど、毎年、多くの感動の場面をつくり出している。学校と保護者、地域が一体となって、歩んでいる学校である。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

『主体的・対話的で深い学びのできる生徒の育成』
～基礎・基本の充実と思考力・判断力・表現力の育成を通して～

(2) 研修内容

- ① 教科毎に基礎基本を充実するための方策を明らかにし、「学び合い・話し合い学習」を意図的に行う。
- ② 授業の中でめあてを持たせ、振り返る活動を取り入れることで、思考力を育成する。
- ③ 指導体制の工夫を図り、「学び合い・話し合い学習」を推進し、生徒個々にきめ細かく対応することで学習意欲を高める。
- ④ 「自学」の活用を図り、家庭学習の方法を身につけさせる。

木刈中学校



学校教育目標

心身ともにたくましく 自ら学び
共に生きる生徒
—笑顔・感動、はつらつ木刈—

1 経営方針

本校は、教育基本法、学校教育法、学習指導要領に則り、併せて印西市教育施策の基本目標「知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む」をふまえ、「学ぶ力・豊かな心・健やかな体」の調和のとれた生徒の育成をめざす。

2 本校の特色

昭和59年に開校し、本年で40年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅の北側に位置し、学区は、北総線と大型ショッピングセンター街を挟んで、南北に広がる。平成29年度から新たに永治地区が学区に加わり、開校当初より学区面積が約4倍に広がった。今後、さらに生徒数が増加することが予想される。

生徒は学習や部活動に熱心に取り組み、学校行事への参加意欲は旺盛である。「体育祭」や「秋陽祭・合唱コンクール」に全校を挙げて取り組んでいる。生徒の約85%が部活動に加入し、心身の成長を目指して意欲的に活動している。



校長	三浦 明久
開校	昭和59年
学級数	22 (3)
生徒数	818名
職員数	県費 49名 市費 6名

(令和5年5月1日現在)

また、校外でも興味・関心を持った活動に積極的に参加し、技能や体力の向上を図っている。

生徒会活動の一つとして、平成13年度生徒総会で制定された生徒目標「笑顔であいさつ・ひびけ歌声・活かそう時間・心で清掃」を掲げ、全校生徒で一生懸命に取り組んでいる。

3 研修の概要

(1) 研究主題

「よりよく生きる力を高めるための学びの
つながりを意識した授業づくり」
～自ら学び、共に生きるための力を育む～

(2) 研修内容

- 学びのつながりを意識した授業づくり
 - ・単元配列表を活用し、身につけたスキルが他教科に転移することを想定した授業づくり
 - ・ICT活用の促進や板書計画の工夫
 - ・日々の学びと将来の生き方や生活をつなげる授業づくり
 - ・主体的な学びと協働的な学びの場面の有効なつながりを考えた授業づくり
- ユニバーサルデザインを取り入れた授業を
実践する
 - ・だれ一人取り残さない授業の実現
 - ・個別最適な授業の展開
- 生徒と共に学び、学習の伴走者としての授業
実践を目指す

小林中学校



校長 佐藤 和隆
 開校 平成2年
 学級数 6(2)
 生徒数 182名
 職員数 県費 18名
 市費 3名

(令和5年5月1日現在)

学校教育目標

自立と貢献

【校訓】 一生懸命はかっこいい

1 経営方針

- (1) 生徒一人一人を大切にした明るく活気ある学校づくり
- (2) 学力向上を目指す学校づくり
- (3) 安全・安心を図る学校づくり
- (4) 地域・保護者から信頼される学校づくり
- (5) 楽しく働き続けることのできる職場環境づくり

2 本校の特色

平成2年度に開校し、本年度34年目を迎える。近くには小林牧場があり、自然豊かな環境の中にある。古くからある地区と新しく開発された地区の住民がうまく融合し、地域の結びつきは強い。特に「さわやかコミュニティ推進委員会」や「小林住みよいまちづくり会」など地域の組織がしっかりと機能し、地域行事も盛んに行われている。保護者・地域住民とも学校に協力的な地区である。

○学習の手引き作成と活用

5教科で学習方法のガイダンスとなる学習の手引きを作成し、全校生徒に配付するとともに説明会を実施している。学習方法

のポイントを理解し、自主的、持続的に学習しようとする意欲の向上を図っている。

○JRC活動

平成5年に青少年赤十字採用校となり、以来赤い羽根街頭募金や通学路のゴミ拾いなど福祉・奉仕活動に取り組んでいる。

3 研修の概要

(1) 研究主題

基礎・基本の定着を図り、ICTを活用して主体的に学ぶ生徒の育成

(2) 研究・研修の重点

- ①基礎・基本の確かな習得
 - ・「学習の手引き」、タブレットの活用
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ・授業の改善、内容の充実、タブレットの活用
- ③家庭学習の充実
 - ・GIGAスクール構想への対応
- ④指導過程の工夫・改善
 - ・校内授業研修会の実施



▲生徒の朝ボランティア活動

原山中学校



学校教育目標

「夢の実現に向けて豊かな心とたくましく
生きぬく力を持つ生徒の育成」
～SCSSTを通して～

1 経営方針

「Safety」いじめのない安全・安心な学校
「Courtesy」挨拶の素晴らしい学校
「Show」授業・歌声・行事の充実した学校
「Service」清掃や奉仕活動に進んで取り組む学校
「Thanks」ありがとうが溢れる学校
を合言葉に生徒と教員が一丸となり夢のある学校創りを目指している。

2 本校の特色

平成2年に船穂中学校より分離・開校し、34年目を迎えた。

学区は、千葉ニュータウンの内野・原山・戸神台・中央南・泉・武西学園台の一部の6地区からなる。高層集合住宅に囲まれているが、千葉県立北総花の丘公園に隣接し緑が多く自然環境に恵まれている。

創立以来、生徒の主体的な活動を大切にしており、「挨拶・歌声・行事・奉仕」を生徒会の伝統とし、「挨拶運動」や「無言清掃」など自治的活動に



校長	泉水 真由美
開校	平成2年
学級数	9 (3)
生徒数	278名
職員数	県費 25名 市費 4名

(令和5年5月1日現在)

取り組んでいる。年2回の地域ボランティア「全校古紙回収」は地域に根付いている。

また、地域との連携を深める教育に主眼を置き、例年、中学校区の2小学校(内野小・原山小)PTAと協力し、定期的に防犯パトロールを行っている。地域との連携・融和を持続しつつ、学校と保護者、地域の協力体制ができています。



◀ 全校古紙回収

年2回(1・2学期)、生徒全員で中学校区の各家庭より古紙(資源)回収を行う。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

「基礎・基本の定着を図り、
読解力を高める学習指導の在り方」
～ICTを活用した広げ・深める学習を通して～

(2) 研修内容(概要)

- ①校内授業研修会(各教科・領域)
- ②校内研修会(教育相談・ICT等)
- ③北総教育事務所管理主事訪問(管理運営)
- ④不祥事根絶・モラルアップ研修

西の原中学校



学校教育目標

社会に対応し、心豊かにたくましく生きる
若者の育成
～常識と良識を持った生徒～

1 経営方針

学校は子どもの学習の場であり、人間関係を体験する場でもある。そこで、全職員が「生徒一人一人の良さを引き出し、それぞれが最大限に伸びるように支援する」とともに「すべての生徒が生き生きと学校生活を送れるようにする」ことを念頭に、一体となって指導にあたる。

2 本校の特色

本校は平成6年度に開校し、今年で30年目を迎える。公立中学校では県下に数少ない制服を定めない中学校で、生徒は私服で授業に参加している。校則等もなく、生徒は「西の原中学校の生徒としての『常識と良識』」を意識し、楽しく中学校生活を送っている。ここ数年、地域の開発が急ピッチで進み、学校の周辺にも大型の商業施設が増え、従来の中高層の集合住宅に加え戸建て住宅も急速に増えてきている。そのため生徒数の増加は著しい傾向にある。保護者の教育に対する関心は高く、授業参観や保護者会への参加も積極的である。



校長 白井 昌章
開校 平成 6年
学級数 22 (3)
生徒数 701名
職員数 県費 42名
市費 5名

(令和5年5月1日現在)

本校は「キャリア教育」の取組として、1年生は「職業調べ」、2年生は「自己理解」「職場体験」、3年生は「進路選択」をとおして自己の生きる道を考える学習を行っている。また、ICT機器の効果的な活用を図り、学習意欲の向上に努めている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

基礎・基本を身に付け、思考し、表現しながら主体的に学ぶ生徒の育成

(2) 研修内容

- ①クロームブック活用研修
- ②学級経営研修
- ③ICT研修
- ④校内授業研修（全教科）
- ⑤特別支援教育研修
- ⑥道徳授業研修
- ⑦人権教育研修
- ⑧モラールアップ研修
- ⑨アナフィラキシーの理解とエピペン研修
- ⑩いじめ防止対策・教育相談等研修



▲授業の様子

印旛中学校



校長	磯 昌 稔
開 校	昭和50年
学級数	9 (3)
生徒数	328名
職員数	県費 24名 市費 5名

(令和5年5月1日現在)

どの部活動も県大会出場やコンクール・作品展等を目指して、日々努力を重ねている。学校生活では生徒の主体的な行動を尊重し、生徒の活動を生かした学校づくりを進めている。特に、生徒会では「明るい挨拶、響く歌声、自ら清掃」を3本柱に、生徒会本部、中央委員会、専門委員会の中で活発な話し合いが行われている。

学校教育目標

自ら学ぶ意欲と豊かな心を育み、主体的に行動できる生徒の育成

1 経営方針

- (1) 授業力の向上
- (2) 豊かな心を育成する
- (3) 生徒指導の充実
- (4) 進路指導の充実
- (5) いじめや不適應の解消
- (6) 特別支援教育への理解と協働
- (7) 生徒会、部活動の活性化
- (8) 教職員の働き方改革の推進

【本年度の重点目標】

- (1) 学力の向上を図る
- (2) 豊かな心を育成する
- (3) 生徒主体の活動を推進する
- (4) 生徒の不適應解消を目指す
- (5) 特別支援教育への理解と職員全体での協働

2 本校の特色

本校生徒328名は、地域の期待と温かい愛情に支えられ、落ち着いた中学校生活を送っている。

体育祭、合唱コンクール、特別支援学校との交流会等の学校行事に生徒が全力で取り組むことで本校の伝統を作ってきた。

また、本校は生徒の9割以上が部活動に参加し、

3 研修の概要

(1) 研究主題

自ら学ぶ意欲と豊かな心を育み、主体的に行動できる生徒の育成

(2) 研修内容

①多様な学習形態の工夫

- ・学習活動のねらいを実現するためにふさわしい学習形態を用いる。
- ・ブレインストーミング、ディスカッション等の学習手法を駆使する。

②学習評価の工夫

- ・生徒のプラス面を積極的に評価する。
- ・個人内評価を有効に活用して進歩の状況を実感できるようにする。

③ICTの日常的な活用

- ・学習内容を調整し、個々の生徒に合った学びの機会を提供する。
- ・機器を活用し、まとめ発表する活動により新たな表現や考えを持たせる。

本埜中学校



校長 横尾 浩由
 開校 昭和22年
 学級数 2(2)
 生徒数 23名
 職員数 県費 12名
 市費 2名

(令和5年5月1日現在)

学校教育目標

豊かな心を持ち、一人一人の生徒が光りがやく学校

1 経営方針

【めざす生徒像】

- ① 目標達成のために努力・工夫ができる生徒
- ② 仲間と共に困難に立ち向かう生徒
- ③ 自分も他の人も大切にできる生徒
- ④ 良き伝統(挨拶・歌声・清掃)を継承・発展させる生徒
- ⑤ 健康的な生活を心掛けることができる生徒

2 本校の特色

- ① 小規模特認校として個々の生徒に応じた指導を全職員で行う。
- ② 聞くこと考えることのメリハリをつけ、獲得した知識や技能を活用する授業を展開し、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ③ キャリア教育の充実(体験)を図る。
 - ・1年…地域の産業を知る・職業調べ(印西・本埜を知る)
 - ・2年…印西市生き生き体験(職場体験) 夢の懸け橋プロジェクト(働いている人から話を聞く)
 - ・3年…主体的な進路選択を目指した

高校調べ・訪問, 進路決定, 進路体験会

- ④ 良き伝統(あいさつ・歌声・清掃)が日々の活動で実践され、生徒一人一人の誇りとなっている。

- ・あいさつで心を開く
 - ・歌声で心を結ぶ
 - ・清掃で心を鍛える
- 委員会活動を中心として、生徒が主体的に実践。

- ⑤ 行事や諸活動のあらゆる場面を通して「自分づくりの力」「人間関係の力」を育てる。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

基礎・基本の定着を図り、生徒一人一人の自主的な学習態度の育成を図るための工夫はどのようにしたらよいか。～学ぶ楽しさを見いだすための授業・教材の工夫～

(2) 研修内容

- ① 基礎・基本を定着させるための指導を教科共通で取り組み、知識・技能の習得を徹底することで、理解力の向上を図る。
- ② 学力推進委員会を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、教材・教具の開発を組織的に取り組むことで、学習成果の向上を目指す。
- ③ 教科・全領域で、また、読書活動(朝読書・コラム学習・ビブリオバトル等)を通して「言語活動の充実」に取り組み、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

滝野中学校



	校 長	渡 邊 信
	開 校	平成 9 年
	学級数	1 2 (2)
	生徒数	3 8 8 名
	職員数	県費 2 7 名 市費 4 名

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

学校教育目標

次代を担う、豊かな心とたくましく
生きる力を持った生徒を育成する

1 経営方針

【めざす生徒像】

- (1)自ら進んで、粘り強く学習する生徒
- (2)気持ちよく挨拶できる心豊かな生徒
- (3)健康でたくましい体力作りのできる生徒

2 本校の特色

【重点目標】

- (1)安全・安心な教育環境・学校づくりに努め、健康な身体を育むとともに、防災意識を高め、実践的な安全教育を行う。
- (2)「生きる力」を育むため、主体的な学びを確立し学力向上に向けて、一人一人に基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を行うとともに、応用・発展的な内容も提供する。
- (3)心の教育の充実のため、人権意識や共生の考え方に基づいていじめ防止に努め、道徳の時間の充実を図るとともに、生徒会活動・読書活動・体験的な学習を計画的に行う。
- (4)若年層教員の育成に取り組み、全職員で授業研修の機会を確保して資質や力量の向上に努める。
- (5)学校改善を図るため、学校評価・業績評価を適切に行い、教育計画・組織・運営に改善を加え、参画型の学校経営・モラールアップを行う。

(6)特別支援教育への理解を深め、特別支援学級および通常学級に在籍する支援を要する生徒への、個に応じた指導の徹底を図る。

(7)家庭・地域社会との連携により、地域の特性を生かした教育を推進するとともに、小中の連携による教育効果の向上を目指し、学習規律・生活ルールへの反映、相互授業・行事参観等を行い、9年間を見通した子どもの育成を行う。

(8)全職員に学校における働き方改革を進める目的の意識付けを図るとともに、学校行事の精選や会議のスリム化、業務の効率化等を積極的に図って、推進プランに掲げられた目標に近づけられるようにする。

3 研修の概要

(1)研修テーマ

「基礎・基本の定着を図り、学びがいを感じさせる指導はどうあるべきか」
～全ての生徒がわかる授業を目指して～

(2)研修内容

- ①若年層の授業力向上を目指し、各教科・領域での授業研修の充実を図る。
- ②個や小グループ、集団などの学習形態を適切に用い、学習内容に合わせた言語活動を工夫する。
- ③ICT の機器の活用等、全ての生徒にわかりやすい指示や資料の提示を工夫する。

瀬戸幼稚園



教育目標

物事に自ら関わり、自己充実していくことのできる子どもの育成

1 経営方針

- ①幼稚園教育要領の基本方針に沿って、本園幼児の実態を踏まえた教育を推進する。
- ②幼児の心身の調和的発達を図り、健全な心身の基礎を養うようにする。
- ③「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」領域を調和的に教育課程に位置づけ、豊かな情操や道徳性を育て、自立できるようにする。
- ④指導にあたっては、幼児一人一人の発達段階に即して個別化を図る。
- ⑤園内の環境を整備し、適切な指導を行えるようにする。
- ⑥家庭との連携を密にし、家庭との協力と共に教育効果をあげるようにする。

2 本園の特色

住民の幼稚園への関心が高まり、幼稚園教育の重要性の認識から昭和51年4月に開園する。

本園は、自然環境に恵まれ草花や昆虫などと触れ合う機会が多く、命の大切さについて気づき学ぶ場が多い。

また、いろいろな遊びを通して他の子とかかわ



園長 大野 仁美
開園 昭和51年
学級数 1(0)
園児数 13名
職員数 県費 0名
市費 5名

(令和5年5月1日現在)

り、自分らしさや自分の思いを存分に発揮して遊んでいる。印旛中学校区の小・中学校との交流もあり、連携を図っている。7月に行われる夏祭りでは、PTAの役員、係の保護者の方々が積極的に関わり、祭りを盛り上げている。

このように保育の様子について保護者に理解してもらい、成長の喜びを得られるよう連携を図るための活動を多く取り入れている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

「いきいきと育つ心と体」

～思わず体を動かしたくなる環境を通して～

(2) 研究方法

- ①子どもの姿を職員間で共通理解し、その理由を探る。
- ②目指す幼児像を職員間で共有し、体を動かし遊ぶ場面を捉え考察し、遊びたくなる環境を構成する。



▲もとの幼稚園と交流保育



▲水遊び

もとの幼稚園



教育目標

豊かな感性を持ち、自主的に行動できる子どもの育成

1 経営方針

- (1) 幼児の主体的な活動を促し、幼児にふさわしい生活が行われるように努める。
- (2) 遊びや生活を通して幼稚園教育要領の示すねらいが総合的に達成されるように努める。
- (3) 幼児一人一人の特性に応じ、発達に即した指導を行うように努める。

2 本園の特色

日本埜村に平成7年、住民の強い要望で村立の幼稚園（3年保育）として開園。開園当初は3クラスであったが、平成9年ニュータウンの街開きにより入園希望者が増え、第2園舎を増築。園児定員数は315名となる。

広い園庭と豊かな自然に恵まれた環境の中、遊びを通して自然と触れ合うことを大切にしている。幼児期にたくさん遊ぶことで、いろいろなことに興味・関心を持つようになるので、多くの経験ができるよう場の提供を心がけている。

当園は3年保育のため、5歳児が3、4歳児の面倒をみるなど、異年齢児との交流をもつことで、



園長	新井 喜代美
開園	平成7年
学級数	9 (0)
園児数	200名
職員数	県費 0名 市費 23名

(令和5年5月1日現在)

優しさや思いやりが育ち、責任感も培われている。多くの友達とかかわることで楽しさを共有し、その中で自分の思いを伝え、相手の気持ちを理解しようとする心が育つように援助している。

年長組のカリキュラムでは、英語を身近に感じてもらい、国際的な感覚を身につけてほしいという願いから、遊びを通して英語に親しめる活動を取り入れている。

保護者会活動がとても積極的で、幼稚園の運営に参加・協力する体制が整っており、子どもの成長を共に喜びあうことができている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

「いきいきと育つ心と体」

～思わず体を動かしたくなる環境をとおして～

(2) 研究方法

- ① 子どもの姿を職員間で共通理解し、その理由を探る。
- ② 目指す幼児像を職員間で共有し、体を動かし遊ぶ場面を捉え考察し、遊びたくなる環境を構成する。



▲瀬戸幼稚園と交流保育



▲園周辺を散歩

基本目標

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する（文化・芸術）



▲第27回印西市民文化祭（舞踊・邦楽の集い）

第27回印西市民文化祭は、新型コロナウイルス感染症の流行により、開催を中止していた能楽の集い、歌謡の集い、民謡の集いが3年ぶりに再開し、以前の活気を取り戻しました。また、文化祭に足を運ぶことができなかつた方にも文化祭を楽しんでいただけるよう、オンライン市民文化祭を開催しました。

市民の豊かな心や地域に対する関心の醸成を図るため、自主的な文化・芸術活動を支援するとともに、様々な文化や芸術に触れることができる取組を実施する。

(1) 文化・芸術活動の推進

①文化・芸術事業の充実

○文化ホール主催事業等の実施

(※P74～76参照)

②文化・芸術活動の支援

○市民文化祭の実施

広く市民に日ごろの文化芸術活動の成果を発表する場を提供するため、第28回印西市民文化祭を開催する。

展示、大会、体験、発表の各部門を10月下旬から11月下旬にかけて5会場において開催するとともに、オンライン市民文化祭を12月に実施する。

○市民の地域文化活動への支援

市民文化団体の自主的な事業に協力及び連携し、市民主体のまちづくりを支援する。

音楽による地域文化の創造・地域の活性化を目的とし、印西まちなか音楽祭実行委員会との共催で第2回「印西まちなか音楽祭」を5月に実施した。



▲第2回印西まちなか音楽祭

○文化・芸術団体活動への支援

印西市芸術文化協会（組織図）及び加盟している14団体による主催事業を支援する。



○文化・芸術情報の提供

共催・後援承認団体のちらし等を公民館等へ掲示及び広報紙に掲載し情報提供に努める。

○芸術ホール及びアートギャラリーの整備

市民の文化芸術活動の機会を提供することを目的とし、市民の自主的な文化芸術活動の発表の拠点とするため、千葉ニュータウン中央駅圏に整備する。

③子どもたちの文化・芸術活動の充実

○文化・芸術活動体験の実施

市民文化祭体験コーナーで主に子どもたちを対象とした事業を実施し、文化芸術に触れる機会を提供する。

④文化・芸術活動を支える人材育成の推進

○芸術文化協会と連携し、地域の文化・芸術活動を支える人材育成を支援

本市の歴史や文化財は先人の残した文化遺産であり、その価値や意義を踏まえ次世代に継承するため、地域の伝統芸能の継承、文化財の保護や公開、活用事業などを推進する。

（２）文化財の保護・活用の推進

①指定文化財保護事業

○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存

印西市には、国6件、県17件、市26件の計49件の指定文化財及び1件の国登録文化財がある。指定文化財の維持管理は、所有者及び管理者が行っているが、教育委員会では保存に対する適切な指導に努め、所有者及び管理者の負担の軽減を図るため、文化財保存事業に対する助成制度を設けている。

○無形民俗文化財の継承支援

市内には県・市指定の無形民俗文化財保存会が6団体活動しており、郷土の伝統芸能の伝承及び後継者養成を図るため、市補助金を交付している。

○文化財の普及啓発

国・県・市指定文化財を掲載した冊子の発行や指定文化財一覧をホームページに掲載している。また、印旛歴史民俗資料館及び木下交流の杜歴史資料センターで収蔵する文化財等の展示をするほか、文化財の説明板や標柱を設置するなどして普及啓発活動を展開する。

また、文化財防火デーにあわせ、文化財所有者・地区住民・消防署・消防団などの協力を得て文化財防災訓練を実施している。



▲文化財防災訓練（令和4年度 栄福寺薬堂）

②文化財基礎調査事業

○仏像調査・石造物調査の実施、調査報告書刊行準備

市内に残る文化財の保護活用を図るため、昨年度は本埜地区の石造物調査報告書を刊行した。印旛地区の石造物調査を行う。

③埋蔵文化財の保護事業

市内には、750ヶ所を超える原始から近現代にかけての遺跡（埋蔵文化財）が所在する。埋蔵文化財は地中に包蔵されているため、その範囲や密度を明確に把握することは難しく、遺跡内における開発行為等に対して円滑な調整、指導を行うために常にその状況の把握に努めている。

○市内主要遺跡調査の実施

市内に多く所在する遺跡を保存・活用するため、遺跡の範囲内容確認調査を行った。昨年度は、結縁寺塚群及び戸ノ内遺跡の調査を実施した。

○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護

事業者の開発行為等に伴う発掘調査に対し、随時確認調査を実施して個人及び事業者負担の軽減を図っている。昨年度は13地点の確認調査及び1地点の本調査を実施した。

○道作古墳群の保存

道作1号墳の発掘調査により出土した埋蔵文化財について、適切に保存していく。



▲道作1号墳現地説明会の様子

④文化財の活用事業

市内に所在する文化財の周知及び地域文化の振興を目的として、文化財に関する資料の提供、市内の文化財を紹介する文化財めぐり、公民館等での文化財に関する講座の講師派遣等、さまざまな事業を通じ文化財の普及・活用に努めている。

○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用
・貝化石採集・観察会

国の天然記念物として学術的にも重要な「木下貝層」の貝化石を活かした積極的な事業を推進し、印西市の誇る財産として次世代に継承するとともに啓発、活用するため観察会を実施する。

期日 令和5年8月

概要 小学生の親子と中学生を対象に、国指定天然記念物木下貝層を見学後、場所を移動して貝化石の採集・観察会を行う。



▲貝化石採集・観察会（令和4年度）

・民具収集・公開事業

市内の民具類を収集・整理し、保管・公開するとともに、活用事業として市内小学校の資料見学等を実施している。

また、令和3年度から民具を活用した歴史講座を出前講座のメニューに加えている。

○無形民俗文化財の公開

毎年、無形民俗文化財に指定された伝統芸能の公開事業を、獅子舞や神楽の保存会が中心となって実施している。

【令和5年度予定】

名称	期日
八幡神社の獅子舞 ※	4月16日
鳥見神社の獅子舞 ※	5月3日
別所の獅子舞 ※	8月24日
いなざき獅子舞 ※	9月23日
鳥見神社の神楽 ※	10月17日
浦部の神楽 ※	10月15日

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況により中止となる場合あり。



▲鳥見神社の獅子舞（令和5年度）



▲別所の獅子舞（令和元年度）

⑤印旛歴史民俗資料館運営事業

（※P77参照）

⑥郷土資料の収集・保存・展示

○分散化した歴史的資料の集約化の検討

○集約化に伴う新たな歴史文化施設の検討

展示資料の充実と活用を図るため、印旛歴史民俗資料館を木下交流の杜歴史資料センターへ集約することについて、新たな歴史文化施設の整備を含めて検討を行う。

令和5年度末までに（仮称）印西市歴史文化施設基本計画を策定する。

【指定・登録文化財】

○ 指定文化財

令和5年6月1日現在

区分	種別	名称	伝承地・所在地	指定年月日	所有者・伝承者	
国	有形・建造物	宝珠院観音堂	小倉 1138	昭和 9.1.30	宝珠院	
	有形・建造物	栄福寺薬師堂	角田 2	昭和 29.9.17	栄福寺	
	有形・建造物	泉福寺薬師堂	岩戸 1671	昭和 52.6.27	泉福寺	
	有形・彫刻	銅造不動明王立像	結縁寺 516	大正 3.4.17	結縁寺	
	有形・彫刻	木造薬師如来坐像・ 木造薬師如来立像(七仏薬師)	松虫 7	昭和 34.6.27	松虫寺	
	記念物・天然記念物	木下貝層	木下字平台 1944 ほか	平成 14.3.19	印西市	
県	有形・彫刻	木造毘沙門天及び両脇侍立像	松崎 396 毘沙門堂	昭和 29.3.31	多聞院	
	有形・彫刻	木造延命地藏菩薩坐像	和泉 971	昭和 30.12.15	泉倉寺	
	有形・彫刻	木造薬師如来坐像	平賀 2146 岩戸 1742 印旛歴史民俗資料館	昭和 42.3.7	来福寺	
	有形・彫刻	木造金剛力士立像	滝 1009	平成 3.2.15	瀧水寺	
	有形・彫刻	銅造十一面観音立像	木下 777 上町観音堂	平成 6.2.22	三宝院	
	有形・彫刻	木造地藏菩薩立像	別所 1005	平成 7.3.14	地藏寺	
	有形・彫刻	木造不動明王立像及び毘沙門天立像	小林 1615	平成 25.3.1	西福寺	
	有形・工芸品	梵鐘	竜腹寺 626	昭和 47.1.28	龍腹寺	
	有形・工芸品	梵鐘・建武五年在銘	滝 1009	昭和 47.1.28	瀧水寺	
	有形・工芸品	梵鐘・応安二年在銘	大森 2034-1	昭和 47.9.29	長楽寺	
	有形・工芸品	鋳銅孔雀文壺	松虫 7	昭和 60.3.8	松虫寺	
	有形・考古資料	馬込遺跡出土瓦塔	木下 1489-1 木下交流の杜歴史資料センター	平成 20.3.18	印西市	
	民俗・有形民俗文化財	押付の水塚	押付地先	昭和 53.2.28	個人	
	民俗・無形民俗文化財	鳥見神社の獅子舞	平岡 1476 鳥見神社	昭和 30.12.15	平岡鳥見神社獅子舞保存会	
	民俗・無形民俗文化財	鳥見神社の神楽	中根 1339 鳥見神社	昭和 36.6.9	大和神楽保存会	
	民俗・無形民俗文化財	浦部の神楽	浦部 2125 鳥見神社	昭和 42.12.22	浦部神楽保存会	
	記念物・天然記念物	将監のオニバス発生地	将監地先	昭和 52.3.8	個人	
	市	有形・彫刻	福聚院阿弥陀三尊立像	中根 1378	平成 5.6.22	福聚院
		有形・彫刻	薬師如来立像	滝 1008-1	平成 22.2.19	瀧水寺
有形・工芸品		鋳銅罎口	松虫 7	昭和 51.6.1	松虫寺	
有形・工芸品		曼荼羅掛軸	笠神 725	昭和 54.5.28	南陽院	
有形・工芸品		鋳銅罎口	竹袋 141 竹袋観音堂	昭和 54.9.10	三宝院	
有形・工芸品		観音寺鋳銅罎口	浦部 1978-1	昭和 57.8.5	観音寺	
有形・工芸品		龍湖寺絵馬	物木 213	平成 5.6.22	龍湖寺	
有形・古文書		吉岡家河岸関係文書	木下 1489-1 木下交流の杜歴史資料センター	平成 3.6.4	個人	
有形・考古資料		常滑の大壺	岩戸 1742 印旛歴史民俗資料館	昭和 51.6.1	印旛村文化財保護の会	
有形・歴史資料		板石塔婆	吉高 533-1-2	昭和 51.6.1	迎福寺	
有形・歴史資料		弥陀一尊武蔵型板碑	浦部 1978-1	昭和 57.8.5	観音寺	
有形・歴史資料		弥陀三尊下総型板碑	小林 1841	昭和 57.8.5	光明寺	
有形・歴史資料		板石塔婆	岩戸 1742 印旛歴史民俗資料館	平成 3.5.8	個人	
有形・歴史資料		小金牧鹿狩資料「村小旗」	木下 1489-1 木下交流の杜歴史資料センター	平成 3.6.4	印西市	
有形・歴史資料		高札(五榜の揭示)	酒直ト杭地先	平成 17.7.6	個人	
民俗・無形民俗文化財		いなざき獅子舞	和泉 622 鳥見神社	昭和 41.4.19	いなざき獅子舞保存会	
民俗・無形民俗文化財		別所の獅子舞	別所 1005 地藏寺	昭和 41.4.19	別所獅子舞保存会	
民俗・無形民俗文化財		八幡神社の獅子舞	中根 187	昭和 49.4.1	八幡神社の獅子舞保存会	
記念物・史跡		月影の井	浦部 1261-2	昭和 43.4.25	月影の井保存会	
記念物・史跡		上宿古墳	大森 2346-2	昭和 48.1.19	個人	
記念物・史跡		武西の百庚申塚	武西学園台三丁目 128	平成 11.3.25	印西市	
記念物・史跡		泉新田大木戸野馬堀遺跡	草深 1878-7, 泉 70-10	平成 17.8.16	印西市	
記念物・史跡		道古墳群	小林字馬場 2826-1、2826-5	平成 26.3.24	印西市	
記念物・史跡		掩体壕	東の原三丁目 108	平成 28.9.23	印西市	
記念物・天然記念物		藤の木	中根地先	昭和 54.5.28	個人	
記念物・天然記念物		吉高の大桜	吉高 930-1-1	昭和 56.10.15	個人	

○ 登録文化財

区分	種類	名称	所在地	登録年月日	所有者
国	有形・建造物	岩井家住宅主屋(旧武蔵屋店舗)	木下 1645	平成 19.12.5	個人

(3) 市史編さん事業や地域史料の保存

市の歴史の変遷を学術的かつ系統的に記述し、市民の郷土に対する正しい理解と愛郷心の高揚を図り、もって市勢の発展に寄与することを目的に、市史の編さんに取り組む。

① 市史編さん事業

○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施

印西市史編さん事業基本方針に基づき、令和3年度からの第二次刊行計画に沿って、市史編さん専門委員(専門部会)を運営し、市史編さん資料の調査、研究等を行う。

○市史講座等の実施

地域史料を活用した市史講座等を実施する。令和5年度は、市史編さん講演会、市史編さん講座の開催を予定する。



▲令和4年度市史編さん講演会

○市史の刊行

通史編近現代の編さん作業を進める。

令和5年度は『印西市史 通史編4近現代』及び市史研究誌『印西の歴史』第15号の刊行を予定する。

○市史刊行物の頒布

市史刊行物は、市立図書館、学校図書館等に配置して市民の利用に供するほか、市役所生涯学習課、市内公民館、中央駅前地域交流館、印旛歴史民俗資料館、木下交流の杜歴史資料センター各窓口で有償頒布する。

【主な市史刊行物一覧】

- 『印西市史 資料編 近現代』 1～2
- 『印西市歴史読本』 原始・古代編
- 同 中世・近世編
- 同 近代・現代編
- 『印西町史 史料集近世編』 1～4
- 『印西町史 文化遺産編』
- 『印西町史 民俗編』
- 『印旛村史 通史』 I～II
- 『印旛村史 近世編史料集』 I～III
- 『印旛村史 近代編史料集』 I～II
- 『本埜村史 史料集近世編』 1～4
- 『本埜村史 史料集近現代編』
- 『本埜の歴史』(普及版)
- 『ふるさと歴史アルバム いんざい』
- 『新・印西名所図会』
- 市史研究誌『印西町の歴史』(創刊号～第12号), 『印西の歴史』(創刊号～第14号)

② 地域史料の保存及び活用

○木下交流の杜歴史資料センターの管理・運営

木下交流の杜歴史資料センターは、市民の歴史及び文化に対する理解と認識を深めるとともに、市民のふるさと意識の醸成と相互理解を図るために設置された。市史編さんを主な業務とし、市民の共通財産である歴史資料の収集や保存に努めている。

また、印西市史の刊行や展示・講座等を通じ、市民の方々が地域の歴史に触れられるよう、歴史資料の活用を図っている。

○古文書等の調査及び収集

地域に残る歴史資料(古文書等)の調査、収集を随時実施する。

○古文書等の整理及び保存、活用

収集した地域史料は、歴史資料センターにおいて整理、保管し、展示等に活用する。

③ 歴史公文書の収集、整理保管

○歴史公文書の引継、整理保管

行政文書のうち歴史的、文化的資料である歴史公文書を収集、選別し、移管を受けて整理、保管する。

木下交流の杜歴史資料センター

(1) 施設の概要

所在地	印西市木下1489番地1
電話	0476-40-3500
開所日	平成28年4月27日
敷地面積	5,493.76㎡ (一部屋外展示場あり)
建物面積	554.30㎡
延床面積	499.55㎡
展示室	157.1㎡
収蔵庫	222.4㎡ (第1収蔵庫・第2収蔵庫・古 文書収蔵庫・資料収蔵庫)
作業室	36.0㎡
事務室	27.0㎡
構造	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨 造)地上1階平屋造
駐車場	35台



▲施設の全景



▲展示室

(2) 利用案内

開館時間	午前9時から午後5時まで
休館日	月曜日(この日が祝日に当たる ときはその後の日で最も近い休 日でない日), 祝日, 年末年始, 特別の事情により教育委員会が 認めた日
入館料	無料
展示概要	天然記念物木下貝層の貝化石や 千葉県指定有形文化財馬込遺跡出 土瓦塔・瓦鉢等, 木下周辺の原始 から近代初めまでの歴史資料を 中心に展示する。
隣接施設	木下交流の杜広場, 木下万葉公 園, 天然記念物木下貝層指定地



▲案内図

印西市文化ホール



文化ホールは、音楽・演劇・芸能など文化芸術活動の拠点として、積極的にこれらの事業を企画・実施し、市民の芸術文化鑑賞の機会と自主的な活動への支援を行っている。

また、公民館・図書館などの社会教育施設や学校・幼稚園などの学校教育施設と連携を図りながら、音楽・演劇などの持つ特性を生かした青少年の健全育成や生涯学習の振興に努めている。

なお、令和5年4月1日より指定管理者による管理運営を開始した。

【施設の概要】

- 所在地 印西市大森2535
- 敷地面積 施設用地 4,950.88㎡
- 建物構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地上4階建て
- 延床面積 5,317.82㎡
- 駐車場 60台（ホール正面）※
23台（ホール北側）※
115台（印西市役所）※
（※他の施設と共用）

【施設内容】

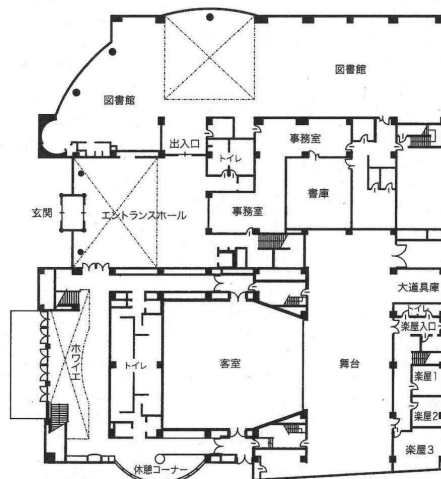
- 客席数 一般席522席（ワンスロープタイプ）
車椅子席3席・親子席6席
- 舞台 間口12m 奥行12m
高さ7～8m（可動）

- 楽 屋 楽屋1（洋室） 定員 6人
楽屋2（洋室） 定員 7人
楽屋3（和室） 定員14人

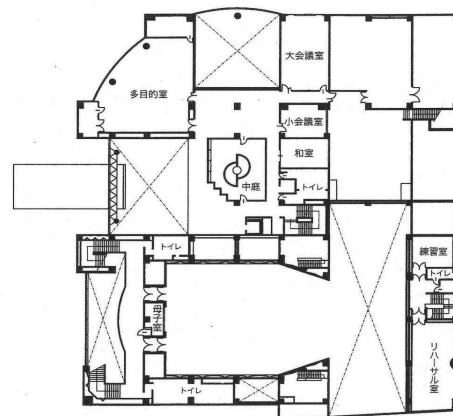
- 会議室等 多目的室 194.32㎡ 定員100人
大会議室 99.68㎡ 定員30人
小会議室 37.81㎡ 定員10人
和 室 33.42㎡（10畳）
練習室 35.35㎡
リハーサル室 95.53㎡

【文化ホール平面図】

1階平面図



2階平面図



(1) 自主文化事業

文化ホールでは、文化芸術の普及に向けた情報発信と地域文化の振興を目的に優れた文化芸術の鑑賞事業、市内の青少年や新進芸術家等の育成事業、文化芸能・伝統文化の普及・振興に関する事業、地域の魅力・賑わい創出事業を実施し、市民に芸術文化や創作活動の発表、鑑賞の場を提供している。

◆優れた文化芸術の鑑賞型事業

国内外の一流の芸術家による公演や、図書館との連携事業を展開するほか、印西市ゆかりの演奏家によるクラシックコンサートなど12事業を実施している。

◆市内の青少年や新進芸術家等の育成事業

小中学校へ演奏家が出向き上質な音楽に触れる機会を提供するほか、子供の創造性の育成、若手芸術家の育成、文化の担い手育成など、7事業を実施している。

◆文化芸能・伝統文化の普及・振興に関する事業

無形民俗文化財を子どもたちが学び体験し、やがて担う若い世代を育成する事業など2事業を実施している。

◆地域の魅力・賑わい創出事業

国際交流と地域の賑わいを創出し、文化交流を図るほか、自主的に活動する団体などを支援し、活発な文化芸術活動を支援する事業や、地域文化・芸術の振興と来館者への鑑賞やふれあい、憩いのひとときとなるよう、文化ホールのホワイエを市民の文化芸術発表の場として「ロビーコンサート」を実施し、さまざまなジャンルの芸術文化を気軽に、より身近に体感することができる。

また、市民の文化芸術作品の発表の場として、エントランスホールに「市民作品展示」のコーナーを設置している。市民作品展示は文化ホールのエントランスを飾る素敵な空間として、多くの市民、団体に利用されている。



▲ロビーコンサート



▲市民作品展示

◆印西市文化ホールイベント情報

「夢工房」の発行

自主文化事業の紹介や、文化ホールを会場として行われる催しを、市民にわかりやすく紹介する情報紙を、毎月発行している。



▲自主文化事業 (ピアノ演奏体験)



文化ホール自主文化事業一覧

No	分野	事業名	日時	回数
1	鑑賞	プレミアム・ライブ「森山良子 アコースティックライブ」	2月24日(土)	1回
2	鑑賞	ワルター・ライブ「小沼ようすけ×宮本貴奈 Plays Standards & Songs」	3月予定	1回
3	鑑賞	ワルト・ライブ「北欧の「笛の魔術師」フリスベル」	10月9日(月・祝)	1回
4	鑑賞	バラエティ倶楽部「林家たい平 独演会」	7月2日(日)	1回
5	鑑賞	絵本 de クラシック「ピノキオの冒険」 (図書館連携事業)	8月20日(日)	1日 2回
6	鑑賞	いんざいの不思議な庭	2月以降予定	1回
7	鑑賞	クラシック・ガラいんざい	11月25日(土)	1回
8	鑑賞	ゆかりのアーティストコンサート	10月以降予定	1回
9	鑑賞	フライデーナイト コンサートシリーズ	10/27(金) 12/22(金) 1/26(金) 3/29(金)	4回
10	鑑賞	みんなで一緒に！ ファミリーコンサート	第1回10月17日(火) 第2回以降は11月～2 月の平日午前中予定	4回
11	鑑賞	お気楽寄席	9月28日(木) 11月・3月予定	3回
12	鑑賞	みんなの歌広場 「歌声カルテットの昭和歌謡コンサート」	7月15日(土)	1回
13	育成	小中学校アウトリーチ	9月以降各校で実施	9回
14	育成	文化ホール探検隊	8月11日(金・祝) 3月予定	2回
15	育成	ピアノ弾き比べ体験 どっちもワンダー！	10月28日(土) 3月3日(日)	2回
16	育成	こどもパフォーマー倶楽部	2月23日(金・祝)に 本番発表会を予定	1回
17	育成	ヤング・ステージ・コレクション	2月予定	1回
18	育成	おはなしにんぎょうをつくろう (図書館連携事業)	8月12日(土) 12月17日(日)	2回
19	育成	アーティスト・アーカイブス	6月以降通年	常時
20	普及育成	知ってるつもり？の獅子舞体験 (別所の獅子舞)	8月10日(木)	1回
21	普及育成	わくわくアート倶楽部	12月以降予定	6回
22	創出	バイリンガル・スピーチコンテスト	9月24日(日)	1回
23	創出	もっと！文化ホール	12月以降予定	3団体
24	創出	芸術文化発表会 「ロビーコンサート」	6月以降通年	12回
25	創出	市民作品展示	6月以降通年	4回

印旛歴史民俗資料館

印旛歴史民俗資料館は、地域の考古、歴史、民俗等の資料等を保存及び活用し、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために設置された。資料の収集・保存を行うとともに、年間を通して見学できる常設展示、歴史講座や体験講座の開催、研究紀要の刊行物により情報提供を行い、市の歴史・文化に対する関心を高めるとともに、地域文化の振興と文化財の保護・活用に努めている。



(1) 施設の概要

所在地 千葉県印西市岩戸1742
 電話 0476-99-0002
 開館 昭和61年10月6日
 敷地面積 2,054.95㎡
 延床面積 822.311㎡
 構造 鉄筋コンクリート造 平屋建

(2) 利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで
 休館日 月曜日（この日が祝日に当たるときはその後の日で最も近い休日でない日）、祝日、年末年始、特別の事情により教育委員会が認めた日

入館料 無料

(3) 収蔵資料（令和5年3月31日現在）

民俗資料	4,610点
歴史資料	24,066点
考古資料	2,008箱
地学資料	608点
動物資料	25点

※未整理資料は含んでいない。

(4) 令和5年度の事業予定

○市域の考古、歴史、民俗等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表

収蔵資料を適切に管理するため、日々の温湿度計測、資料くん蒸等を実施する。あわせて市域の歴史等に係る資料の収集に努める。また、考古資料のうち古墳出土の埴輪資料、瓦塔、民俗資料、印旛地区所在の石造物等の調査を実施する。なお、研究紀要第6号の刊行を予定している。

○常設展示の実施

市域の人々の暮らしを示す農具、漁具、生活道具などの民俗資料の他、自然資料、考古資料、歴史資料を展示する。



▲展示室（復元民家）

○講座及び体験型事業の実施

市域の歴史や民俗に関する講座、体験講座「火起し体験」、「埴輪（はにわ）をつくろう」、「勾玉づくり」、「正月飾り」を開催する。

基本目標

IV 市民が生涯を通して学ぶことができると
ともに、地域で子どもたちを守り育てる
(生涯学習・青少年健全育成)



▲戸定邸（松戸市）訪問の様子（市民アカデミー）

(1) 多様な学習機会の提供

①生涯学習情報の提供

○生涯学習ガイドの発行

講座・催し、施設別・内容別サークル、指導者、貸出物品などの生涯学習に関する情報を収集し、提供することで市民の生涯学習活動の充実を図る。

- ・A4判、300部作成
- ・各公共施設・学校・コミュニティセンター・保健センター・健康増進課、市内教育機関や福祉機関などの窓口に配布

○冊子内容を市ホームページでも提供

より多くの市民が活用できるように生涯学習ガイドの情報を市ホームページに掲載するとともに市内転入者へチラシを配布し、情報提供を図る。



▲生涯学習ガイド

②市民アカデミーの充実

【重点的な取り組み】

○市民アカデミーの充実

生涯学習の中核的事業として印西市の行政・福祉・教育・歴史・文化などを幅広く学ぶとともに、共に学ぶ仲間をつくり、学習成果をまちづくりに活かすことを目的として行う。

○公民館・地域交流館などの事業での活用の充実

市民アカデミー卒業生に対して、活動を支援するとともに、公民館・中央駅前地域交流館等の事業での協働を目指す。



▲市民アカデミー
「木下／川めぐり」

③公民館・地域交流館主催事業の充実

(※P87～100参照)

④生涯学習まちづくり出前講座の充実

○市民の学習機会を増やし、市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の充実

市民の学習意欲の向上と、市民参画へのきっかけを目的とし、さまざまな学習ニーズに応えるために、日時・場所・内容を市民自らが選び、参加しやすい環境の中で市行政について学ぶため、市職員等を講師として派遣する。

【生涯学習まちづくり出前講座一覧】

1	市の行政改革について
2	市の財政状況について
3	市の総合計画を学ぼう
4	あなたの土地や家にかかる税金
5	地域の会費・住民税の話
6	マイナンバーカードの申請・交付について
7	男女共同参画について学ぼう
8	～みんなが幸せに暮らせるために～ 「人権」について一緒に考えよう！
9	賢い消費者になりましょう
10	インターネットと情報セキュリティ ～インターネットを楽しもう～
11	なぜ、ごみの分別が重要なのか ～ごみの分別・減量講座～
12	印西市環境白書を読んでみよう！
13	印西市の都市計画について
14	印西市の景観について
15	キラキラ★ハッピー ファミリーのためのデンタルクラブ
16	イキイキ♪ 若さを保つお口の体操
17	めざせ腸美人 ～食べて納得！野菜パワー～
18	しっかり食べて元気ハツラツ！
19	防災の備え〔食事編〕 ～自助が7割～

20	幼児からの食育 ～きちんと食べてかしこく育つ～ 〔幼児期編〕
21	集中力アップ 子どもの心を支える食 ～今から始める食習慣～〔学童期編〕
22	知って得する生活習慣改善術 ～あなた自身の健康のために～
23	つくってみよう！ 保育園給食人気メニュー
24	気づき・繋がり・支え合い ～みんなで防ごう，高齢者虐待～
25	エンディングノートを書いてみよう！
26	認知症サポーター養成講座
27	知って安心！！認知症予防！ ～学べばこわくない認知症～
28	高齢者福祉と介護保険
29	これからの超高齢社会 ～自分ならどうする！？～
30	いんざい健康ちょきん運動 (地域でできる筋力運動)
31	精神疾患への理解と制度について
32	障害者差別解消法理解促進講座 ～障がいのある人への接し方を学ぼう～
33	後期高齢者医療制度について
34	国民健康保険制度について
35	子育てワンポイント
36	親子で遊ぼう！

37	特別支援教育について
38	印西の文化財
39	印西の歴史をひもとく
40	むかしのくらしを学ぼう ～民俗資料にふれる～
41	教育振興基本計画 (生涯学習編)について
42	家庭での子どもとのかかわり方
43	家庭教育シアターフォーラム
44	ニュースポーツ指導 (ワンバウンドふらばーるバレーボール)
45	ニュースポーツ指導 (ヘルスバレーボール)
46	ニュースポーツ指導 (ショートテニス)
47	昔の道具から暮らしの移り変わりを再発見
48	『印西市史』を読む
49	初めての図書館使い方講座
50	読んであげよう!
51	本の修理講習
52	ホール舞台裏見学会
53	交通安全教室
54	防犯講話
55	「自主防災組織」を作りませんか
56	地域で取り組む防災・減災

57	水害に備えて「マイ・タイムライン」を作りましょう。
58	議会のしくみについて
59	選挙のしくみ
60	市の広報について

⑤産学官民の連携・協力

○大学などの高等教育機関や企業などとの連携・協力

より高度な専門知識を学ぶ機会を提供するために、大学などの高等教育機関や企業などとの連携・協力を図る。

・順天堂大学

生涯学習公開講座、市民アカデミーオープンキャンパス。

○市民・市民団体との連携・協力

市民・市民団体と連携・協力し、市民の主体性を支援することで生涯学習を推進する。



▲順天堂大学生涯学習公開講座
「陸上教室」

⑥社会教育関係団体の支援

【重点的な取り組み】

○社会教育関係団体の支援・連携強化

市民が力を合わせて活動するために、積極的に市民活動を行う社会教育関係団体を支援する。

・女性の会

160人の会員を有し、地域行事への協力、美化活動や花植えなどのボランティア奉仕活動を積極的に行っている。

【令和5年度事業】

5月	総会
	第1回自力整体教室
6月	順天堂大学啓心寮祭 踊り指導, 寮祭への協力
	第2回自力整体教室
	みなづき祭への協力
7月	社会を明るくする運動・青少年健全育成大会
	第3回自力整体教室
	平賀学園台夏祭りへの協力
8月	印旛ふるさと祭りへの協力
	プレーグ本塾夏祭りへの協力
	広報紙の発行
9月	印旛郡市社会教育振興大会
	講演会（男女共同参画事業）
	第4回自力整体教室
	料理教室
10月	工場見学会
	本塾地区高齢者スポーツ大会への協力
	第5回自力整体教室
	エコウォーキング

11月	産業まつりへの協力
	印西市主催「戦没者追悼式」出席
	印旛ふれあい秋まつりへの協力
	第6回自力整体教室
	茶道教室
	いには野まつりへの協力
12月	わら細工教室（しめ縄作り）
	第7回自力整体教室
1月	観劇会
	広報紙の発行
2月	健康体操教室
3月	料理教室
通年	花いっぱい運動 （女性の会フラワーズ）



▲女性の会「エコウォーキング」

生涯学習

施策の概要

・青少年相談員連絡協議会

小・中学校校区を単位として全体で80人の相談員で組織され、自然体験活動などを通し、青少年が心身ともに健やかな成長を遂げるための活動を行っている。

【令和5年度事業】

4月	総会
8月	青少年ふれあいDAYキャンプ
1月	なぞとき大冒険
随時	各地区・学区活動



▲青少年相談員「なぞとき大冒険」

・印西市PTA連絡協議会

市内の小学校13校、中学校7校で組織され、各種研修会などを開催し、PTA活動の向上と、相互の連携や親睦を図っている。

【令和5年度事業】

5月	評議会（書面開催）
6月	PTAバレーボール大会
11月	PTA運営研修会（講演会）

○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進

公民館・中央駅前地域交流館や図書館が核となり、活動場所を提供するとともに、市民同士の連携を図り、個人・団体のネットワーク化を推進する。

（2）図書館サービスの充実

①図書館サービスの充実

【重点的な取り組み】

②子ども読書活動の促進

（P101～P104参照）

（3）生涯学習施設の整備・充実

①生涯学習施設の整備・充実

【重点的な取り組み】

○公民館や地域交流館、図書館の適正な維持・改修

市民が快適・安全に生涯学習に取り組めるように、生涯学習・社会教育施設の計画的な維持・改修等を行う。

今年度は、本埜公民館の保全改修を実施する。

(4) 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成

子どもたちが安全・安心で健やかに成長できるように、地域で行われる青少年健全育成活動を推進している。

① 家庭教育学級の充実

【重点的な取り組み】

○ 各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設

必修家庭教育学級として、1 幼稚園 1 8 小学校 9 中学校で、幼稚園・小中学校 1 年生の保護者を対象として、年 5～7 回程度家庭教育に必要な心構え・留意点を学び、仲間づくりを行う。また、人権学習を必修課題としている。

また、学年家庭教育学級を、小中学校 2 年生以上の保護者を対象に開設し、年 3～5 回程度、家庭教育の実践へ繋げる自主的な活動を行う。

家庭教育講座として、家庭教育や人権教育に関して、家庭教育指導員・社会教育指導員の講師派遣を行う。

家庭教育シアターフォーラムとして、家庭教育や人権に関して、DVD 視聴・意見交換を行い家庭教育の充実を図る。

○ 家庭教育学級主事会議の開催

公立幼稚園長・小中学校教頭を家庭教育学級主事として委嘱し、家庭教育学級の意義・学習計画・運営などに指導・助言するために、家庭教育学級主事会議を年 2 回開催する。

○ 家庭教育学級運営委員研修会の開催

家庭教育学級運営委員を対象として、家庭教育学級の意義・学習計画・運営などを学ぶ家庭教育学級運営委員研修会を年 2 回開催する。

○ 家庭教育指導員の配置

家庭教育に関する指導・助言及び相談体制の充実を図るため、家庭教育指導員を配置する。



▲ 家庭教育学級

「家庭教育シアターフォーラム」

② こども 110 番の家の推進

○ こども 110 番運営委員会などの支援

子どもたちが犯罪に巻き込まれそうになったとき、急病や怪我などで困ったとき、住民・事業者などが避難・協力を求めることのできる場所として、市全体で子どもたちの安全確保に取り組んでいる。事業を公に示して犯罪の抑止を図ると共に、事業を行う印西市こども 110 番運営委員会などを支援する。

○ こども 110 番ステッカー・看板の提供

印西市こども 110 番運営委員会を通じて住民・事業者などにこども 110 番の家を明示するステッカー・看板を提供する。

○ こども 110 番の家災害補償保険の加入

子ども・事業協力者・その家屋などの被害を補償するこども 110 番の家災害補償保険に加入する。



▲ こども 110 番の家のマーク

③青少年健全育成大会の実施

○親子で参加し、考える機会となる青少年健全育成大会の実施

次代を担う青少年の健全育成を推進するため、非行・犯罪を誘発しない環境づくりという共通認識から、社会福祉課と合同で「社会を明るくする運動・青少年健全育成大会」を7月に開催する。

④地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し、コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の支援

家庭・学校・地域がそれぞれの役割と責任のもと、安全な環境で子どもたちを育てるとともに、地域の特性を踏まえて生活環境を整備し、一体となって子どもたちの「生きる力」と「夢」を育むコミュニティを推進します。

- ・地域住民への啓発活動
- ・広報紙の発行
- ・さわやかコミュニティ地域推進委員会会議の開催

⑤放課後子ども教室の実施

○放課後子ども教室の実施・支援

放課後に、小学校施設を使用し、地域の大人との学習や交流によって、子どもたちが安全・安心・健やかに育まれる地域環境づくりを目指し、放課後子ども教室事業を行う。現在滝野小、本埜小で実施している。

⑥二十歳を祝う会の実施

○運営スタッフの企画・運営による二十歳を祝う会の実施

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます二十歳

を祝う会を運営スタッフとともに、1月に松山下公園総合体育館で行う。

- ・本年度対象者 平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ



▲二十歳を祝う会

公民館・地域交流館

公民館・地域交流館は、市民のために実際の生活にあった教育や学術、文化などの事業を行うことにより、市民の教養を向上させ、健康を増進し、情緒を豊かにすることを目指し、ひいては生活文化の振興、社会福祉の増進に貢献することを目的とする。

印西市立公民館・地域交流館は、この目的を達成するため、社会や地域の課題・要望をとらえて、対象に合わせた講義や体験など様々な形式で各種事業を展開する。

（１）公民館・地域交流館主催事業

市民ニーズや社会的課題をとらえた事業の実施や、子ども対象事業、大人対象事業、公民館利用サークル連絡協議会・大学・青少年相談員等の社会教育関係団体や行政等との共催事業の充実を図り、地域の特色を生かした市民の社会教育・生涯学習を推進する。

（２）団体育成事業

①利用サークル等への指導・支援

各利用サークル・団体が、自主的かつ円滑な学習を行えるよう必要に応じて指導・支援を行う。

なお、小林公民館及び本埜公民館は保全改修工事のため、利用サークル等が他の公民館等で活動できるよう支援する。

②公民館・地域交流館利用サークル連絡協議会への指導・支援

加盟サークル間の相互理解・交流・地域コミュニティの醸成を達成するため、自主運営を尊重し、必要に応じて指導・支援を行う。

- 中央公民館利用サークル懇談会
（２７サークル加盟）
- 小林コミュニティサークル連絡協議会
（１６サークル加盟）
- そうふけ公民館利用サークル協議会
（２０サークル加盟）
- 印旛公民館利用サークル協議会
（１５サークル加盟）

- 本埜公民館サークル連絡協議会
（２０サークル加盟）
- 中央駅前地域交流館利用団体懇話会
（３３サークル加盟）

③公民館・地域交流館利用サークル連絡協議会が行う「まつり」への支援

公民館利用サークル連絡協議会加盟サークルが活動成果の発表を行う「まつり」を円滑に運営できるよう支援する。

- 中央公民館「みなづき祭」
- 小林公民館「小林コミュニティまつり」
- そうふけ公民館「ふれあい文化館まつり」
- 印旛公民館「いんば公民館まつり」
- 本埜公民館「本埜公民館まつり」
- 中央駅前地域交流館「中央駅前地域交流館まつり」

④公民館講座修了者の自主活動への指導・支援

公民館講座修了者の自主活動に対して、円滑に学習できるよう、必要に応じて指導・支援を行う。

（３）個人学習支援事業

市民の個人学習の推進を図るため、公民館・地域交流館事業に差し支えない範囲で、個人学習の場の提供を行う。

（４）貸館事業

市民や利用サークル・団体等に、社会教育・生涯学習・会議・交流の場を提供し、公民館・地域交流館を地域の生涯学習拠点施設とする。自発学習・交流を通して、地域コミュニティの醸成を図り、社会教育・生涯学習の推進に努める。

中央公民館

中央公民館では、市民が心身ともに健全で心豊かに、生涯にわたり学び続ける幅広い学習の場と機会を提供することを目標に、関係団体、学校や他の学習関連施設との連携・調整を図り、事業の展開を図っている。

また、市民に身近な学習の場として来館してもらえるよう、学習資料の提供や学習室の開放、また、市民の憩いの場、情報交換の場としてロビーの開放を行っている。



所在地	印西市大森3934-1	
電話	0476-42-2911	
開館	昭和54年2月1日	
敷地面積	4,874.01 m ²	
建築面積	733.86 m ²	
延床面積	2,680.55 m ²	
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 5階建て	
駐車台数	62台	
対象人口	11,989人 (令和5年3月末日現在)	

【部屋一覧】

階	部屋名	面積(m ²)	定員(人)
1	第1会議室	33.75	14
2	和室	67.50 (30畳)	30
3	研修室	67.50	37
	学級講座室	67.50	31
	調理実習室	90.00	37
	幼児室	33.75 (12畳)	14
4	第2会議室	33.75	14
	第3会議室	67.50	30
	視聴覚室	135.00	60
5	講堂	369.00	164

【令和5年度主催事業】

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
子ども対象事業	SDGs 学習ゲーム 親子体験会	小学3年生 ～6年生と その保護者	7月	1	12組	SDGs 学習ゲームを通じて、持続可能な社会を作っていくために必要な姿勢やマインドについて、親子で楽しみながら理解を深める。
	子ども工作教室	小学5年生 ～6年生	7月	1	20	創作活動を通して創る喜びを体感することやそこに至る想像力、表現力を養う。
	子ども科学教室	小学3年生 ～6年生 (保護者 参加可)	8月	1	20	身近な材料を使って科学の面白さや原理を学べる工作を行い、もの作りの楽しさ工作の仕方や技術などを学ぶ。
	冬休み書き初め 教室	小・中学生	12月 ～ 1月	2	各回 20	日本の伝統文化に親しむ機会を設け、講師の指導を受けることで、書き初めについて習熟する。
大人対象事業	いきいきカレッジ	50歳以上	5月 ～ 12月	7	16 ※	健康・生活・歴史などを学ぶことによってシニア世代がこれからの人生を健康で生き活きと生活できるきっかけにする。 ※第3回「セカンドライフの収入と生活費」は公開講座として実施する。
	体験講座 マットスに挑戦!	65歳以上	5月	1	50	脳トレ・エクササイズ『マットス』を体験することで、認知症の予防を図り、シニア世代の健康維持の一助とする。
	手賀沼講座 —自然と歴史—	市民	9月 ～ 12月	4	各回 20	手賀沼を手掛かりとして、地域の歴史・社会・環境などを学びながら、地域のまちづくりについて考える。
	彩りのある暮らし 講座①・②	市民	11月 ～ 12月	2	①18 ②12	創作・工作などの作品作りを通じて作る喜びを体感しながら、手作りの作品で生活に彩りを添える。
	わたしと家族の「相続講座」	市民	1月	3	15	相続について、相続対策、自分の人生とエンディング、遺言、自分と家族の「争族」を避けるための基礎を学ぶ。
共催事業	手賀沼船上親子観察会 (手賀沼流域フォーラム実行委員会と共催)	小学生と その保護者	7月	1	10組	六軒川・弁天川から手賀沼へ、船上体験するとともに手賀沼流域の自然環境の現状を観察し、環境問題(自然の保全と共生)について、親子で考える。
	Let's サークル 体験 夏休みは公民館へ Go!	小・中学生	8月	1	サークル により異なる	夏休みの期間を活用し、小・中学生に希望するサークル活動に参加し、体験する機会を提供する。中央公民館利用サークルと地域の子供たちとの世代間交流の場を提供する。

小 林 公 民 館

小林公民館は、小林駅圏に生活する市民を主な対象とし、社会教育・生涯学習活動、芸術文化活動、地域コミュニティ活動の場と機会を提供することを主な事業目標として運営している。

また、小林公民館では、小林駅圏市民の学習ニーズを把握し、地域コミュニティの醸成に配慮した社会教育・生涯学習機会の提供を基本として、事業を展開している。



所在地	千葉県印西市小林北5-1-6	
電 話	0476-97-0003	
開 館	平成7年5月1日	
敷地面積	3,146.71㎡	
建築面積	1,183.63㎡	
延床面積	2,073.683㎡	
構 造	鉄筋コンクリート造・屋根木造 2階建て	
駐車台数	49台	
対象人口	7,713人 (令和5年3月末日現在)	

【部屋一覧】

階	部屋名	面積(㎡)	定員(人)
1	集会室 1	75.13	33
	集会室 2	38.39	17
	集会室 3	38.39	17
	遊戯室	54.12	13
2	ホール	197.64	133
	工芸室	66.01	20
	和室 1	47.55 (24畳)	24
	和室 2	47.55 (24畳)	24
	調理実習室	97.21	20
	視聴覚室	123.83	55

【令和5年度主催事業】

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
大人対象事業	フラワーアレンジメント講座	市内在住 ・在勤者	11月 12月	2	10	フラワーアレンジメントの基本、作り方、手法を学び、季節感のある作品を作り楽しむ。
	リンパセラピー講座	市内在住 ・在勤者 (20歳以上の女性)	12月	2	12	リンパの知識を学びながら、健康的な体づくりを実践実感する。
	ピラティス講座	市内在住 ・在勤者 (20歳以上の女性)	1月	2	15	心肺機能の向上と背骨の柔軟性や強化をするためのエクササイズを体験する。
	終活講座	市内在住 ・在勤者 (60歳以上)	2月	3	30	自身も家族もみんなが幸せになるように、「生活と締めくくり」について考える。
	みんなでつくる！ 小林アンプラグド ミニミニコンサート	市内在住 ・在勤者	11月 ～ 2月	2回/ 月		音楽活動を行っている団体・市民に対し発表の機会を提供し、地域との交流を広げる。ただし、音量に配慮したアンプラグド(マイク・アンプ機材を使わないという意味)で行う。



▲ピラティス講座



▲小林アンプラグドミニミニコンサート

そうふけ公民館

そうふけ公民館は、印西牧の原駅圏内の生涯学習の拠点として、「新たな文化の創造」を目標に事業を展開している。

事業の推進にあたっては、「いつでも、どこでも、誰でもが」を基本方針に、市民の学習意欲が高まるような子ども対象事業、共催事業、団体育成事業、個人学習支援事業、貸館事業を実施している。

このほか、市民のさまざまな学習ニーズに対応するため、窓口等において情報の提供及び事業支援を行っている。



所在地	印西市原3-4	
電話	0476-45-3800	
開館	平成10年12月1日	
敷地面積	4,000.01 m ²	
建築面積	1,781.13 m ²	
延床面積	3,674.49 m ²	
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地下1階，地上3階	
駐車台数	44台	
対象人口	68,301人 (令和5年3月末日現在)	

【部屋一覧】

階	部屋名	面積(m ²)	定員(人)
1	多目的室	276.30	125
2	創作活動室	77.00	30
	視聴覚室	145.80	65
	調理室	98.90	30
	会議室	65.30	30
	学習室	41.60	—
3	研修室1	67.30	30
	研修室2	67.30	30
	和室	77.00 (28畳)	28

【令和5年度主催・共催事業】

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
子ども対象事業	なんでもチャレンジーズ	小学生	7月～12月	4	20	工作や運動等を通して他学年との交流を図り、自主性や協調性を学ぶ。
	科学あそび「落ちそうで落ちない不思議なバランス」	小学3年生～6年生	7月	1	16	「バランスストンボ」の作成や、いろいろな実験を行いながら、「もの」の重心について楽しく学ぶ。
	工作教室 「すごくよく飛ぶ紙ひこうきを作ろう」	小学生	7月	1	20	試したり工夫したりし、よく飛ぶ紙ひこうきを作り、創作の楽しさを味わう。
	自然科学体験 ★「プラネタリウムで星を見よう」★	小学生	8月	2	各回50	天候に左右されずに星空観測や天体観測をし、満点の星に包まれる経験をすることで、天文学に興味を持たせる。
大人対象事業	体験講座 トールペイトにチャレンジ!	市内在住・在勤者 (18歳以上)	9月	1	16	作品作りを通して表現することの楽しさや、参加者同士で語り合うことで豊かな心を育む。
	体験講座 ストレッチ&健康体操にトライ!	市内在住・在勤者 (18歳以上)	10月	1	20	筋肉を引っ張って柔軟性を高め、精神的な緊張をほぐし、心の安定と安らぎの時間を作ることで心と体を整え、安定した状態を目指す。
	体験講座 絵手紙を描いてみよう	市内在住・在勤者 (18歳以上)	11月	1	20	絵手紙の描き方の基本を学びながら、表現する楽しさを味わう。
	生活改善講座(家事編) 収納講座	市内在住・在勤者 (18歳以上)	12月	1	16	効率的なお片付けの考え方・方法を学ぶことで、その先にあるライフスタイルに合った心地よい生活を目指す。
	生活改善講座(スマホ講座①入門編)	市内在住・在勤者 (18歳以上)	1月	1	20	スマートフォンの基本的な操作やアプリの使い方等を学び、生活に役立て日常を楽しめるようにする。
	生活改善講座(スマホ講座②LINE編)	市内在住・在勤者 (18歳以上)	1月	1	20	スマートフォンの基本的な操作やLINEの使い方等を学び、生活に役立て日常を楽しめるようにする。
共催事業	ふれあい大会 親子でモルックに挑戦!	小学生とその保護者	12月	1	10組	牧の原スポーツクラブとの共催事業。 モルック(数字が書かれた木の棒を倒して、点を取っていくゲーム)を楽しみながら世代間、地域の交流を図る。

印 旛 公 民 館

印旛公民館は、印旛地区の生涯学習の拠点として、子どもから高齢者まで、幅広い年代を対象に事業を展開している。

主要事業として、子ども・大人対象事業及びサークル支援事業を軸として、社会教育や生涯学習に関する情報を積極的に発信し、市民に多種多様な学習活動への糸口及びその活動促進の場を提供している。

また、目前にテニスコートや野球場、多目的広場などの多彩なスポーツ施設も隣接しているため、スポーツの合間や終わった後の交流の場ともなっている。

このように印旛公民館は、市民密着型の“親しみやすい公民館”を目指すとともに「学びの場」、「憩いの場」、「ふれあいの場」として日々活動している。



所在地	印西市瀬戸1518番地	
電話	0476-98-0427	
開館	昭和51年10月1日	
敷地面積	11,005.00㎡	
建築面積	1,380.77㎡	
延床面積	1,844.00㎡	
構造	鉄筋コンクリート造 2階建て	
駐車台数	70台	
対象人口	12,495人 (令和5年3月末日現在)	

【部屋一覧】

階	部屋名	面積 (㎡)	定員 (人)
1	大会議室	295.00	131
	第1研修室	50.00	22
	和室	98.00 (45畳)	45
	陶芸室	32.00	10
2	第2研修室	40.00	17
	第3研修室	54.00	24
	第4研修室	40.00	17
	視聴覚室	103.00	45
	調理実習室	107.00	37

【令和5年度主催・共催事業】

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
子ども対象事業	親子カヌー教室 (低学年)	小学1年生～ 3年生とその 保護者	7月	1	12組	平賀小学校のプールで、カヌーに挑戦する。親子でカヌーの操縦に挑むことで、親子の絆を深めつつ、自然に触れるきっかけ(第一歩)とする。
	親子カヌー教室 (高学年)	小学4年生～ 6年生とその 保護者	7月	1	12組	
	夏休み工芸教室	小学1年生 ～6年生	7月・8月	2	各回 10	自分の手で創作を行うことにより、創意工夫を奨励し、豊かな感性を養い、作り上げる喜びを習得する。
	夏休み科学教室	小学1年生 ～6年生	8月	1	20	科学・理科に対する関心を深め、自分でデザインを考えたものを作り上げる達成感や喜びを習得する。
	てっぺん目指そう 筑波山	小学4年生～ 6年生とその 保護者	10月	1	10組	親子で筑波山に登りながら自然と触れ合う喜びを味わい、良好な自然環境を保つ大切さを学び、頂上まで登って達成感を味わう。
	印旛地区の民話を 学ぼう	小学1年生 ～6年生	11月	1	10	印西市において古くから伝わる民話の「素話」を通して、地域がたどってきた歴史を知るとともに、地元への思いを育む。
	冬休み書初教室	小学3年生 ～6年生	12月	1	10	広い場所で書初に取り組みながら、他校の子との交流を深めつつ、冬休みの宿題の一助とする。
大人対象事業	みんなの いけばな教室	市内在住 ・在勤者	5月・12月	2	各回 20	身近な草花を生けることを通して、礼儀作法の向上を目指し、また日本の伝統文化に対する理解を深める。
	癒しのアロマ	市内在住 ・在勤者	6月・1月	2	各回 10	アロマテラピーの持つ、心の安らぎへの効果を学ぶとともに、心の状態が体の健康に深く結びつくことへの理解を深める。
	初心者のための 絵手紙教室	市内在住 ・在勤者	6月	2	10	絵手紙の描き方の基本を学びながら、同じ趣味を持つ仲間同士の親睦を深める。
	自力整体教室	市内在住 ・在勤者	9月	2	20	健康で明るく豊かな生活を送るための生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりの一助とすると共に、自分の体の中にある自然に体を治す力を高め、良い健康状態を維持することの重要性を学ぶ。
	はじめての yoga	市内在住 ・在勤者	9月～10月	4	20	ストレスなく自分の内面と向き合う時間を作ることで、心の感受性を高める。
	おとなの工芸教室	市内在住 ・在勤者	11月	1	10	公民館サークルと交流をしながら、創意工夫をして作品を作り上げる喜びを実感し、仲間や趣味づくりのきっかけとする。
	相続学習教室	市内在住 ・在勤者	11月	1	20	相続について曖昧であった知識を整理し、無用な争いをしないためには、どうすればよいのかを学び、今後の人生の一助とする。
	竹あかり教室	市内在住 ・在勤者	12月	1	12	竹林の整備で伐採した竹を有効活用して工作物を作り上げる。自然資源の有効活用により、良好な自然環境を保つ大切さを学ぶ。
	雪割草の苔玉 づくり	市内在住 ・在勤者	1月	1	18	雪割草を使って苔玉を作る。それを育てて、花を咲かせた苔玉を完成させる。



▲夏休み工芸教室



▲雪割草の苔玉づくり

本 埜 公 民 館

本館は、本埜地区の生涯学習、生涯スポーツの拠点として、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層が利用できる施設です。

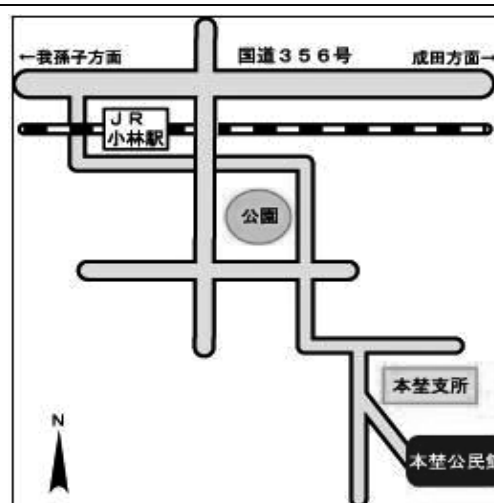
本年は、生涯学習、スポーツの振興を図るために「子ども対象事業」、「大人対象事業」、「サークル等支援事業」、「貸館事業」、「個人学習支援事業」を実施している。特に、「郷土愛」をテーマとして次代を担う青少年を対象とした事業に力を入れている。

また、同敷地内にはナイター付テニスコート、野球場などのスポーツ施設があり、施設利用の相乗効果とともに交流の場となっている。本館は、「共に学び・共に楽しむ

場」、「ふれあいの場」、「交流の場」として社会福祉の増進を目指している。



所在地	印西市中根1375
電話	0476-97-2011
開館	平成9年4月1日
敷地面積	2,518.00㎡
建築面積	1,349.00㎡
延床面積	3,723.00㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 4階建て
駐車台数	48台 (本埜スポーツプラザ駐車場)
対象人口	8,411人 (令和5年3月末日現在)



【部屋一覧】

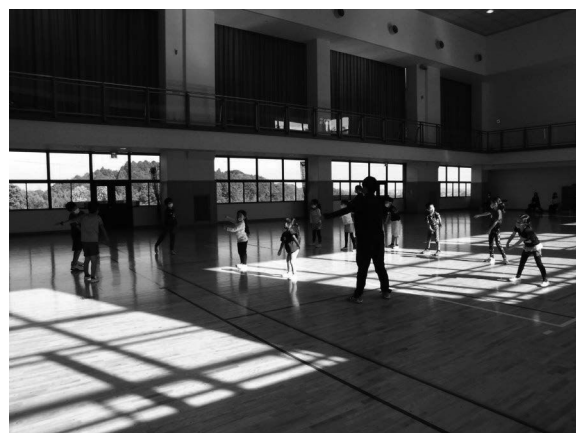
階	部屋名	面積(㎡)	定員(人)
1	音楽室	127.40	57
	美術工芸室	67.62	30
	調理実習室①	67.50	42
	調理実習室②	90.00	40
2	団体研修室①	75.60	34
	団体研修室②	75.60	34
	団体研修室③	75.60	34
	団体研修室④	75.60	34
	文化教養室	63.00 (32畳)	32
	視聴覚室	170.00	76
3	多目的ホール	900.00	400
4	情報学習室	52.00 (25畳)	—

【令和5年度主催・共催事業】

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
子ども対象事業	子ども和太鼓教室 (低学年コース)	小学1年生 ・2年生	6月	1	12	伝統文化の和太鼓を通して、 精神、体力、リズム感を養う。
	子ども和太鼓教室 (中高学年コース)	小学3年生 ～6年生	6月	1	12	
	子ども生け花教室	小学生	7月	2	10	伝統文化の華道に触れ、美の 心を学ぶと共に、礼儀作法を 身につける。
	わくわくスポーツ 教室	小学生	7月	1	20	楽しく学びながら体を動か し、体力づくりのきっかけ、 スポーツの楽しさを感じて もらう。
共催事業	ふるさと再発見 (里山の会E C O MOと共催)	小学生	7月	2	各回 20	身近な動植物とふれあい、自 然環境への関心や理解を深 める機会を提供すると共に 環境保全意識の向上に寄与 する。
大人対象	楽しく学ぶ！「認 知症予防講座」	市民	8月	1	15	安心したセカンドライフを おくるため、認知症対策につ いて学ぶ。



▲子ども生け花教室



▲わくわくスポーツ教室

中央駅前地域交流館

中央駅前地域交流館は、市民の交流機会を創出し、自発的な学習活動を促進し健全で生き生きとした市民生活の形成に寄与することを目的とした施設で、市民の相互交流の機会の提供、学習活動の機会の提供、子育て支援、児童健全育成事業等を企画し、自ら学ぶ機会や活動を促進支援し、子どもから大人までの市民の様々な学習ニーズに応えられるよう、人と人を結ぶ身近な施設として様々な事業を展開している。



所在地	印西市中央南1-2
電話	0476-46-5111
開館	平成24年4月1日
敷地面積	8,504.32㎡
建築面積	2,462.65㎡
延床面積	4,395.34㎡
構造	鉄筋コンクリート造・2階・3階建
駐車台数	111台 ※8月1日より工事のため使用不可。代替駐車場で運営。
対象人口	110,208人 (令和5年3月末日現在)



【部屋一覧】

棟	部屋名	面積(㎡)	定員(人)
1号館	レクリエーションホール	543.08	200
	視聴覚室	129.03	45
	調理実習室	110.52	42
	工芸室1	70.97	35
	会議室1	69.97	30
	会議室2	69.97	30
	和室	61.12	20
2号館	会議室3	32.83	15
	会議室4	56.88	30
	会議室5	88.88	50
	工芸室2	46.80	25
	展示室	33.84	14

【令和5年度主催・共催事業】

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
子ども対象事業	わくわく探検隊	小学4年生～6年生	6月～12月	5	20	学区・学年を超えて友情の輪を広げ、一緒に体験することにより、自立性・自主性・協調性を学び、考える心を育む。
	科学あそび	小学4年生～6年生	8月	1	20	子どもたちに身近な科学の楽しさや関心を持ってもらうため、実験や工作を行い、夏休みの自由研究のヒントにもつなげられるようにする。
	おやこであそぼう	乳幼児と保護者	通年		各時間枠15組	親子で遊べる場を提供し、子どもと親の健やかな育ちを支援していく。子育てに関する情報交換の場、親子共に友達づくりの場とする。
	季節のおもちゃ箱	乳幼児と保護者	4月～3月	12	各回15組	季節の行事や伝承行事をテーマに、制作あそびやダンス、おはなしなどを親子で一緒に楽しみ季節を感じる。
	お誕生児集まれ！	その月の誕生児と保護者	4月～3月	12	各回15組	その月の誕生児を祝い、アトラクションを見たり記念写真を撮ったりして過ごし成長を喜び合う。
	親子講座	乳幼児と保護者	6月～1月	4	10～13	親子で楽しさを共有することで子育ての楽しさを感じてもらえるようにする。
	青空ルーム	乳幼児と保護者	4月～3月	6	自由	近隣の公園に出向くことで、子育てルームの存在を知ってもらい、遊びにくるきっかけづくりをする。
	にこにこハッピー	1歳児と保護者	5月～2月	5	10組	親子で一緒に歌や手遊び、リズム遊び、簡単製作等を通して遊ぶことの楽しさを味わう。また、同年齢の親子が関わり、友達づくりや保護者同士の情報交換の場として活用してもらう。
	すこやかキッズ	2歳児と保護者	5月～2月	5	10組	
	ゆうぎ室であそぼう	乳幼児と保護者	4月～3月	21	各回13組	体を動かし遊べるよう、親子でのびのびと過ごせる場を提供する。
	児童ルームであそぼう	小学生～18歳未満	通年		各時間枠40	子どもが安心できる遊び場、学習の場を提供する。他学区・他学年の子ども同士が交流できる場を提供して、友達づくりのきっかけをつくる。
	あそびのポケット&スペシャル	小・中学生	4月～3月	10	10～30	子どもたちの興味や経験が広がるような遊びを提供する。また、他学区、他学年の子どもたちとの交流も楽しめるようにする。
	レクホールであそぼう	幼児(保護者同伴)～18歳未満	4月～3月	12	各回25	安全な環境で思い切り体を動かして遊べる場を提供する。運動あそびを通し、他学区・他学年との交流を図る。
書き初め広場	小・中学生	12月	1	12	冬休みの課題である書初めを講師指導のもと書きあげる。書道に対する関心を深めるとともに、他学区・他学年の子と一緒に交流を深めていく場を提供する。	

生涯学習 地域交流館

区分	事業名	対象	期間	回数	人数	内容
大人対象事業	はつらっクラブ	市内在住 ・在勤者 (18歳以上)	6月～12月	5	20	運動、健康、芸術など様々な体験を通して、楽しくふれあい、生きがいづくり、仲間づくりのきっかけにする。
	資産運用講座「初めてのNISA講座」	市内在住 ・在勤者 (18歳以上)	6月	1	40	市民のライフプランの一助となる講座を行う。
	印西新発見バスツアー	市内在住 ・在勤者 (18歳以上)	9月	1	20	印西市の新たな発見や歴史などを学び、ふるさとを見つめてもらい、印西の良さを新たに実感することを目的とする。
	体験講座（しめ縄づくり）	市内在住 ・在勤者 (18歳以上)	12月	1	16	わらにより正月飾りを作りながら、伝統的風習の意味や慣わしなどに触れる。
	収納講座「お片付けのお話」	市内在住 ・在勤者 (18歳以上)	2月	1	20	整理・整頓・収納・片付けのコツを学び、生活にいかす。
	ベビー講座「ベビーマッサージ」	3～10カ月の乳児とその保護者	4月～3月	6	10～13組	マッサージを通して子どもとの触れ合いを楽しんでもらうとともに、日々の育児のヒントとなるように話を楽しむ。
	ベビー講座「ベビードダンス」	3カ月～1歳の乳児とその保護者	5月、10月	2	各回13組	親子の触れ合いを楽しみながら、身体を動かしてリフレッシュするとともに、抱っこや寝かしつけの悩みの解消につなげていく。
	パパママ講座	子育て中の父親と母親	5月～2月	9	10～13組	趣味的要素でリフレッシュしたり、子育ての知識を得たり、悩みを共有したりする中で、子育てを楽しめるようにしていく。
	子育て相談	未就学児をもつ保護者	通年			子育ての悩みや育児について相談できる体制を整え、支援が必要と判断したときは、各機関と連携、協力を図り支援していく。
	子育てサークル育成・支援	未就学児をもつ保護者	通年			母親、父親たちが自分たちでサークルを立ち上げ、活動できるように助言や支援をしていく。
	憩いの家開放事業	市内在住の60歳以上	通年		14	高齢者の憩いやレクリエーションの場として提供することで、生きがいづくり、仲間づくりのきっかけにする。
共催事業	ものづくり講座	小学5年生～6年生	5月～2月	10	12	印西おもちゃの病院と共催。子どもたちのものづくり活動を通して、アイデアを具体化する技術能力や創造性を育む。上級コースは、前年度の受講生対象。
	ものづくり講座 上級コース	小学6年生	5月～2月	10	3	

はつらっ
クラブ▶



季節の
おもちゃ箱▶



図書館

図書館では、図書をはじめ、視聴覚資料、雑誌などさまざまな資料を市民に提供し、生涯学習活動の支援を行うとともに、家庭教育の向上に資する事業を実施している。また、学校図書室との連携として、スクール便の運行や調べ学習の支援を行っている。現在、大森、小林、そうふけ、小倉台、印旛、本埜の各館をオンラインで結び、多様化、高度化する市民のニーズを的確に捉え、情報発信基地としての情報提供や資料の収集整備、調査相談、リクエストなど図書館奉仕の充実に努めている。令和3年度より電子書籍の貸出を行っている。

図書館サービスの充実

① 図書館サービスの充実

図書館サービスの充実として図書館が地域における情報やコミュニティの拠点として市民生活に役立つ施設になるよう、資料の収集・管理及び提供や、レファレンスサービスの充実などといった従来の来館型サービスのほか、電子書籍の提供など非来館型サービスの充実を図る。

また、利用しやすい施設のあり方の調査・研究を行い、図書館サービスに関する方針・計画の策定を行う。

② 子ども読書活動の推進

市が策定する「印西市子ども読書活動推進計画」にある「子どもの読書活動を深める機会の提供・充実」「子どもの読書活動をみんなで支える読書環境の整備・充実」「子どもの読書活動に関する情報の普及・啓発」といった基本方針のもと、図書館では資料の収集・提供や読書を楽しめる環境整備などの面から子どもの読書活動を推進していく。

【利用の案内】

開館時間 午前9時から午後5時まで。

※大森・小倉台図書館は毎週水曜日
午前9時～午後7時（祝休日の場合は午後5時まで）。

休館日

【大森・小倉台図書館】

月曜日（祝休日の場合は直後の平日が休館）、年末年始、特別整理期間。

【小林・そうふけ・印旛・本埜図書館】

月曜日（祝日の場合は翌火曜日も休館）、祝休日、年末年始、特別整理期間。

○印西市立図書館ホームページ

<https://www.library.city.inzai.lg.jp/>



▲大森図書館



▲小林図書館



▲そうふけ図書館



▲小倉台図書館



▲印旛図書館



▲本埜図書館

令和5年度 【主催事業】

事業名	開催日	担当館	対象
おはなし会	毎月	全館	幼児～小学生 保護者
中央駅前地域交流館でのおはなし会	隔月	小倉台	幼児～小学生 保護者
新聞リサイクル	毎月	全館	一般（自由来館）
図書紹介コーナー「おすすめの1冊」	通年	小倉台	一般（自由来館）
おうちおはなしセット	通年	小倉台	幼児～小学生 保護者
おうちでおはなしかい	通年	本埜	幼児 保護者
ブックリサイクル	通年	全館	一般（自由来館）
こどもの読書週間事業 図書館クイズ	4～5月	大森	幼児～小学生
こどもの読書週間事業 児童特別展示	4～5月	そうふけ 小倉台 印旛	一般・児童（自由来館）
こどもの読書週間事業 こどもの読書週間スタンプラリー	4～5月	そうふけ	幼児～小学生以下
ブックコート体験講座	5月	印旛	一般
連続講座 絵本の楽しみ方・選び方 （木刈親子読書会と共催）	5月	小倉台	乳幼児から小学校低学年までの保護者
環境月間展示	6月	大森	一般（自由来館）
県民の日イベント	6月	印旛	小学生以下
ブック・スタンプラリー	7～8月	全館	小学生以下
夏のおはなし会（児童向け）	8月	大森 印旛	幼児～小学生 保護者
科学あそび （そうふけ図書館は公民館と共催）	7月	そうふけ 小倉台	小学校3～6年生
図書館探検隊	7月	大森 そうふけ 印旛 本埜	小学校1～4年生 小学校4～6年生 小学校1～4年生 小学校3～6年生
	8月	小倉台	小学校1～6年生
読み聞かせ講座 （滝野子育て支援センターと共催）	9月	本埜	0歳～2歳児の親子
大人の図書館探検隊	9月	大森	一般

事業名	開催日	担当館	対象
読み聞かせ講座 (子育て支援課と共催)	10月	小倉台	未就学児の親子
おとなのおはなし会	10月	大森	一般
大人のブックコート体験講座	9月	そうふけ	一般
	10月	本埜	
ママ・パパ図書専用テープ補修体験	10月	印旛	一般
読書週間事業	10～11月	全館	一般(自由来館)
大人のためのブックリスト	11月	大森	一般
消しゴムはんこ講座	11月	小倉台	一般
クリスマス会(小林図書館は公民館・ 小林親子読書会かたつむりと共催)	12月	大森 小林	幼児～小学生 保護者
ミニクリスマス会	12月	小倉台	幼児～小学生 保護者
クリスマスのおはなし会	12月	本埜	幼児～小学生 保護者
ほんのおみくじ	1月	大森 そうふけ	児童・一般
		小倉台	児童
一般向けプチ展示	2月	小林	一般(自由来館)
おはなし会スペシャル (そうふけ公民館と共催)	3月	そうふけ	幼児～小学生 保護者

【他機関との連携状況】

	事業名	連携先	回数	内容
学校	ブックトーク	市内小学校	不定期	読み聞かせ・本の紹介
	スクール便	市内小学校	年3回巡回	小学校への定期配本
	印西市生き活き体験 (中学生職業体験)	市内中学校	随時	図書館業務の体験
	小学生職場体験	市内小学校	随時	図書館業務の体験
その他	絵本講座	地域子育て支援拠点事業 西の原保育園こあら	2回	0歳から未就学児までの 親子へ絵本の選び方・読み 聞かせ
	えほん de クラシック	印西市文化ホール	1回	文化ホール事業と連携し て、演目の絵本などの紹介
	おはなしにんぎょう をつくろう	印西市文化ホール	2回	文化ホールの事業と連携 して、関連する資料の紹介

【館別所蔵統計】

R5.3.31現在

		大森	小林	そうふけ	小倉台	印旛	本埜	計
図書資料	一般資料	127,240	24,020	51,885	112,031	42,415	23,610	381,201
	児童資料	49,369	10,189	30,566	43,884	15,898	17,386	167,292
	合計	176,609	34,209	82,451	155,915	58,313	40,996	548,493
視聴覚資料	カセット	4	—	—	4	—	—	8
	CD	3,663	—	—	3,235	—	—	6,898
	ビデオ	1,537	—	—	776	—	—	2,313
	LD	269	—	—	1	—	—	270
	DVD	406	—	—	468	—	—	874
	絵画	96	—	—	—	—	—	96
	マイクロフィルム	3,388	—	—	—	—	—	3,388

【個人登録者数】

R5.3.31現在

	市内	市外	合計
人数	25,654	2,734	28,388
構成比	90.4%	9.6%	100.0%

$$\begin{aligned} & \text{(登録率)} \\ & \frac{\text{市内登録者数 } 25,654}{\text{印西市人口 } 110,208} \times 100 = 23.3\% \end{aligned}$$

【個人貸出点数】(令和4年度)

R5.3.31現在

	大森	小林 (※1)	そうふけ	小倉台	印旛	本埜	計
一般資料	86,194	14,820	75,940	186,248	25,347	36,320	424,869
児童資料	53,138	9,776	92,067	111,490	25,325	54,499	346,295
視聴覚資料	3,936	115	376	6,334	154	342	11,257
雑誌	10,027	631	3,304	14,389	1,792	2,390	32,533
合計	153,295	25,342	171,687	318,461	52,618	93,551	814,954

(※1) 保全改修工事のため、令和4年10月～令和5年9月は休館

資料

歴代教育委員及び教育長

◎委員長 ○教育長職務代理者

年度	教 育 委 員 会 委 員				
	教 育 長	委 員			
昭和31	稲村 實	飯岡 義	廣瀬 榮	◎青柳 清次郎	吉谷 貞吉
32	青柳 清次郎	〃	〃	〃	◎ 〃
	稲村 一	酒井 良		稲村 實	
33	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
				小松崎 博	
34	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
35	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
36	〃	〃	〃	小川 正	◎ 〃
	石川 栄				
37	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
38	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
			山崎 諭吉		
39	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
		清田 惣一郎			
40	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
41	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
42	〃	〃	〃	〃	大越 勝男
	吉谷 貞吉	◎ 〃	秋田 寛俊		
43	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
44	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
				今井 守	
45	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
46	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
			高橋 良助		
47	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
		出山 重則		青柳 綾雄	
48	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
49	武藤 邦正	〃	〃	〃	◎ 〃
50	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
51	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
		鈴木 忠次		伊藤 和夫	
52	〃	〃	◎ 〃	〃	〃
			五十嵐 照男		
53	〃	〃	◎ 〃	〃	〃
			〃		
54	〃	〃	◎ 〃	〃	〃
		◎ 〃	高橋 重光		
55	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
				小川 嘉一	
56	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
57	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
58	〃	◎ 〃	〃	〃	〃
	板橋 義夫				
59	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
		豊島 昭夫		大野 治義	
60	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
61	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
62	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
			◎ 〃		〃
63	〃	〃	◎ 〃	〃	〃

年度	教 育 委 員 会 委 員				
	教 育 長	委 員			
平成元	〃	〃	◎ 〃	〃	〃
2	〃	〃	◎ 〃	◎ 〃	〃
3	〃	〃	〃 古宮 邦男	◎ 〃	〃
4	〃	〃	〃	◎ 〃	〃
5	〃	〃 蘆谷 勇	〃	◎ 〃	〃 武藤 喜正
6	〃 武藤 喜正	〃	〃	◎ 〃	〃 板倉 義和
7	〃	〃	〃	◎ 〃	〃
8	〃	〃 富田 洋子	◎ 〃	◎ 〃 飯田 鉄男	〃
9	〃	〃	◎ 〃	〃	〃
10	〃	〃	◎ 〃	〃 遠藤五良右衛門	◎ 〃
11	〃	〃	〃 飯岡 雅行	〃	◎ 〃
12	〃	〃	〃	〃 佐藤 幸納	◎ 〃
13	〃 佐藤 幸納	〃	〃	〃 山口 淳一	◎ 〃
14	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
15	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
16	〃 小野寺 正教	〃 篠田 幸代	〃	〃	◎ 〃
17	〃	〃	〃	〃 吉田 劭	◎ 〃
18	〃	〃	◎ 〃	〃	◎ 〃 稲葉 美智
19	〃	〃	◎ 〃 砂田 直規	◎ 吉田 劭	〃
20	〃	〃	〃	◎ 〃	〃
21	〃	◎ 〃	〃	◎ 〃 今野 紀子	〃
22	〃	◎ 〃	〃	〃	〃 佐藤 めぐみ
23	〃	◎ 〃	〃 大野 忠寄	〃	〃
24	〃 大木 弘	◎ 〃 青山 光男	〃	〃	◎ 〃
25	〃	〃	〃	〃 寺田 充良	◎ 〃
26	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
27	〃	〃	〃	〃	◎ 〃
28	〃	〃 鈴木 裕枝	〃	〃	◎ 〃 ○ 〃
29	〃	〃	〃	〃	○ 〃
30	〃	〃	○ 〃	〃	○ 〃 栃尾 知子
令和元	〃	〃	○ 〃	〃	〃
2	〃	〃	○ 〃	〃	〃
3	〃	〃	○ 〃	〃	〃
4	〃	〃	○～令和5.1 〃 令和5.2～令和5.9 欠員	〃 ○令和5.2～ 〃	〃
5	〃	〃	〃 豊田 光弘	○ 〃	〃

印西市教育関係機関一覧

○小中学校

学校名	住所	TEL	校長名	学級数 (特支)
木下小学校	印西市木下1502	0476-42-2607	小林 すみ子	9 (2)
小林小学校	〃 小林2448-2	0476-42-4311	瀧澤 佳代子	10 (3)
大森小学校	〃 大森3350	0476-42-2089	佐久間 庸夫	6 (2)
船穂小学校	〃 船尾1292	0476-46-0023	安川 徹	5 (2)
木刈小学校	〃 木刈2-6	0476-46-1755	門脇 英貴	18 (2)
内野小学校	〃 内野1-1	0476-46-1781	東本 悦子	20 (6)
原山小学校	〃 原山3-4	0476-46-1701	松本 博幸	12 (3)
小林北小学校	〃 小林北5-1-5	0476-97-1100	森下 康彦	6 (2)
小倉台小学校	〃 小倉台2-3	0476-46-5711	吉野 高明	32 (7)
高花小学校	〃 高花2-4	0476-46-6211	角鹿 智章	12 (4)
西の原小学校	〃 西の原2-7	0476-45-0150	香取 伸嘉	20 (6)
原小学校	〃 原3-5	0476-45-8611	寺島 光浩	34 (7)
六合小学校	〃 瀬戸1580	0476-98-0006	御子柴 寛	6 (2)
平賀小学校	〃 平賀1161-2	0476-98-1151	松原 一弘	6 (2)
いには野小学校	〃 若萩3-9	0476-98-2080	小川 勉	13 (4)
滝野小学校	〃 滝野5-1	0476-97-1977	市原 康之	17 (4)
牧の原小学校	〃 牧の原3-1-1	0476-29-5560	岡田 光靖	27 (5)
本埜小学校	〃 中根1281-2	0476-97-0035	小田 英紀	6 (2)
印西中学校	〃 大森2244	0476-42-3151	渡邊 義規	7 (3)
船穂中学校	〃 高花1-3	0476-46-0021	坂野 峰子	6 (2)
木刈中学校	〃 木刈2-1	0476-46-1751	三浦 明久	22 (3)
小林中学校	〃 小林大門下1-4-1	0476-97-3100	佐藤 和隆	6 (2)
原山中学校	〃 原山1-2	0476-46-6911	泉水 真由美	9 (3)
西の原中学校	〃 西の原1-3	0476-45-0160	臼井 昌章	19 (3)
印旛中学校	〃 舞姫2-1-1	0476-98-0711	磯 昌稔	9 (3)
本埜中学校	〃 笠神250	0476-97-0009	横尾 浩由	2 (2)
滝野中学校	〃 滝野5-2	0476-97-1988	渡邊 信	12 (2)

○特別支援学校

学校名	住所	TEL	校長名	備考
印旛特別支援学校	印西市平賀1160-2	0476-98-2200	山崎 博志	県立

○高等学校

学校名	住所	TEL	校長名	備考
印旛明誠高等学校	印西市草深1420-9	0476-47-7001	今野 美喜子	県立

○大学及び専門学校

学校名	住所	TEL	学長名	備考
東京基督教大学	印西市内野3-301-5	0476-46-1131	山口 陽一	私立
順天堂大学	〃 平賀学園台1-1	0476-98-1001	新井 一	私立
日本医科大学看護専門学校	〃 鎌刈1955	0476-99-1331	内藤 明子	私立

○幼稚園

学校名	住所	TEL	園長名	備考
瀬戸幼稚園	印西市瀬戸1580	0476-98-0434	大野 仁美	市立
もとの幼稚園	〃 中根1403-10	0476-97-1010	新井 喜代美	市立
印西しおん幼稚園	〃 松崎517	0476-46-0056	西村 みな子	私立
天神幼稚園	〃 大森2428-13	0476-42-2682	石橋 恵子	私立
小林天神幼稚園	〃 小林北3-3-13	0476-97-4010	石橋 恵子	私立
きかり幼稚園	〃 木刈2-5	0476-46-3844	長塚 照子	私立
原山幼稚園	〃 原山2-1461	0476-47-3485	川畑 由香里	私立
市川学園西の原幼稚園 (幼稚園型認定こども園)	〃 西の原3-15	0476-47-0644	古賀 一人	私立

○教育施設

教育施設名	住所	電話番号	館・所長名
教育センター (そうふけふれあいの里)	印西市草深 924	0476-47-0400	穂戸田 和 宏
中央学校給食センター	〃 鹿黒南 1-5	0476-33-3316	齋 藤 勝 憲
牧の原学校給食センター	〃 牧の原 2-5	0476-42-4700	古 谷 晃 宏
印旛学校給食センター	〃 美瀬 2-2	0476-98-0429	荒 川 由 弥
中央公民館	〃 大森 3934-1	0476-42-2911	浅 山 博 文
小林公民館 (小林コミュニティプラザ)	〃 小林北 5-1-6	0476-97-0003	石 井 秀 樹
そうふけ公民館 (ふれあい文化館)	〃 原 3-4	0476-45-3800	富 田 信 秀
印旛公民館	〃 瀬戸 1518	0476-98-0427	土 井 秀 之
本埜公民館	〃 中根 1375	0476-97-2011	内 藤 勝 弘
中央駅前地域交流館	〃 中央南 1-2	0476-46-5111	木 村 一 美
文化ホール	〃 大森 2535	0476-42-8811	指定管理者 (株)ケイミックス・ パブリックビジネス
大森図書館	〃 大森 2535	0476-42-8686	秋 谷 守
小林図書館 (小林コミュニティプラザ)	〃 小林北 5-1-6	0476-97-0005	石 井 秀 樹(兼)
そうふけ図書館 (ふれあい文化館)	〃 原 3-4	0476-45-2566	富 田 信 秀(兼)
小倉台図書館	〃 小倉台 4-5	0476-47-5511	伊 藤 豊 美(兼)
印旛図書館 (ふれあいセンターいんば)	〃 美瀬 1-25	0476-80-3850	秋 本 康 一(併)
本埜図書館 (本埜ファミリア館)	〃 滝野 3-4	0476-97-3210	佐々木生也(併)
印旛歴史民俗資料館	〃 岩戸 1742	0476-99-0002	能 勢 幸 枝
木下交流の杜歴史資料センター	〃 木下 1489-1	0476-40-3500	遠 藤 正

印西市教育委員会の沿革

年	月	学校関係・教育施設・組織等	年	月	学校関係・教育施設・組織等
昭和29	12	木下町、大森町、船尾町、永治村の一部が合併し、印西町となる	54	1	六合小学校増築校舎竣工(普9)
29	12	永治小学校平塚分校、谷清分校が白井村に編入される	54	2	中央公民館開館(現)
30	6	本埜中学校増築校舎竣工	54	11	大森小学校第二校舎竣工(普16)
30	3	印旛村立六合小学校と改称 宗像村と六合村が合併し印旛村となる	55	1	本埜第二小学校校舎竣工(普6)
31	9	小林小学校新校舎竣工(普7)	56	1	本埜第一小学校校舎竣工(普6)
32	5	本埜第一小学校校舎改築	57	9	小林小学校新校舎竣工(普19)
33	4	木下中学校、大森中学校、永治中学校を統合して印西中学校を開校する。(永治中学校は分校とする)	59	3	船穂中学校新校舎竣工(普15)
34	4	印西中学校永治分校を廃止する	59	4	印西町立木刈小学校開校(273名、9学級) 印西町立内野小学校開校(145名、6学級) 印西町立木刈中学校開校(66名、3学級) 高花学校給食センター開設
35	4	永治公民館開館	61	8	印西中学校新校舎竣工(普18)
37	3	船穂中学校増築校舎竣工(普7)	61	10	印旛歴史民俗資料館開館
37	4	印西中スクールバス運行開始	62	4	中央駅前公民館開館
38	3	小林公民館開館	62	8	大森小学校第一校舎大規模改修工事完了
39	3	船穂小学校武西分校廃止	63	4	松山下公園に全天候型テニスコート完成
41	4	大森幼稚園開園	平成元	2	草深小学校増築校舎竣工
44	7	船穂中学校増築校舎落成(普2)	元	4	原山小学校が内野小学校より分離開校する (447名、13学級) 木刈小学校増築校舎竣工(普12)
44	10	中央公民館開館(旧)	元	8	内野小学校増築校舎竣工(普6)
45	6	宗像小学校新校舎落成(普8)	2	2	船穂小学校増築校舎竣工
46	4	大森小学校第一校舎竣工(普15)	2	4	平賀小学校が六合小学校より分離開校する (73名、6学級) 小林中学校が印西中学校より分離開校する (253名、8学級) 原山中学校が船穂中学校より分離開校する (328名、10学級)
47	6	船穂小学校校舎落成	3	3	木刈中学校第二期校舎完成(普12)
49	4	本埜中学校新校舎竣工(普6)	3	4	小林北小学校が小林小学校より分離開校する (499名、17学級) 小倉台小学校が木刈小学校より分離開校する (178名、7学級) 高花小学校が原山小学校より分離開校する (566名、17学級)
49	8	草深小学校校舎竣工(普6)	3	7	松山下公園陸上競技場完成
50	4	六合中学校、宗像中学校を統合して印旛中学校を開校する	4	3	小林北小学校プレハブ校舎増築(普3) 船穂中学校増築校舎竣工
51	4	瀬戸幼稚園開園	5	3	原山中学校増築校舎竣工(普6)
51	9	印西市役所庁舎竣工(現)	5	4	印旛学校給食センター開設
51	10	印旛公民館開館	5	10	本埜中学校校舎大規模改修工事完了
52	3	大森小学校第一校舎増築校舎竣工	平成6	3	印旛中学校増築校舎竣工 小倉台小学校増築校舎竣工(普6)
52	6	宗像小学校増築校舎竣工	6	4	西の原小学校開校(175名、7学級) 西の原中学校開校(38名、3学級)
53	8	本埜第二小学校に本埜村給食センター設置	6	7	文化ホール開館

※普：普通教室増減数

年	月	学校関係・教育施設・組織等	年	月	学校関係・教育施設・組織等
6	10	大森図書館開館	24	4	中央駅前公民館を廃止し中央駅前地域交流館として開館
7	3	高花小学校増築校舎竣工(普4)	25	7	いずみ公園パークゴルフ場完成
7	4	本埜幼稚園開園 小林北小学校プレハブ校舎撤去	26	4	木刈小学校が自校給食を終了し、センター給食化
7	5	小林公民館開館	26	11	木刈中学校校舎大規模改修工事完了
7	6	小林図書館開館	27	3	印西中スクールバス廃止
8	3	小林中学校増築校舎竣工(普3)	27	4	原小学校より牧の原小学校が分離開校(61名、6学級)
8	4	市制施行に伴い、印西町立小中学校が印西市立小中学校となる 原小学校開校(57名、7学級) 牧の原学校給食センター開設	28	4	木下交流の杜歴史資料センター開所
9	4	本埜村立本埜公民館開設 松山下公園野球場完成 滝野小学校開校(131名、6学級) 滝野中学校開校(34名、3学級) 滝野学校給食センター開所 市役所に部制施行	28	9	市内全小学校普通教室空調設備設置完了
10	3	西の原小学校増築校舎竣工(普6)	28	10	新教育委員会制度による新「教育長」設置
10	12	そうふけ公民館開館	29	2	船穂中学校校舎大規模改修工事完了(普▲6) 市内全中学校普通教室空調設備設置完了
11	2	そうふけ図書館開館	29	3	永治小学校が木刈小学校と統合し閉校する 大森幼稚園が閉園 視聴覚ライブラリー閉館
12	3	印旛中学校増築校舎竣工(普9)	29	8	中央学校給食センターが開所し、高花・本埜・滝野の3センター開所
12	4	いには野小学校開校(57名、6学級) 本埜学校給食センター開所	29	12	木刈小学校校舎大規模改修工事完了
12	6	小倉台図書館開館	30	2	市内全小学校トイレ改修工事完了
13	2	市内全小学校でインターネット接続可能となる	30	3	小倉台小学校増築校舎竣工(普8)
14	3	大森小学校、小林小学校が自校給食を終了し、センター給食化	31	3	宗像小学校がいには野小学校と統合し閉校する 本埜第一小学校と本埜第二小学校が閉校する 原小学校増築校舎竣工(普6) 市内全中学校トイレ改修工事完了
15	3	草深小学校が西の原小学校に統合され閉校する	31	4	本埜第一小学校と本埜第二小学校の学区を合わせて本埜小学校が開校する(95名、6学級) スポーツ振興課が市長部局に移る
15	4	本埜図書館開館 庶務課を教育総務課とする 社会教育課、保健体育課を統合し、生涯学習スポーツ課とする。その際、学校保健と給食センターが学校教育課の管轄となる。	令和2	3	西の原中学校増築校舎竣工(普8)
16	1	印旛図書館開館	3	2	文化ホール・大森図書館大規模改修工事完了
16	3	西の原中学校増築校舎竣工 大森小学校増築校舎竣工	3	3	木刈中学校増築校舎竣工(普8)
17	4	教育センター開所(そうふけふれあいの里)	4	3	牧の原小学校増築校舎竣工(普11)
19	4	生涯学習スポーツ課を生涯学習課とスポーツ振興課に分離する	4	4	学校給食課が新設され、給食センターが学校給食課の管轄となる
22	3	印西市、印旛村、本埜村が合併し、新しい「印西市」誕生 松山下公園総合体育館開館	4	8	原小学校増築校舎竣工(普10)
22	4	学校教育課を学務課と指導課に分離する	5	2	原山中学校大規模改修工事完了
22	12	内野小学校校舎大規模改修工事完了	5	3	滝野中学校増築校舎竣工(普13)

※普：普通教室増減数

印西市立幼・小・中学校医，学校歯科医，学校薬剤師 及び管理校医一覧表

任 期 令和4年4月 1日から
令和6年3月31日まで

	学校名	学校医(内科) 管理校医◎	学校医 (眼科)	学校医 (耳鼻咽喉科)	学校歯科医	学校薬剤師
1	木下小学校	大久保 裕司 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	谷岡 芳江	五十嵐 太郎
2	小林小学校	河内 雅章 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	杉田 茂	遠藤 恵子
3	大森小学校	大久保 裕司 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	大越 学	鈴木 幸恵
4	船穂小学校	鈴木 洋一 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	坂巻 由紀子	河北 訓幸(R5~)
5	内野小学校	肥田 高嶺 ◎	斉藤 仁	増野 聡	明石 豪	五十嵐 太郎
		木下 舞				
6	木刈小学校	小林 重芳 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	加藤 友輔	鈴木 幸恵
7	原山小学校	山室 美砂子 ◎	斉藤 仁	増野 聡	宮本 幹雄	麻生 敏
8	高花小学校	岩井 力 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	堀江 恭一	河北 訓幸
9	小林北小学校	安部 昌宏 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	川村 成章	遠藤 恵子
10	小倉台小学校	山本 浩仁郎 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	飯塚 真司	土谷 怜那
		浅野 健				
		池田 太郎(R5~)				
11	西の原小学校	岡庭 信一 ◎	斉藤 仁	増野 聡	荻原 弘樹	麻生 敏
		浦島 崇				
12	原小学校	伊東 聡行 ◎	斉藤 仁	増野 聡	内田 賢	宝田 敏博
		大久保 知美			谷岡 芳江	
		木下 量介				
13	六合小学校	石橋 淑子 ◎	斉藤 仁	小町 太郎	木村 領太	村上 和代
14	平賀小学校	津金澤 俊和 ◎	斉藤 仁	小町 太郎	明石 豪	佐藤 秀哉
15	いには野小学校	石橋 淑子 ◎	斉藤 仁	小町 太郎	川村 成章	宝田 敏博
16	滝野小学校	久山 登 ◎	斉藤 仁	小町 太郎(R5~)	齋藤 武人	村上 綾子(R5~)
17	牧の原小学校	安部 昌宏 ◎	田那村 聡	増野 聡	坂巻 由紀子	石丸 佑香里
		浦島 崇				
18	本埜小学校	清宮 康嗣 ◎	斉藤 仁	小町 太郎(R5~)	本内 文朗	山本 祐子
19	印西中学校	佐藤 千代子 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	月野和 隆	永井 美奈子
20	船穂中学校	松信 精一 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	谷岡 芳江	土谷 怜那
21	木刈中学校	富井 仁美 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	杉田 茂	永井 美奈子
		林 宏紀			野崎 健太郎(R5~)	
22	小林中学校	坂東 功一 ◎	斉藤 仁	土屋 英明	内田 賢	佐藤 秀哉
23	原山中学校	肥田 高嶺 ◎	斉藤 仁	増野 聡	宮本 幹雄	中村 登志子
24	西の原中学校	奈良 仲哲 ◎	斉藤 仁	増野 聡	小川 信太郎	河北 訓幸
		高橋 明子				
25	印旛中学校	石橋 淑子 ◎	斉藤 仁	小町 太郎	木村 領太	麻生 敏
26	本埜中学校	坂東 功一 ◎	斉藤 仁	小町 太郎(R5~)	大沢 良之	山本 祐子
27	滝野中学校	林 宏紀 ◎	斉藤 仁	小町 太郎(R5~)	齋藤 武人	村上 綾子(R5~)
28	瀬戸幼稚園	石橋 淑子 ◎	斉藤 仁		佐藤 勝彦	村上 和代
29	もとの幼稚園	茆原 弘光 ◎	斉藤 仁		谷岡 芳江	中村 登志子

令和5年10月1日現在

印西市教育委員会点検評価委員

任期 令和4年4月 1日から
令和6年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	井上 愛一郎	学校教育関係者	2	後藤 譲	社会教育関係者

印西市立図書館協議会委員

任期 令和4年6月 1日から
令和6年5月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	安川 徹	学校教育関係者	6	倉沢 正則	学識経験者
2	竹原 淳子	学校教育関係者	7	黒澤 真澄	学識経験者
3	永田 望	学校教育関係者	8	関口 佳穂里	学識経験者
4	武井 榮子	社会教育関係者	9	石渡 美香	学識経験者
5	石ヶ谷 康子	学識経験者	10	栗山 由香	公募委員

印西市文化ホール運営会議委員

任期 令和4年6月 1日から
令和6年5月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	森下 康彦	小中学校長代表	6	荻原 孝恵	知識経験者
2	伊藤 敦子	芸術文化団体代表	7	鈴木 累意	知識経験者
3	岩井 義春	芸術文化団体代表	8	住田 裕子	知識経験者
4	高橋 きよ子	芸術文化団体代表	9	中島 由美	公募委員
5	伊藤 克彦	知識経験者	10	山本 裕子	公募委員

印西市社会教育委員

任期 令和5年4月 1日から
令和7年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	菊地 愛子	学識経験者	11	小島 洋子	家庭教育関係者
2	河村 剛光	学識経験者	12	片倉 恵美子	社会教育関係者
3	松崎 比呂美	学識経験者	13	小林 康子	社会教育関係者
4	石川 久美子	学識経験者	14	横田 哲郎	社会教育関係者
5	押田 正雄	学識経験者	15	山本 信秀	市民公募委員
6	馬場 みどり	学識経験者	16	青井 眞吾	市民公募委員
7	松山 徹	学識経験者	17	今野 美喜子	学校教育関係者
8	高橋 克	学識経験者	18	香取 伸嘉	学校教育関係者
9	箱崎 美貴	学識経験者	19	佐藤 和隆	学校教育関係者
10	浅倉 美博	学識経験者			

印西市公民館運営審議会委員

任期 令和5年4月 1日から
令和7年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	門脇 英貴	学校教育関係者	9	畑中 由美子	社会教育関係者
2	泉水 真由美	学校教育関係者	10	豊田 文子	社会教育関係者
3	佃 正男	社会教育関係者	11	長尾 さおり	家庭教育関係者
4	油原 紀子	社会教育関係者	12	美馬 光美	家庭教育関係者
5	嘉藤 弘子	社会教育関係者	13	常光 康介	学識経験者
6	富井 康夫	社会教育関係者	14	中嶋 加奈江	学識経験者
7	松山 悦子	社会教育関係者	15	白井 豊	学識経験者 (公募委員)
8	矢野 忠行	社会教育関係者	16	小泉 雅由	学識経験者 (公募委員)

印西市青少年問題協議会委員

任期 令和5年4月 1日から
令和7年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	大木 弘	教 育 長	6	齋藤 誠一	学 識 経 験 者
2	伊 東 誠	関係行政機関職員	7	渡邊 和子	学 識 経 験 者
3	宮嶋 貴男	学 識 経 験 者	8	小川 知己(※)	学 識 経 験 者
4	御子柴 寛	学 識 経 験 者	9	板倉 正直	市 長
5	齋藤 郁世	学 識 経 験 者			

※任期：令和5年6月1日から令和7年3月31日まで

印西市立印旛歴史民俗資料館運営委員会委員

任期 令和4年4月 1日から
令和6年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	松原 一弘	学校教育関係者	4	進藤 泰浩	学 識 経 験 者
2	内藤 幸一	学 識 経 験 者	5	小林 裕美	学 識 経 験 者
3	早川 博史	学 識 経 験 者			

印西市文化財審議会委員

任期 令和5年4月 1日から
令和7年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	一島 正真	知 識 経 験 者	5	高橋 克	知 識 経 験 者
2	岡崎 浩子	知 識 経 験 者	6	富田 瑞樹	知 識 経 験 者
3	滋賀 秀實	知 識 経 験 者	7	石井 明子	知 識 経 験 者
4	酒井 弘志	知 識 経 験 者	8	外山 信司	知 識 経 験 者

印西市史編さん委員会委員

任期 令和4年4月 1日から
令和6年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	中澤 恵子	知識経験者	5	大友 一雄	知識経験者
2	鏑木 行廣	知識経験者	6	岩井 一民	知識経験者
3	木村 修	知識経験者	7	伊藤 哲之	知識経験者
4	榎 美香	知識経験者	8	高花 宏行	知識経験者

第21期 千葉県・印西市青少年相談員

任期 令和4年4月 1日から
令和7年3月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	板倉 裕幸	木下小学校区	15	和田 貴行	小林北小学校区
2	三門 健一	木下小学校区	16	石井 光	小林北小学校区
3	鈴木 徹	木下小学校区	17	蛭田 和花子	小林北小学校区
4	宮嶋 真太郎	大森小学校区	18	野口 光弘	小林小学校区
5	山崎 孝雄	大森小学校区	19	森本 眞喜	小林小学校区
6	武藤 博紀	大森小学校区	20	川村 健一	小林小学校区
7	地曳 源太	大森小学校区	21	川村 伸一郎	小林小学校区
8	柳沼 正志	大森小学校区	22	鈴木 寧子	小林小学校区
9	横尾 信一	船穂小学校区	23	堀本 桂	木刈小学校区
10	大野 宏樹	船穂小学校区	24	板倉 操	木刈小学校区
11	齊藤 利裕	高花小学校区	25	平山 菜津美	木刈小学校区
12	今井 健二	高花小学校区	26	畑中 由美子	木刈小学校区
13	大野 喜弘	高花小学校区	27	伊藤 恵美子	小倉台小学校区
14	伊東 章	小林北小学校区	28	瀬川 裕介	小倉台小学校区

29	佐久間 成	小倉台小学校区	55	川砂 和俊	いには野小学校区
30	阿部 裕子	小倉台小学校区	56	櫻井 修一	いには野小学校区
31	伊藤 歩実	小倉台小学校区	57	島田 佳育	いには野小学校区
32	小林 康子	内野小学校区	58	松本 和明	いには野小学校区
33	五十嵐 正孝	内野小学校区	59	田中 守	いには野小学校区
34	中溝 典子	内野小学校区	60	本橋 克重	本埜小学校区
35	諸藤 朋子	原山小学校区	61	五十嵐 儀斉	本埜小学校区
36	飯塚 益美	原山小学校区	62	椎名 隆範	本埜小学校区
37	川村 怜	原山小学校区	63	津田 直樹	本埜小学校区
38	佐野 多絵子	原山小学校区	64	植木 浩	本埜小学校区
39	青木 祐二	西の原小学校区	65	菅原 裕介	本埜小学校区
40	池上 秀雄	西の原小学校区	66	野崎 美枝	本埜小学校区
41	荒川 竜也	西の原小学校区	67	若尾 美保	本埜小学校区
42	樋口 雄二	西の原小学校区	68	荒井 範子	本埜小学校区
43	下小菌 聡	西の原小学校区	69	山口 千春	本埜小学校区
44	赤堀 久理子	原小学校区	70	和田 憲子	本埜小学校区
45	酒井 亜希子	原小学校区	71	伊豆田 宏之	本埜小学校区
46	中谷 哲也	原小学校区	72	齋藤 誠一	滝野小学校区
47	平山 貴光	六合小学校区	73	長谷川 和己	滝野小学校区
48	石山 直樹	六合小学校区	74	木村 伸善	牧の原小学校区
49	平山 和良	六合小学校区	75	照内 嘉治	牧の原小学校区
50	泉田 隆之	六合小学校区	76	山本 真史	牧の原小学校区
51	久古 聖司	六合小学校区	77	土屋 勝樹	牧の原小学校区
52	円城寺 隆	平賀小学校区	78	土井 悟	牧の原小学校区
53	阿部 宏行	いには野小学校区	79	細江 耕次郎	滝野小学校区
54	岩井 一弥	いには野小学校区	80	齋藤 理恩	滝野小学校区

印西市学校給食センター運営委員会委員

任期 令和4年7月 1日から
令和6年6月30日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	白井 昌章	校長会代表	6	石丸 佑香里	知識経験者
2	吉野 高明	校長会代表	7	花安 利章	知識経験者
3	小林 梨紗	保護者代表	8	熊切 奈々	知識経験者
4	西岡 博満	保護者代表	9	藤崎 喜仁	知識経験者
5	秋谷 有希	保護者代表			

印西市学校適正配置審議会委員

任期 令和5年5月 1日から
令和7年4月30日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	桜井 繁光	知識経験者	4	井上 愛一郎	知識経験者
2	内田 圭子	知識経験者	5	佐久間 庸夫	知識経験者
3	押田 香代子	知識経験者	6	渡邊 義規	知識経験者

学校体育施設開放運営委員会委員

任期 令和5年6月 1日から
令和7年5月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	小田 英紀	開放学校長代表	5	年代 豊	スポーツ協会代表
2	市村 昇	スポーツ推進委員代表	6	加藤 啓輔	市PTA連絡協議会代表
3	須藤 和子	スポーツ推進委員代表	7	根本 裕美子	市PTA連絡協議会代表
4	齊藤 詔一	スポーツ協会代表			

印西市いじめ問題対策連絡協議会委員

任期 令和5年6月 1日から
令和7年5月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	大木 弘	教 育 長	9	金森 紀美子	関係行政機関職員
2	花屋 哲郎	学 識 経 験 者	10	加藤 啓輔	保 護 者 代 表
3	野田 幸一	学 識 経 験 者	11	伴 火穂	学校教育関係者
4	増田 洋子	学 識 経 験 者	12	弘海 由香	学校教育関係者
5	上條 眞由美	人権擁護団体代表	13	岡田 光靖	学校教育関係者
6	篠澤 和貴	関係行政機関職員	14	磯 昌稔	学校教育関係者
7	高橋 佐和子	関係行政機関職員	15	牧田 江美	学校教育関係者
8	松尾 一絵	関係行政機関職員			

印西市いじめ防止対策委員会委員

任期 令和5年6月 1日から
令和7年5月31日まで

番号	氏名	備考	番号	氏名	備考
1	磯野 史大	学 識 経 験 者	4	塚田 昌幸	学 識 経 験 者
2	松浦 俊弥	学 識 経 験 者	5	中嶋 加奈江	学 識 経 験 者
3	久山 登	学 識 経 験 者			

令和5年度 いんざいの教育

発行日 令和5年10月
編集・発行 印西市教育委員会
印西市大森2364-2
電話0476(42)5111

